

# 地域リハビリテーション関係機関 調査結果(詳細版)

# 地域リハビリテーション推進のための 関係機関調査(市町村)

対象数 54市町村 回答数54市町村  
回答率100%

## 問1 各事業を所掌する課

所掌事業	担当課
高齢者の健康増進	別紙のとおり ※調査実施後、H27.4.1現在に 時点更新済み
介護予防	
地域包括ケアの推進	
認知症施策の推進	
高次脳機能障害	
口腔・摂食、嚥下に係る取組	

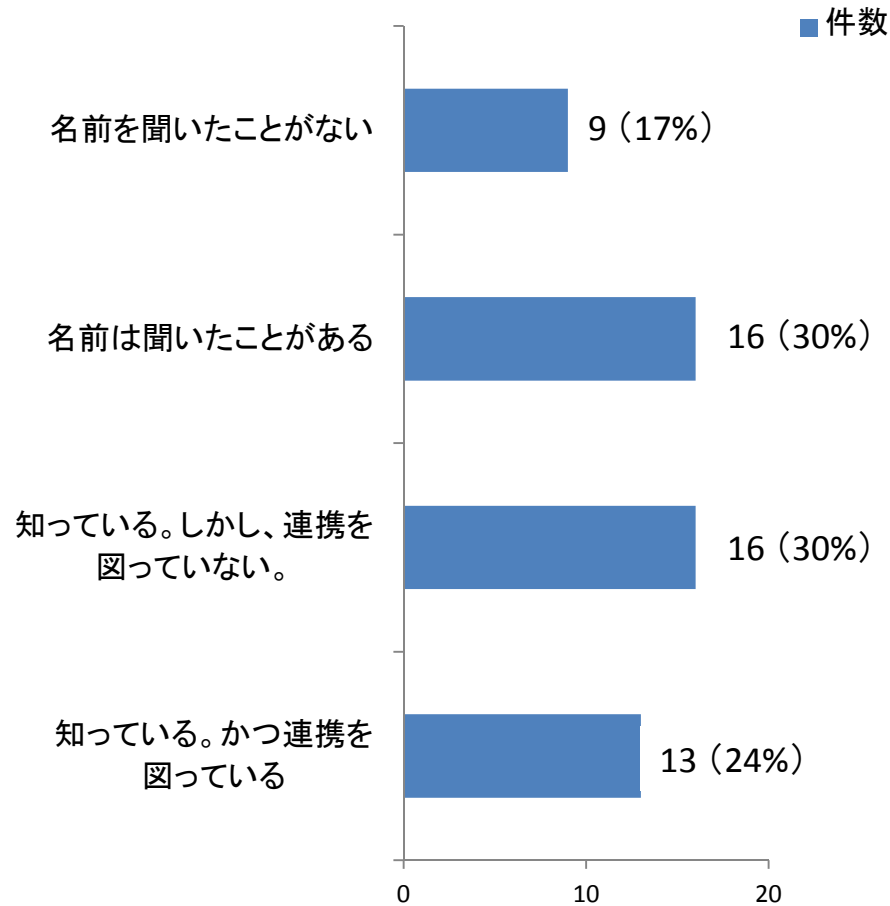
## 問2 リハビリ関連職の配置状況について

医療圏	圏域別 市町村数	リハビリ関連職が配置されている市町村数																		その他職種等
		PT	成人	小児	OT	成人	小児	ST	成人	小児	歯科 衛生士	成人	小児	看護師	成人	小児	その他	成人	小児	
千葉	1	1	1	1			1		1											
東葛南部	6	6	2	6	5	1	5	4		4	5	3	2	3	1	3	3	2	3	物理療法士 心理発達相談員 保健師
東葛北部	5	4	3	4	3	3	3	3	1	3	2	2	2	3	1	3	2	1	2	視能力訓練士 心理相談員
印旛	9	6	5	4	2		2	5		5	6	5	5	3	2	2	2	2	2	管理栄養士 保健師
香取海匝	7										2	2	2	2	2	2				
山武長生 夷隅	17	1	1								3	3	2	2	2	1	1	1	1	保健師
安房	4																			
君津	4										2	2	2							保健師
市原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1					
計	54	19	13	16	11	5	11	14	2	14	21	17	16	14	9	12	8	6	8	

※各市町村所掌課別のリハビリ関連職の配置状況については、別紙参照  
(調査実施後、H27.4.1現在に時点更新済み)

### 問3 広域支援センターとの現在の関係

広域支援センターとの現在の関係

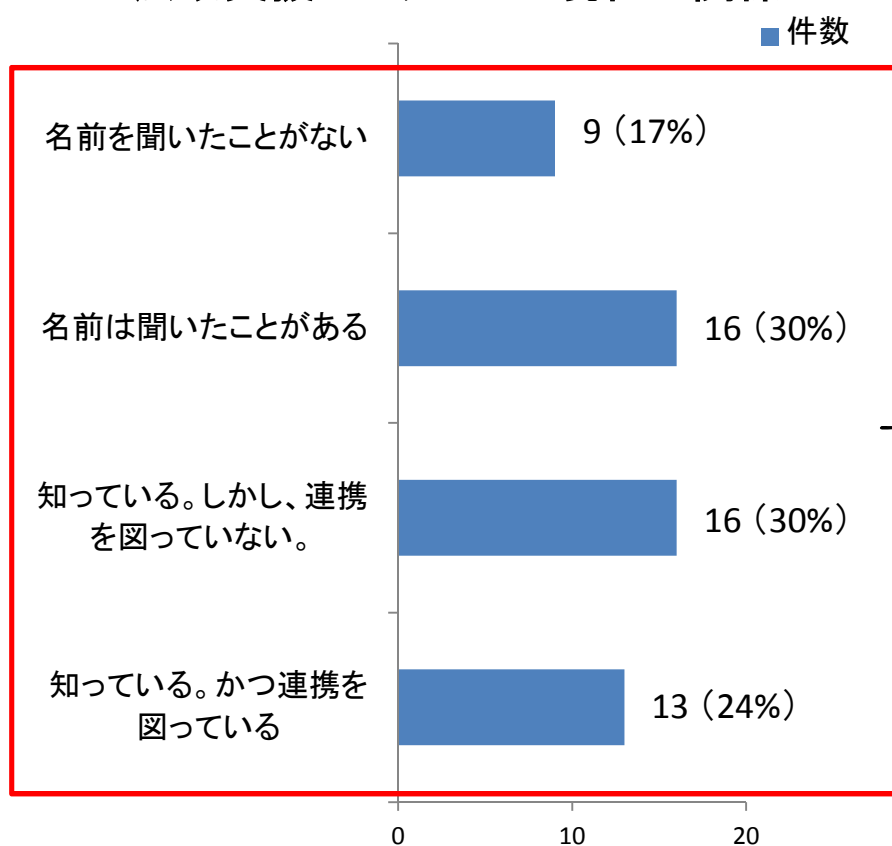


設問	H19	H26
①知っていて連携あり	3	13
②知っていて連携なし	31	16

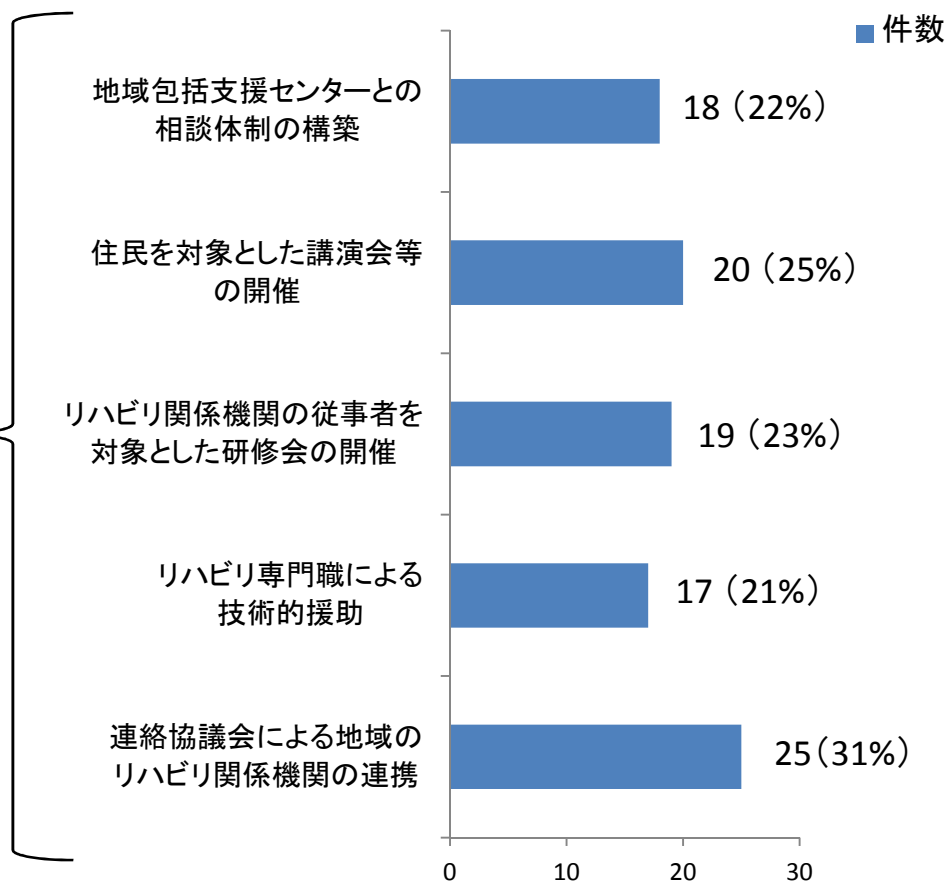
- 広域支援センターを知っており、かつ連携を図っている割合は24% (13市町村)
- 広域支援センターを知っているが、連携を図っていない割合は30% (16市町村)
- 名前を聞く程度30% (16市町村)
- 名前を聞いたことない17% (9市町村)

# 問3-1 広域支援センターで実施している事業の認知度

## 広域支援センターとの現在の関係

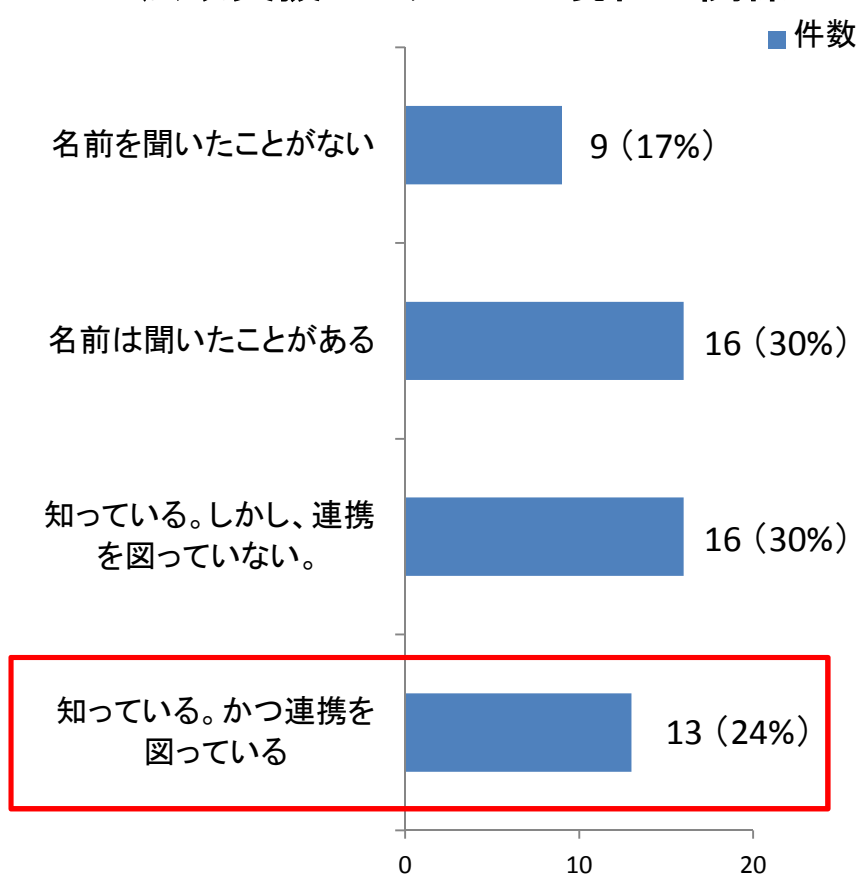


## 広域支援センター事業別認知度(複数回答)

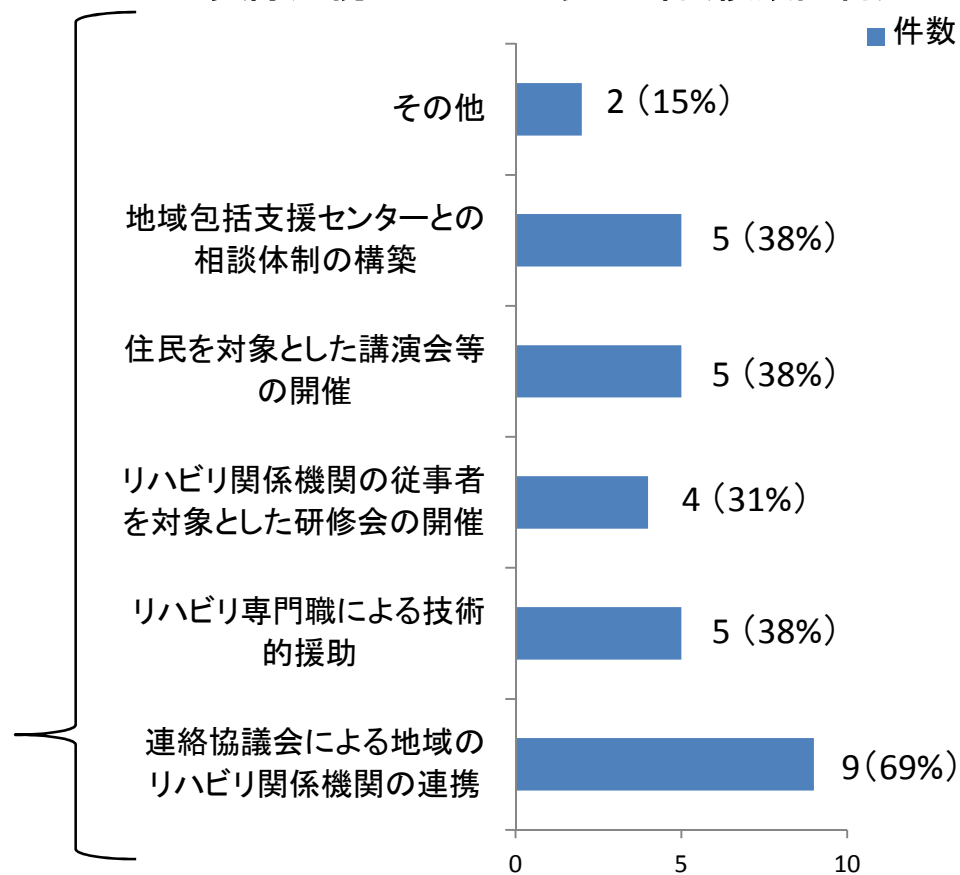


## 問3-2 広域支援センターと実際連携したことのある事業内容

### 広域支援センターとの現在の関係

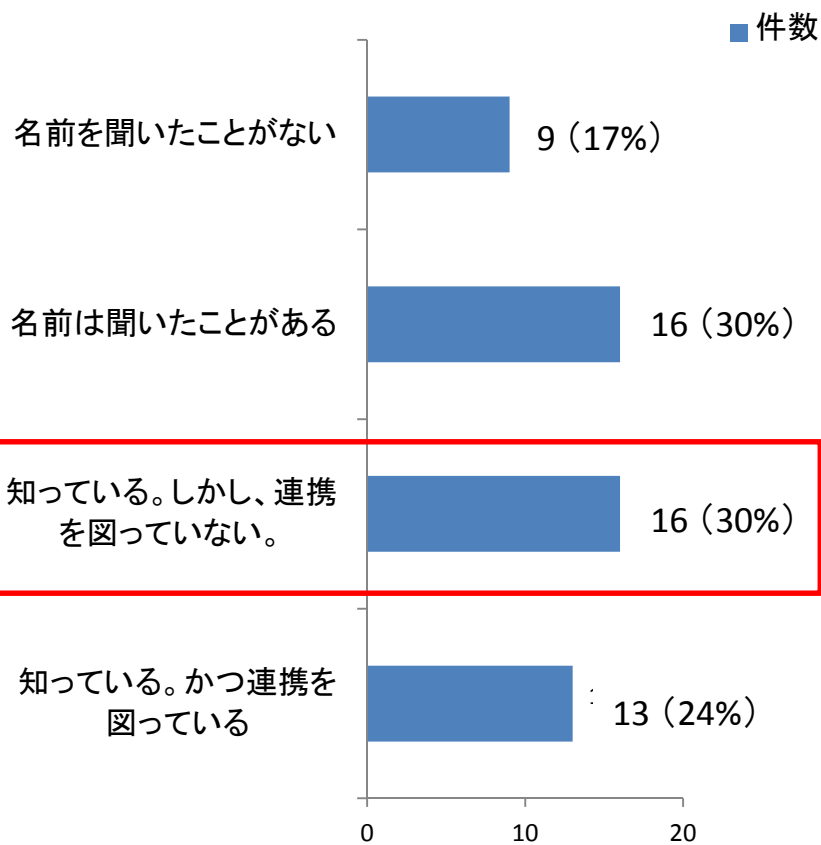


### 実際連携したことのある内容(複数回答)

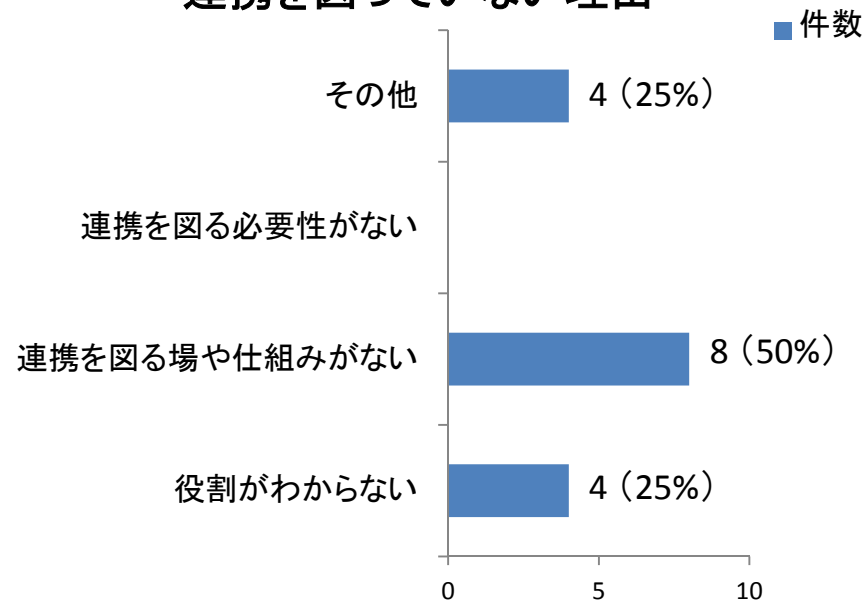


### 問3-3 広域支援センターと連携を図っていない理由

広域支援センターとの現在の関係



連携を図っていない理由



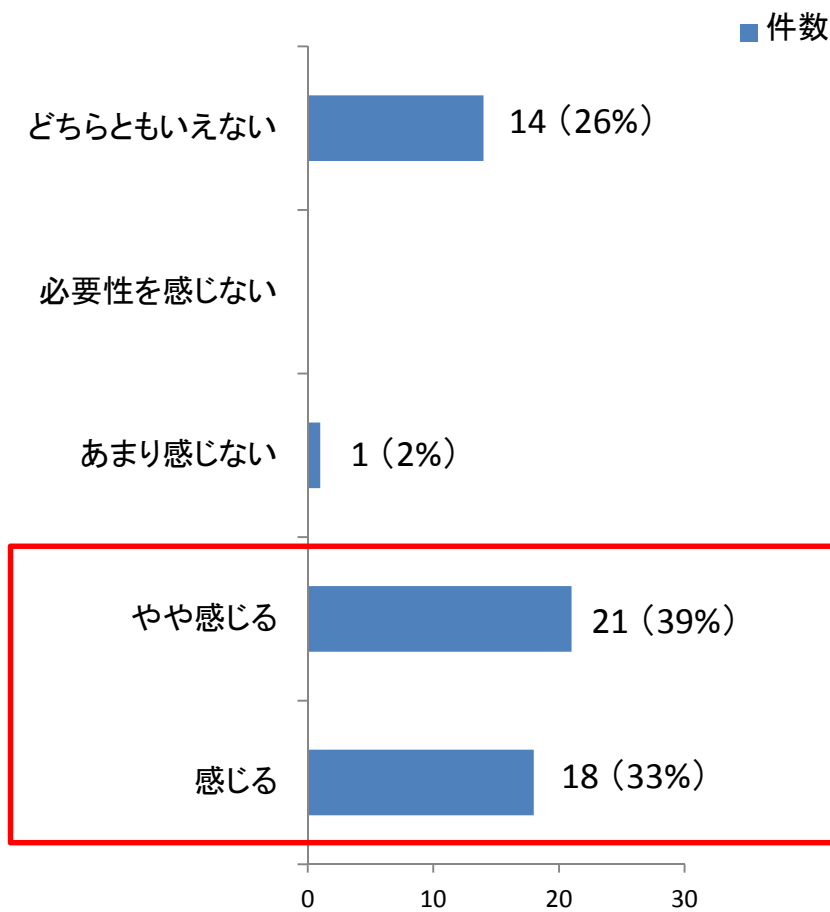
その他の理由

- ・福祉総合相談センターが窓口で連携している。
- ・広域支援センター以外のリハビリと協議することがある。事業に協力してもらっている。
- ・介護予防多職種連携会議等において、リハビリ専門職の助言を得られる状況にある。
- ・特別な事例がない。



## 問4 広域支援センターとの今後の連携の必要性

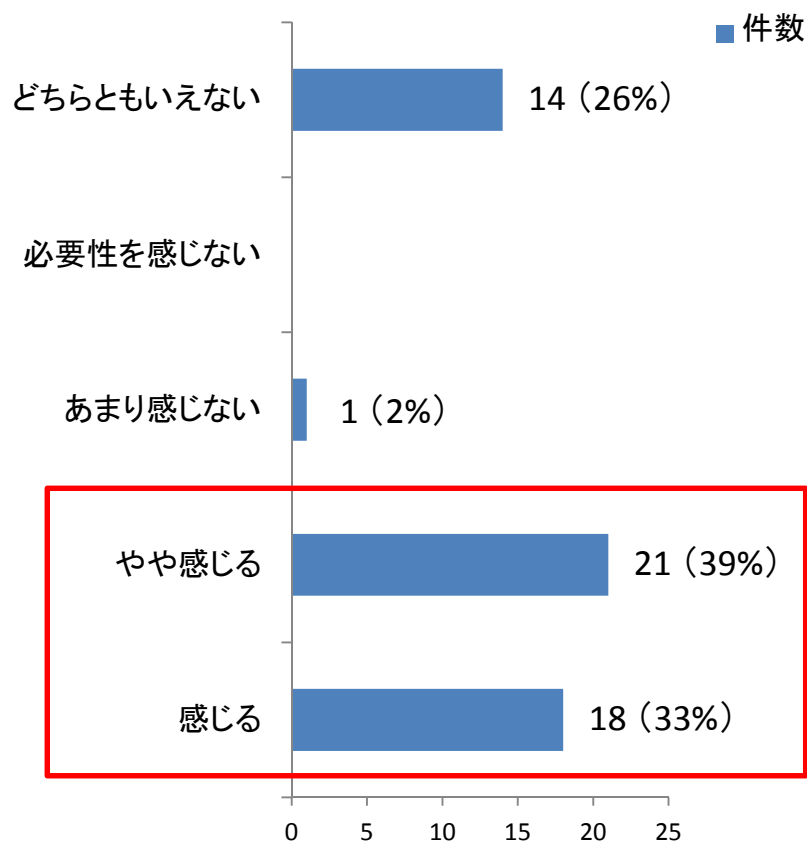
広域支援センターとの連携の必要性



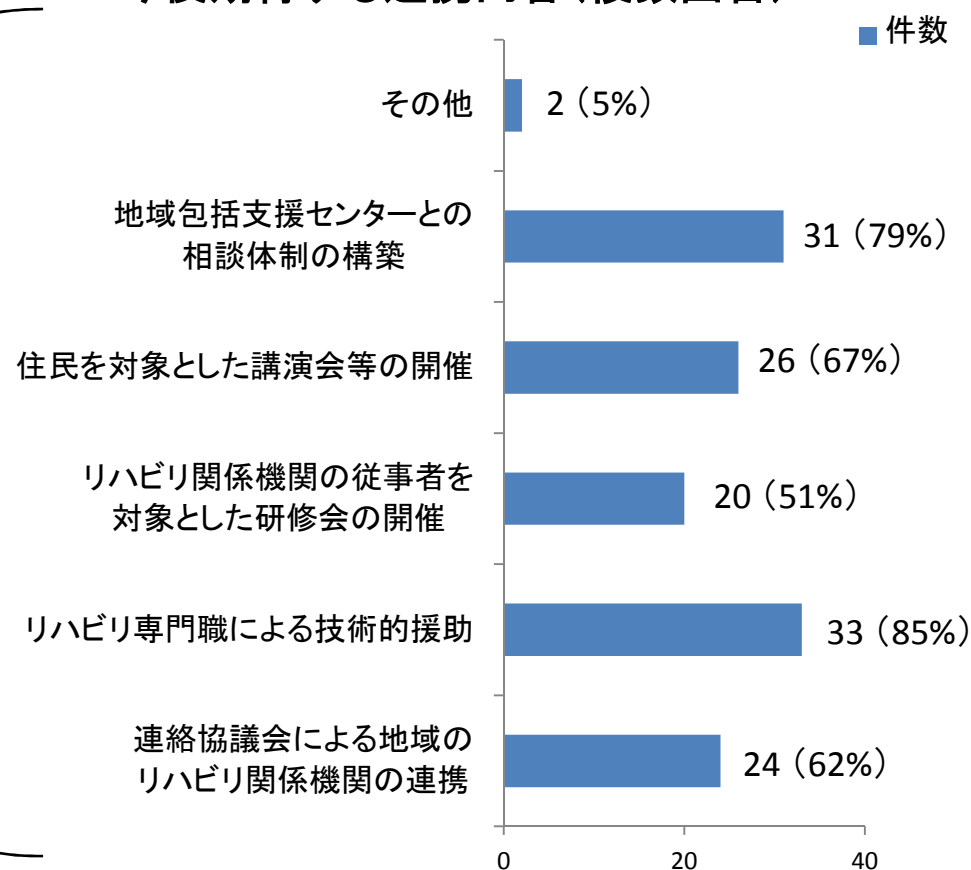
- 今後、連携の必要性について、72% (39市町村) が「感じる」、「やや感じる」と回答した。

# 問4-1 広域支援センター業務のうち連携を図りたい事業内容

## 広域支援センターとの連携の必要性

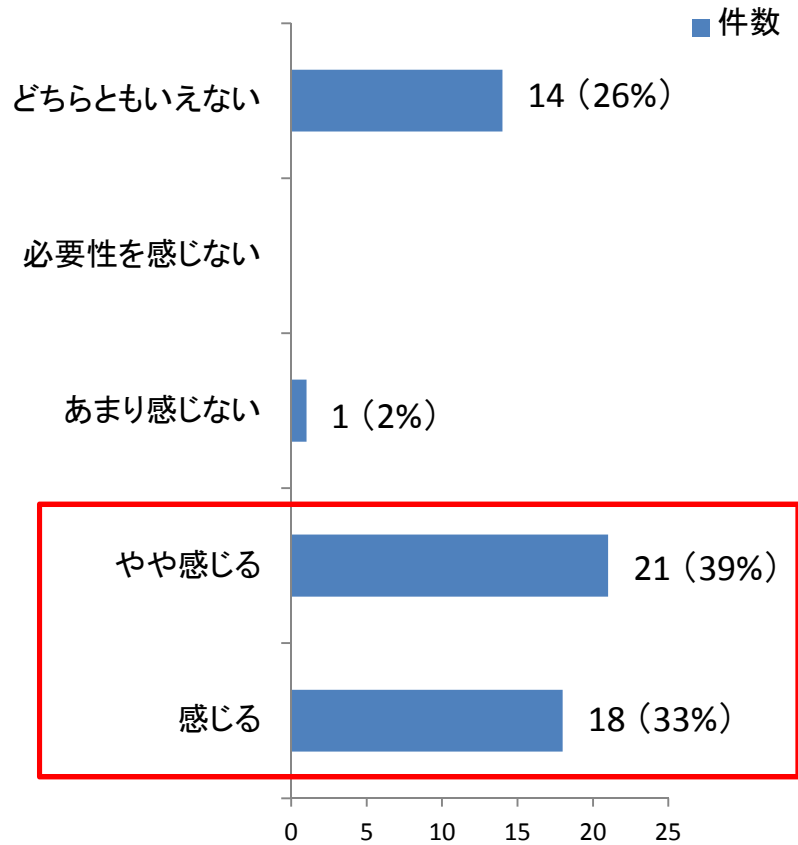


## 今後期待する連携内容(複数回答)

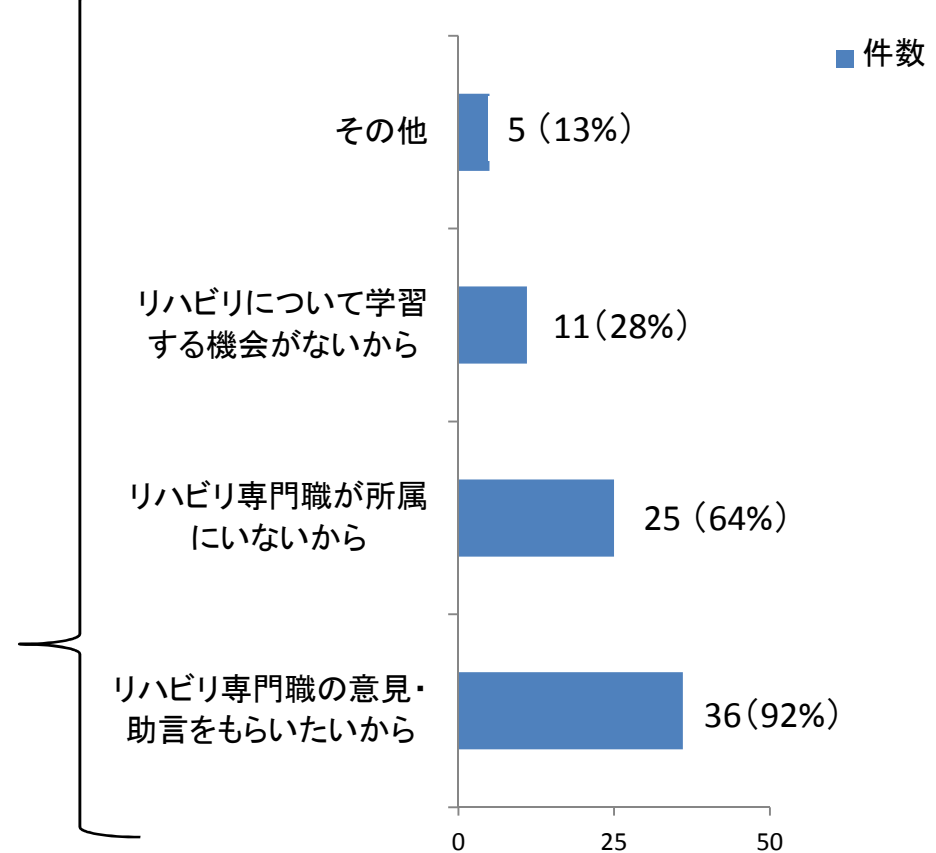


## 問4-2 広域支援センターと連携を図りたい理由

### 広域支援センターとの連携の必要性

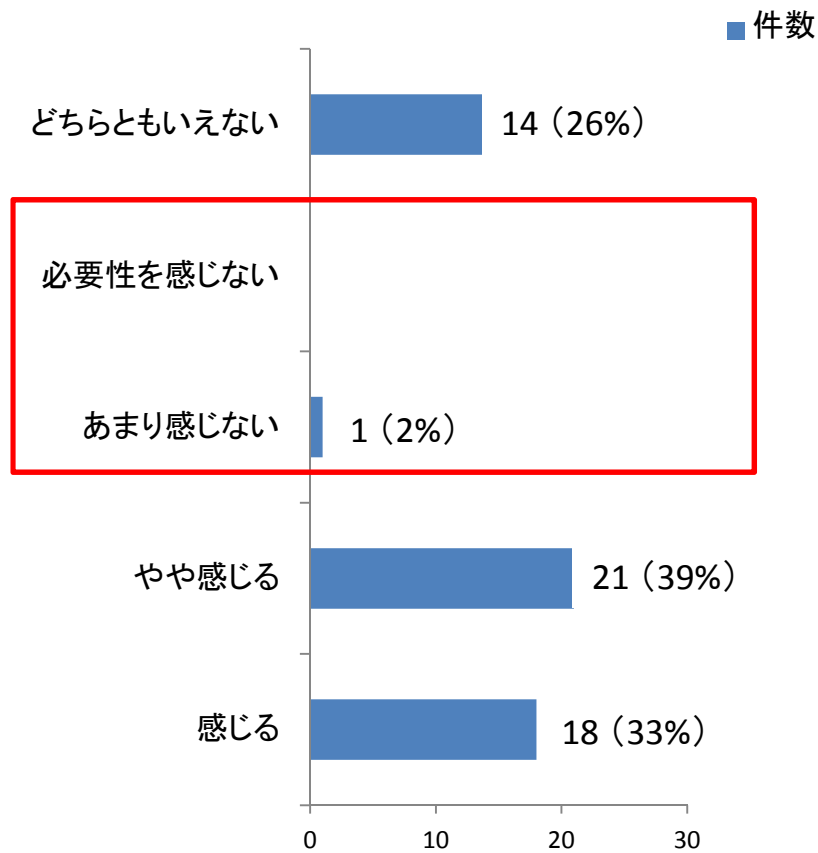


### 連携を図りたい理由(複数回答)

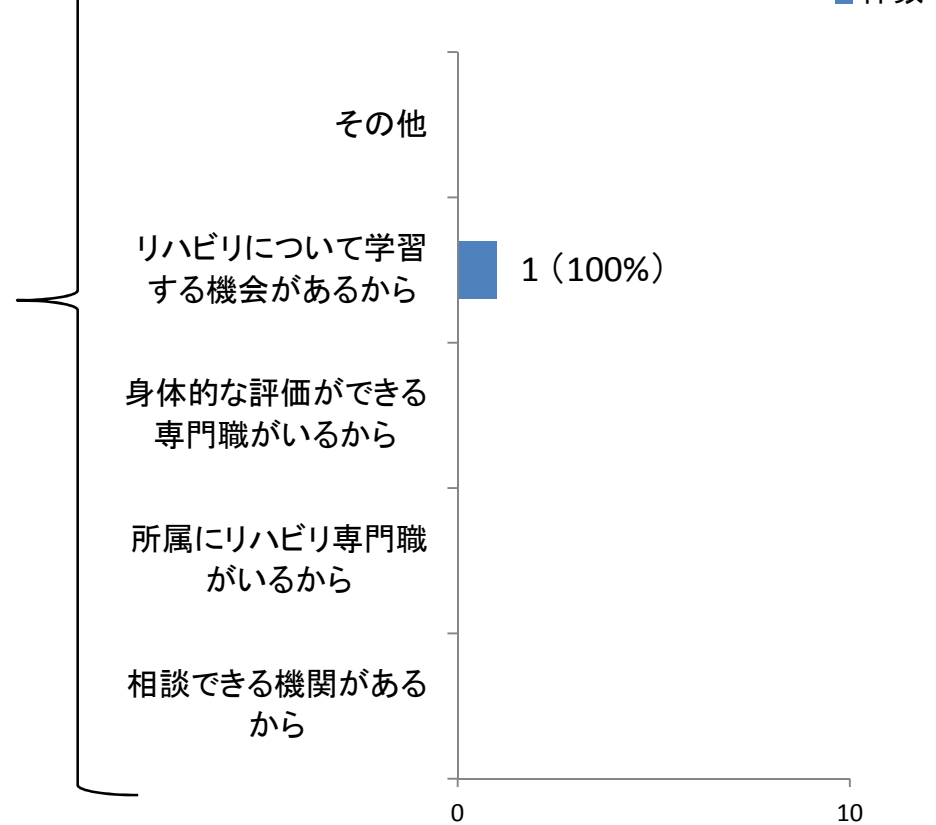


## 問4-3 広域支援センターと連携の必要性を感じない理由

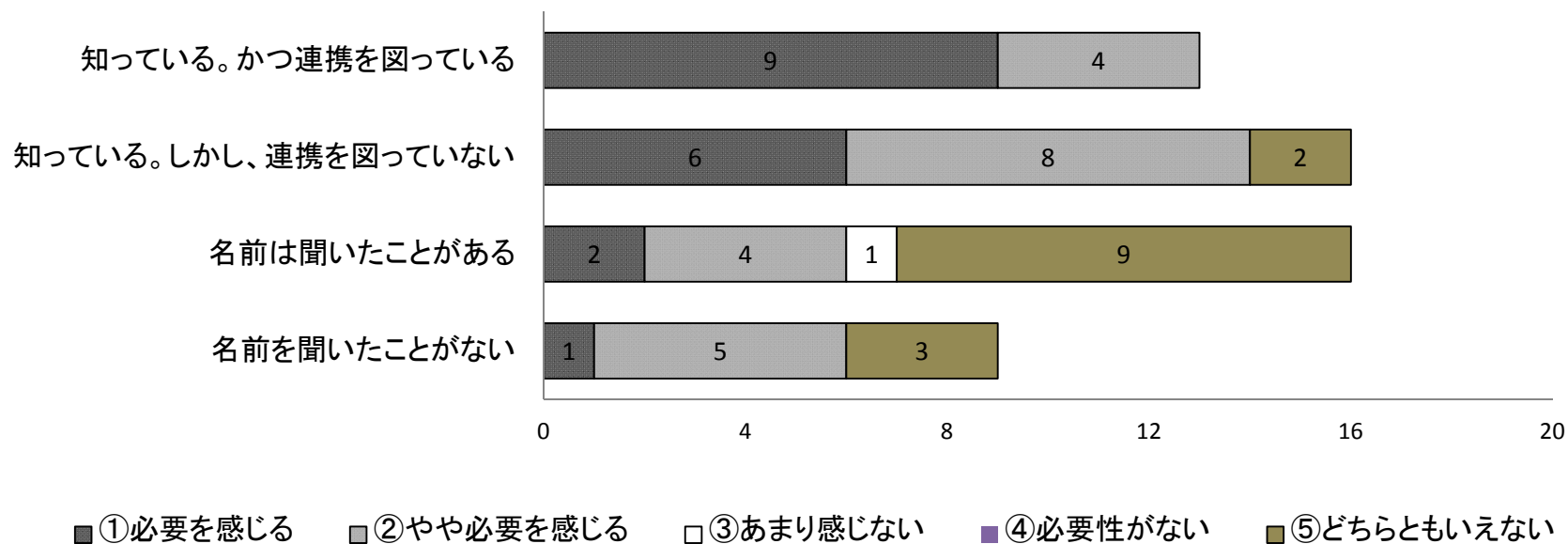
### 広域支援センターとの連携の必要性



### 連携の必要性を感じない理由 (複数回答)



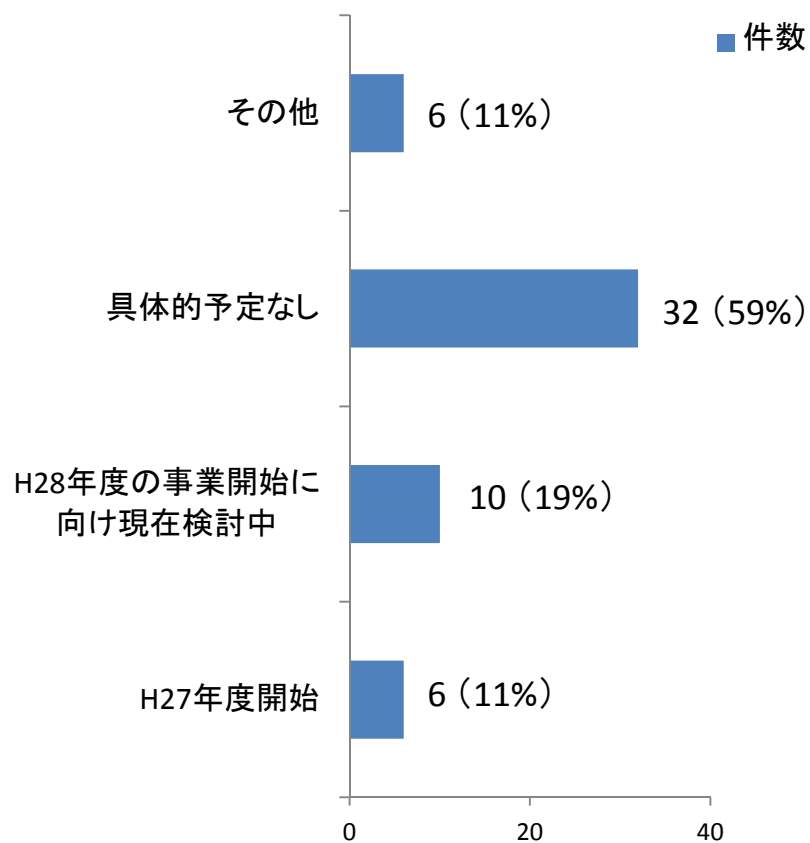
# 広域支援センターとの「現在の関係(問3)」と「今後の連携の必要性(問4)」との関連



現在の関係 \ 今後の連携	①必要を感じる	②やや必要を感じる	③あまり感じない	④必要性がない	⑤どちらともいえない	計
知っている。かつ連携を図っている	9	4	0	0	0	13
知っている。しかし、連携を図っていない	6	8	0	0	2	16
名前は聞いたことがある	2	4	1	0	9	16
名前を聞いたことがない	1	5	0	0	3	9
計	18	21	1	0	14	54

# 問5 地域リハビリテーション活動支援事業の実施予定

地域リハビリテーション活動支援事業実施予定



医療圏	圏域毎の取組予定									
	千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山長夷	安房	君津	市原	合計
H27から			2	1			1	1	1	6
H28に向け検討中	1	3	2	1		1	2			10
現時点で予定なし		3	1	4	6	15	1	2		32
その他				3	1	1		1		6
計	1	6	5	9	7	17	4	4	1	54



# 地域リハビリテーション推進のための 関係機関調査(地域包括支援センター)

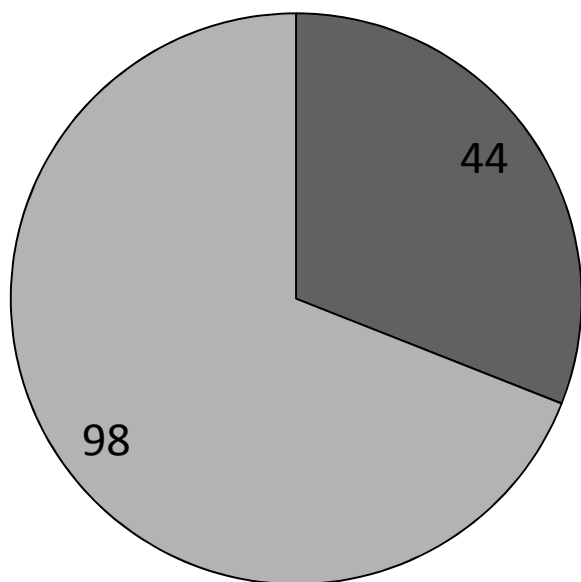
対象数 151包括 回答数142包括  
回答率94%



# 地域包括支援センターの設置状況

## 包括の設置種類(n-142)

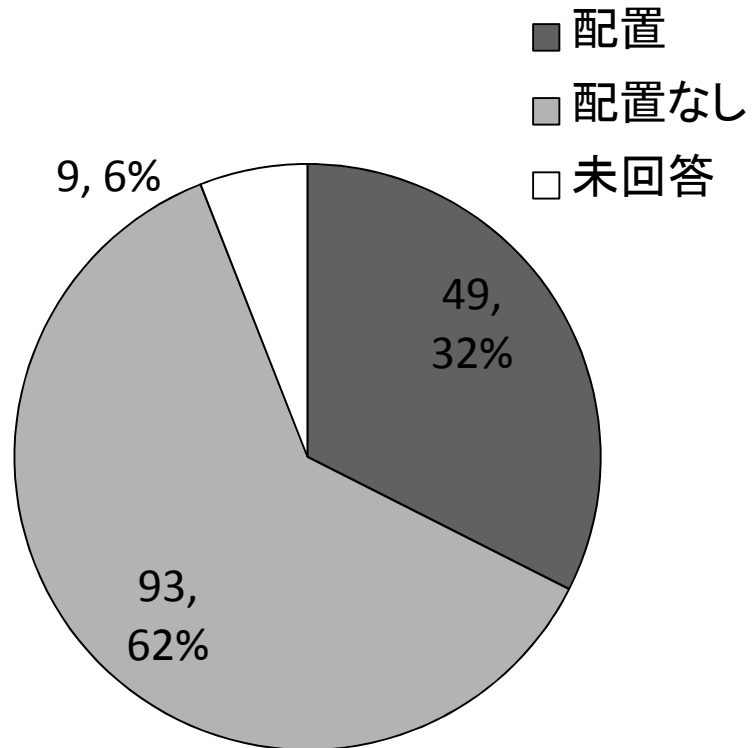
- 直営
- 委託



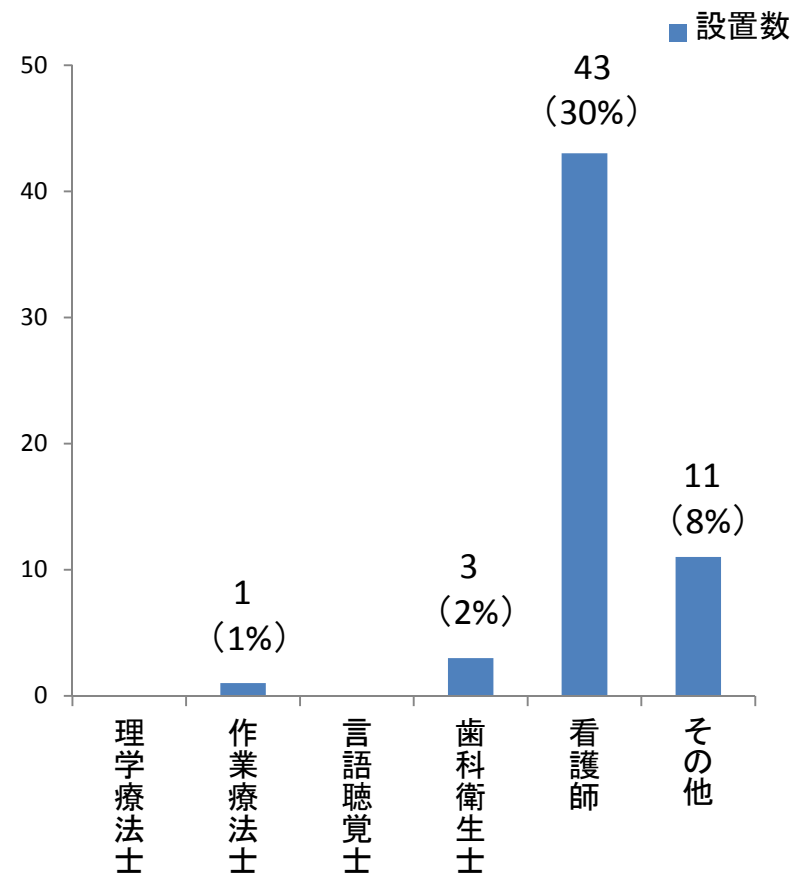
設置主体	千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山長夷	安房	君津	市原	計
直営	0	9	2	6	8	14	2	3	0	44
委託	22	20	25	11	0	5	4	6	5	98
社会福祉法人	14	16	15	9		4	2	5	3	68
社会福祉協議会			1			1		1		3
医療法人	8	4	8	1			2		2	25
社団法人										0
財団法人			1	1						2
株式会社等										0
NPO法人										0

# 問1 リハビリ関連職の配置状況

## 配置の有無(n-151)

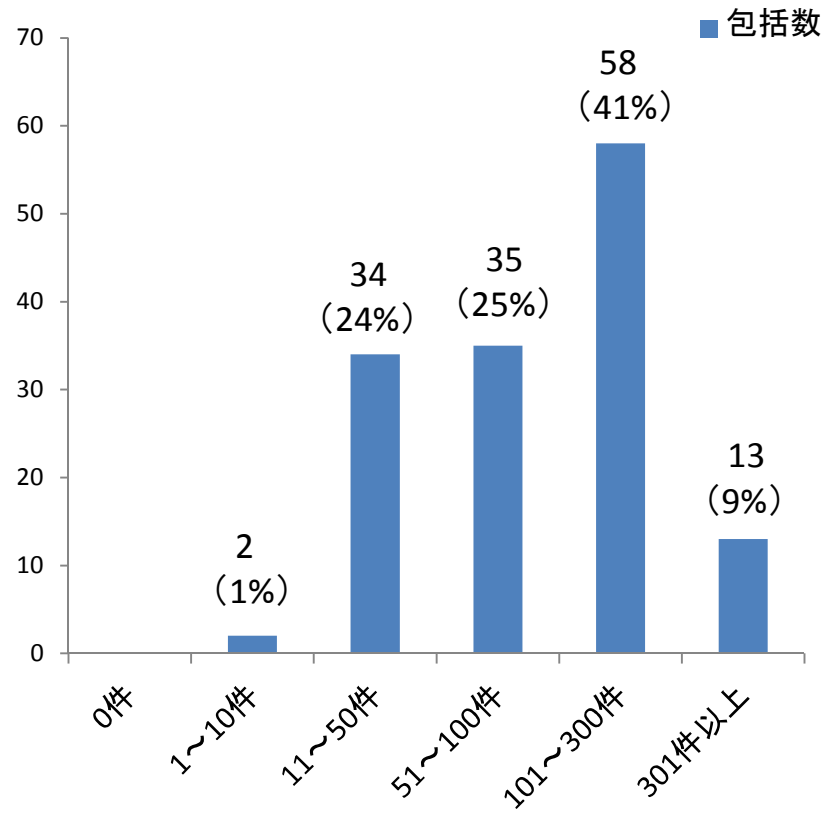


## リハビリ関係職配置 地域包括支援センター数

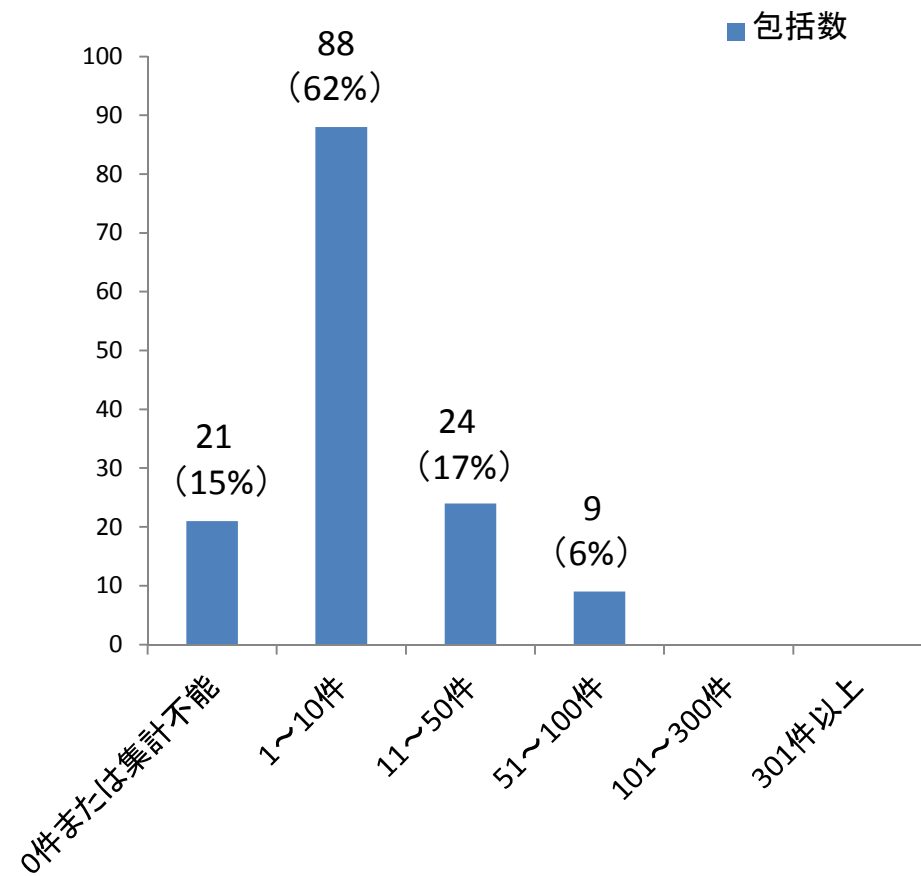


## 問2 平均相談件数

### 地域包括支援センターにおける 1カ月の平均相談件数

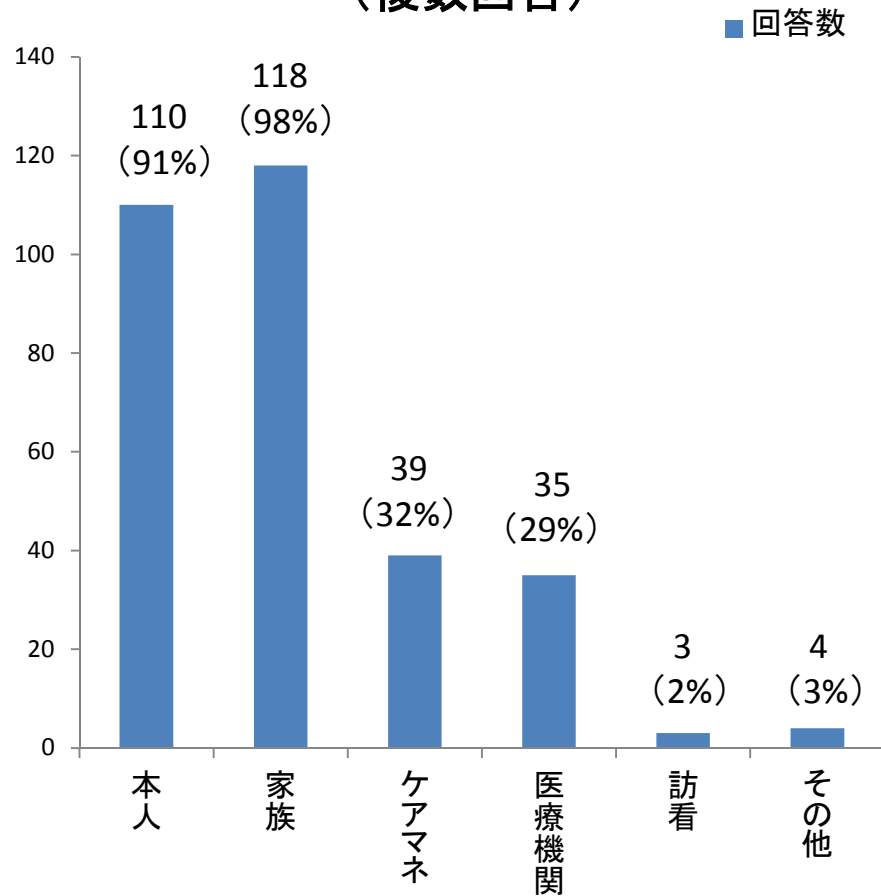


### リハビリに関する相談件数

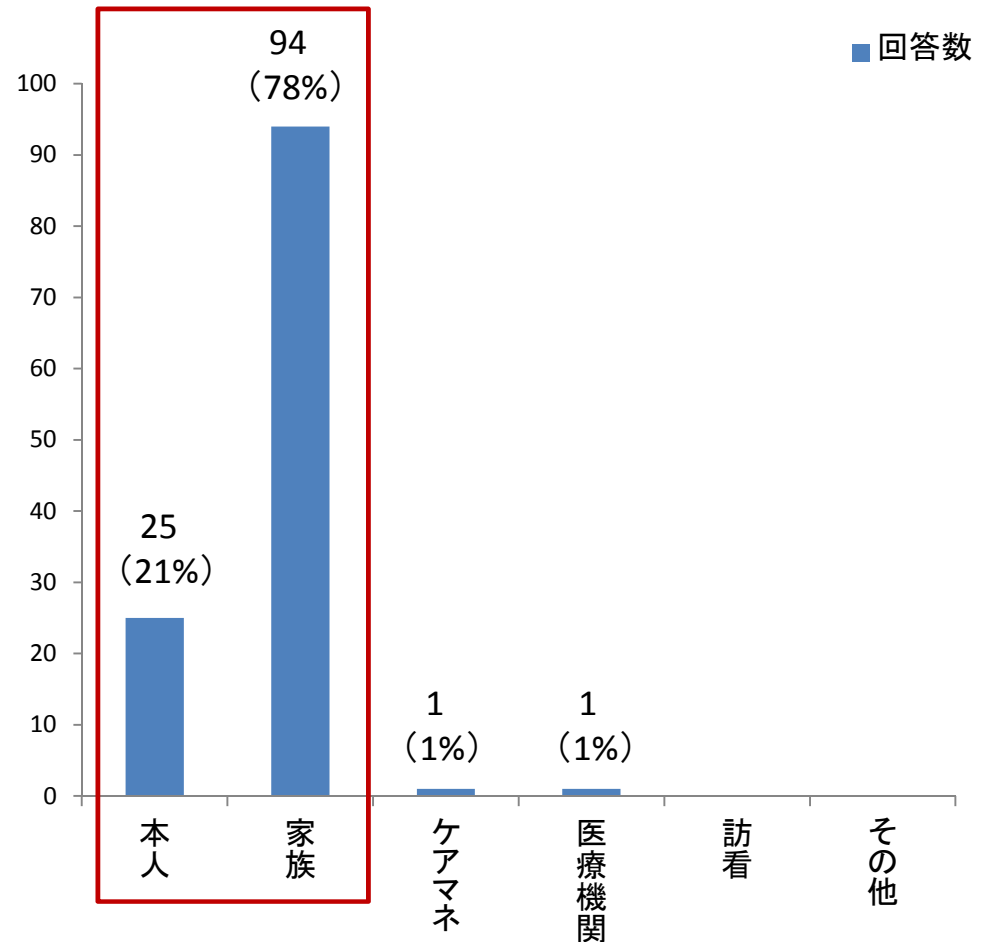


## 問2-1、問2-2 リハビリに関する相談者

### リハビリに関する相談者 (複数回答)

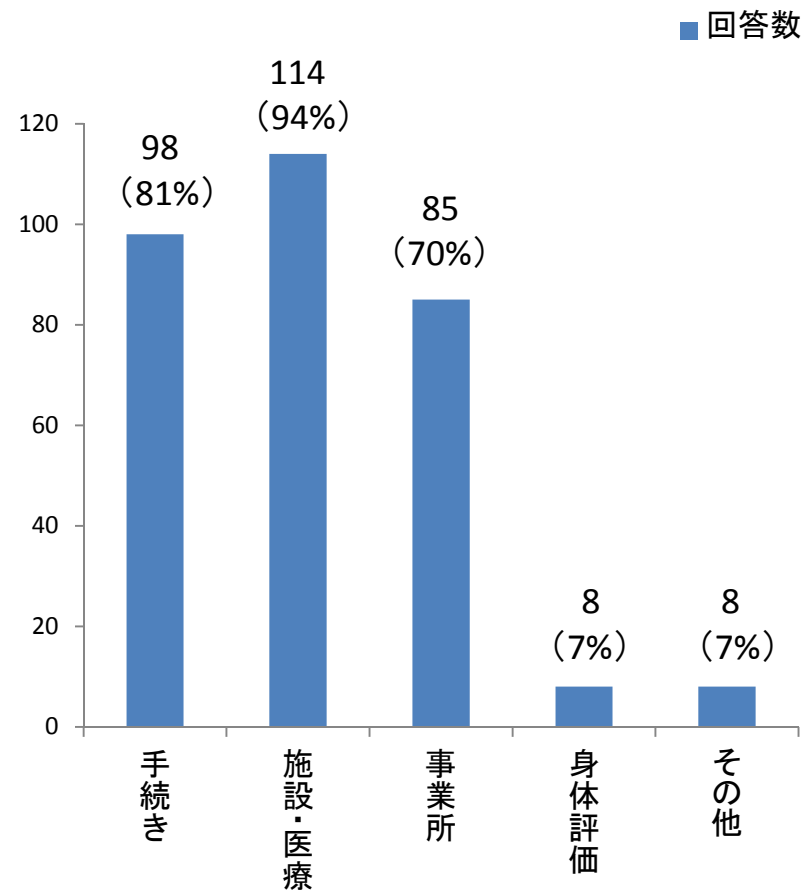


### リハビリに関する相談が最も多い相談者(n=121)

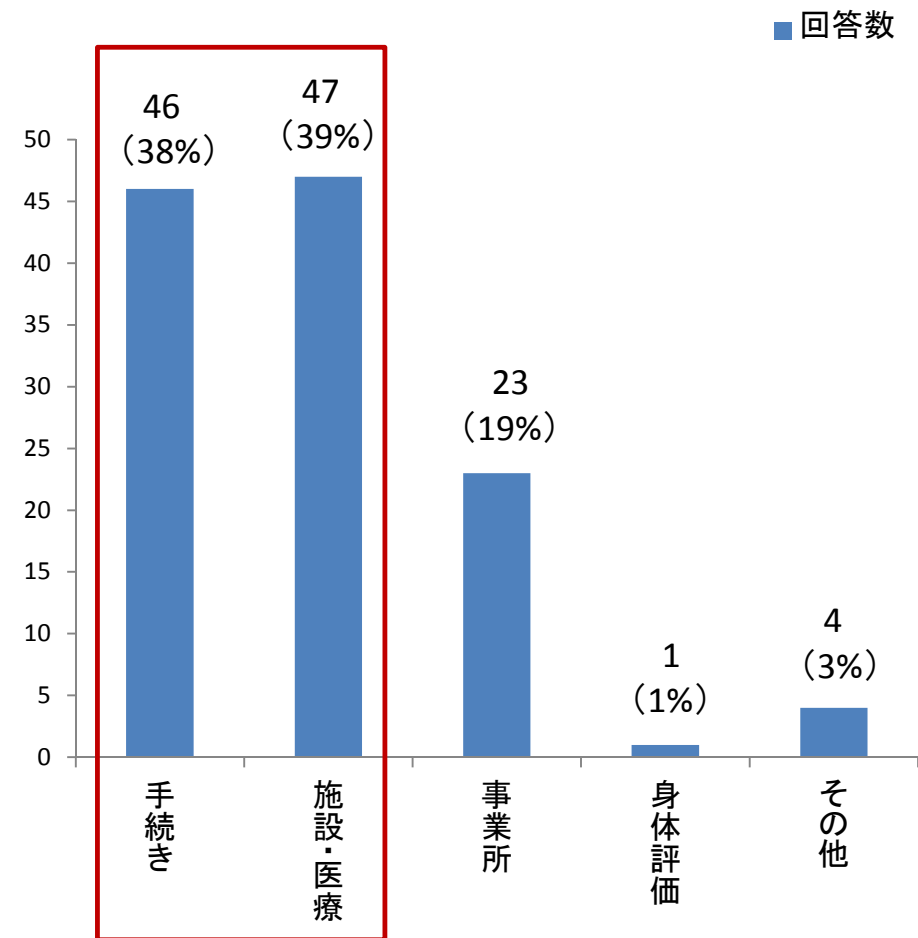


## 問2-3、2-4リハビリに関する相談内容

### リハビリに関する相談内容 (複数回答)

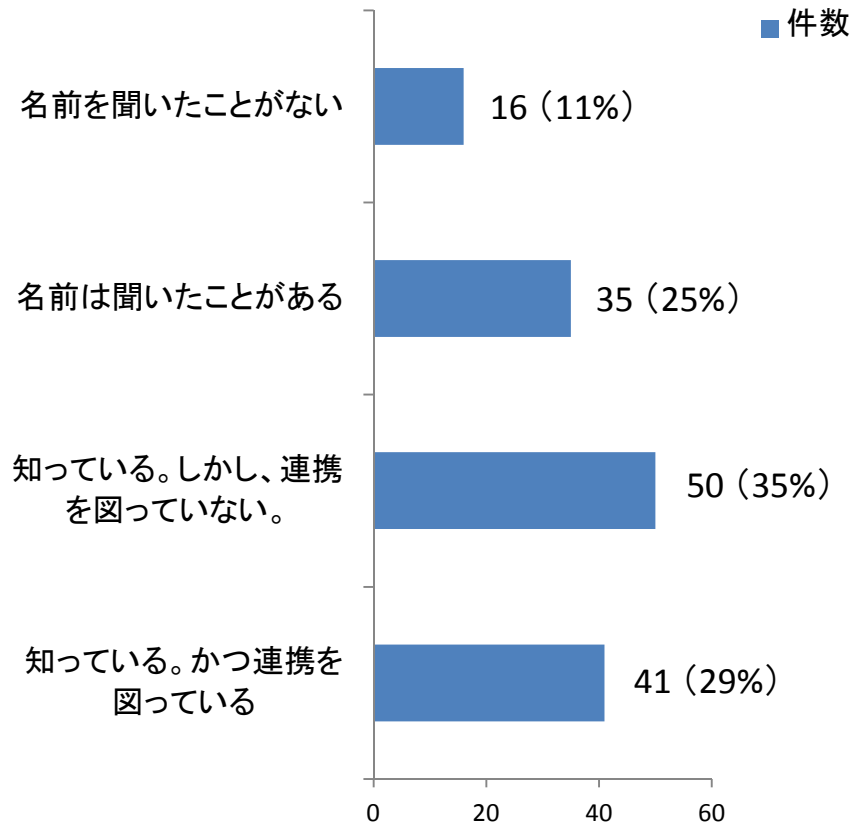


### リハビリに関して最も多い相談内容(n-121)



### 問3 広域支援センターとの現在の関係

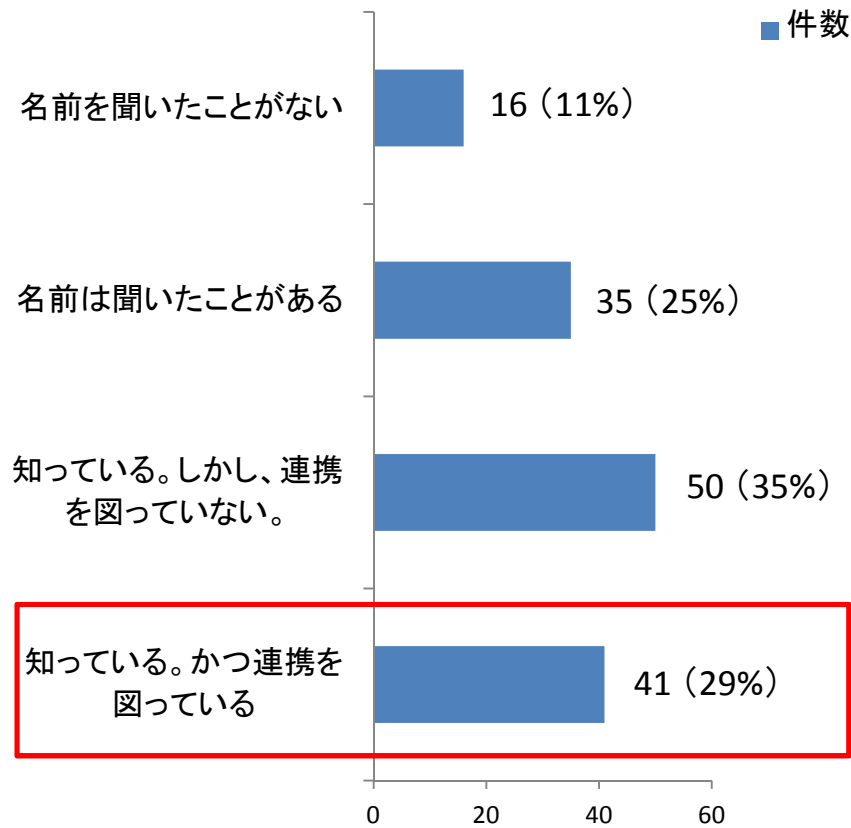
広域支援センターとの現在の関係



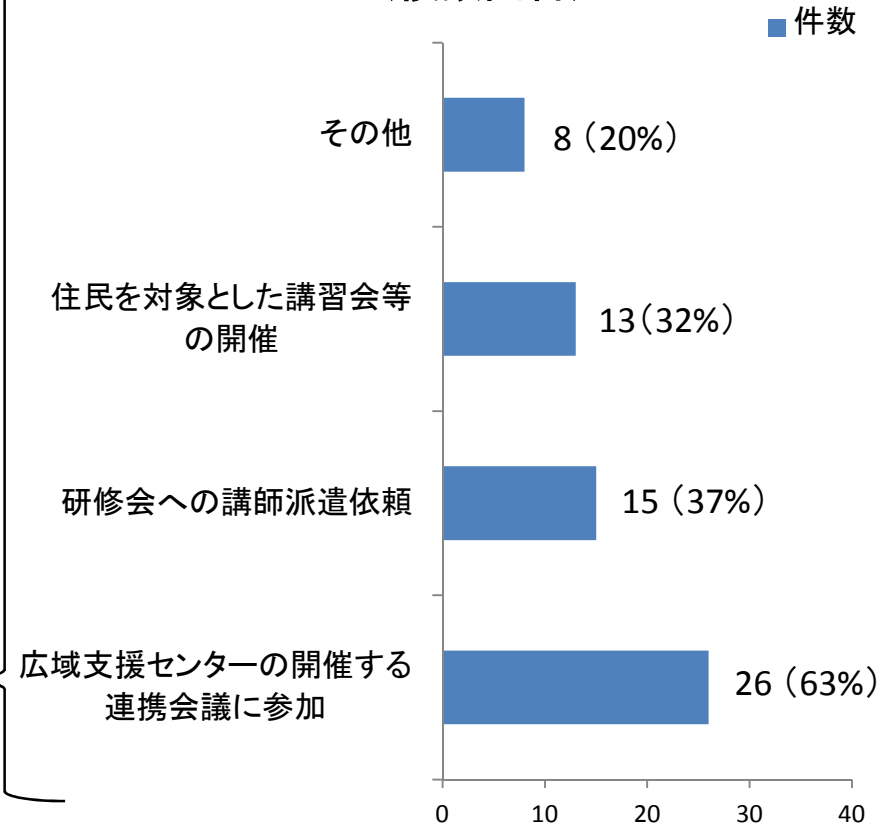
- 広域支援センターを知っており、かつ連携を図っている割合は29% (41包括)
- 広域支援センターを知っているが、連携を図っていない割合は 35% (50包括)
- 名前を聞く程度25% (35包括)
- 名前を聞いたことない11% (16包括)

# 問3-1 広域支援センターと連携したことのある事業内容

## 広域支援センターとの現在の関係

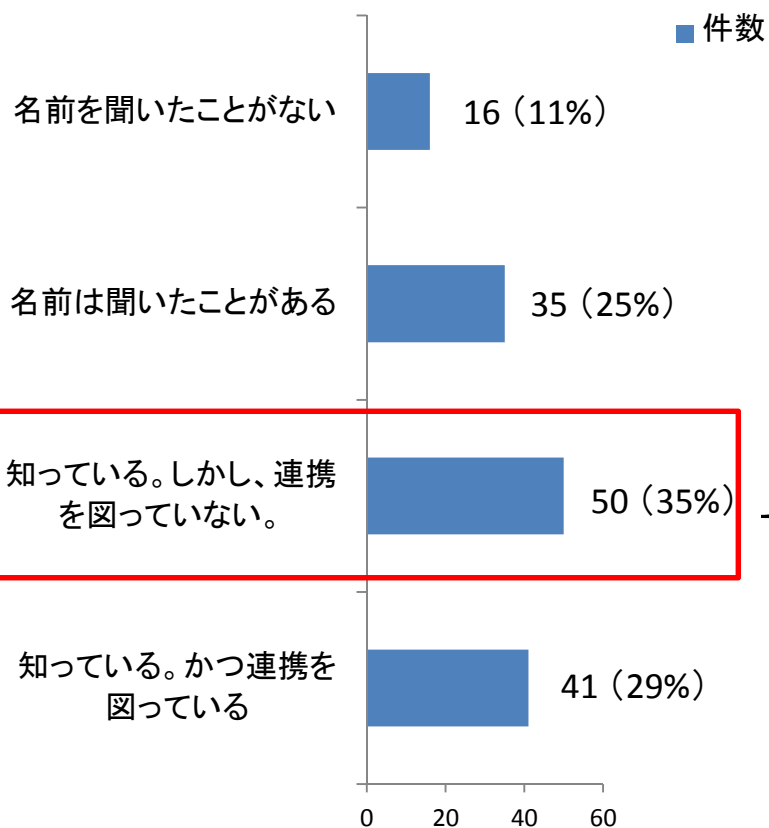


## 実際連携したことのある内容 (複数回答)

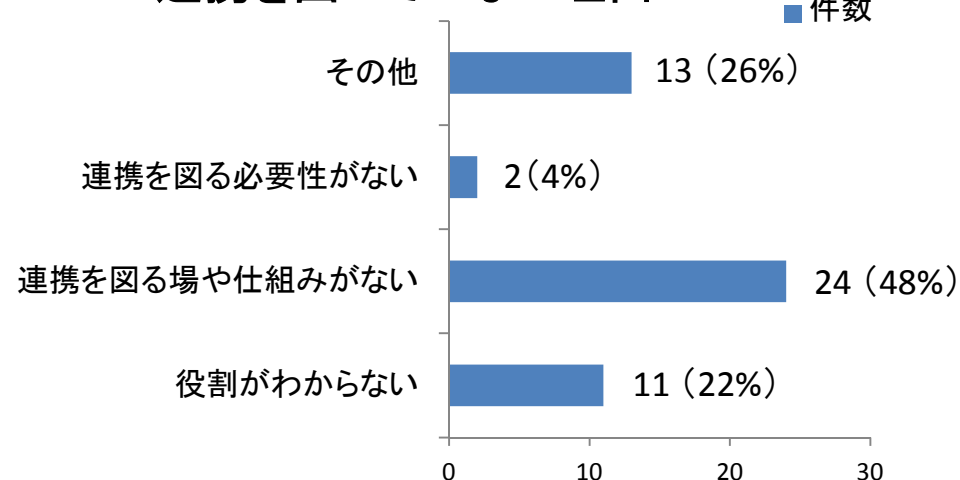


## 問3-2 広域支援センターと連携を図っていない理由

### 広域支援センターとの現在の関係



### 連携を図っていない理由



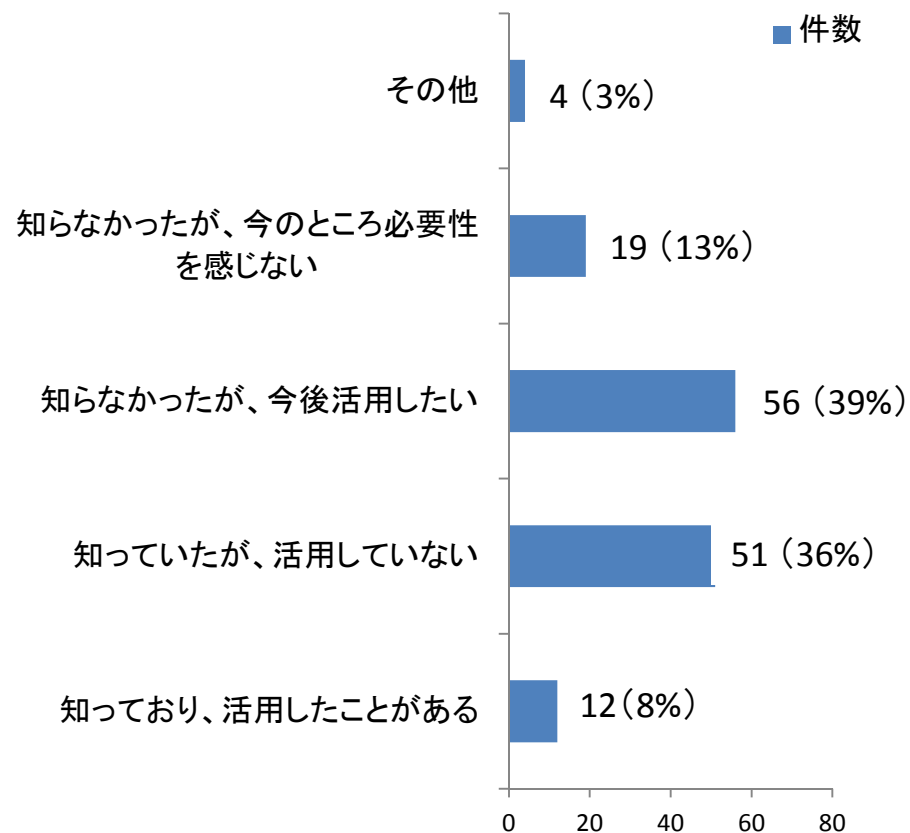
### その他の理由

- ・具体的な連携方法がわからない。
- ・センターが遠いので会議になかなか参加できない。またどういう時に連携を図るべきかがよくわからない。
- ・センターと別にリハ職へ相談することがある。
- ・地域として市内独自の連携組織として市立リハセンターがある。
- ・千葉県リハビリテーション支援センターへ相談している。
- ・千葉県地域リハビリテーション支援センターとの連携を図ったことがある。
- ・今後は連絡協議会に参加していきたい。
- ・連携を図る機会がない。
- ・連携を図るきっかけがない。
- ・現状で足りていることもあるが、連携を図る機会がない。
- ・リハビリの調整に係るような相談がなかったため、連携を図る機会がなかった。
- ・連携を図らなければいけないケースが発生していない。
- ・今のところ事例がない。
- ・具体的な連携を図っていない。



## 問4 リハビリ専門職と地域包括支援センターとの協働事業により 作成したメールフォームの活用希望

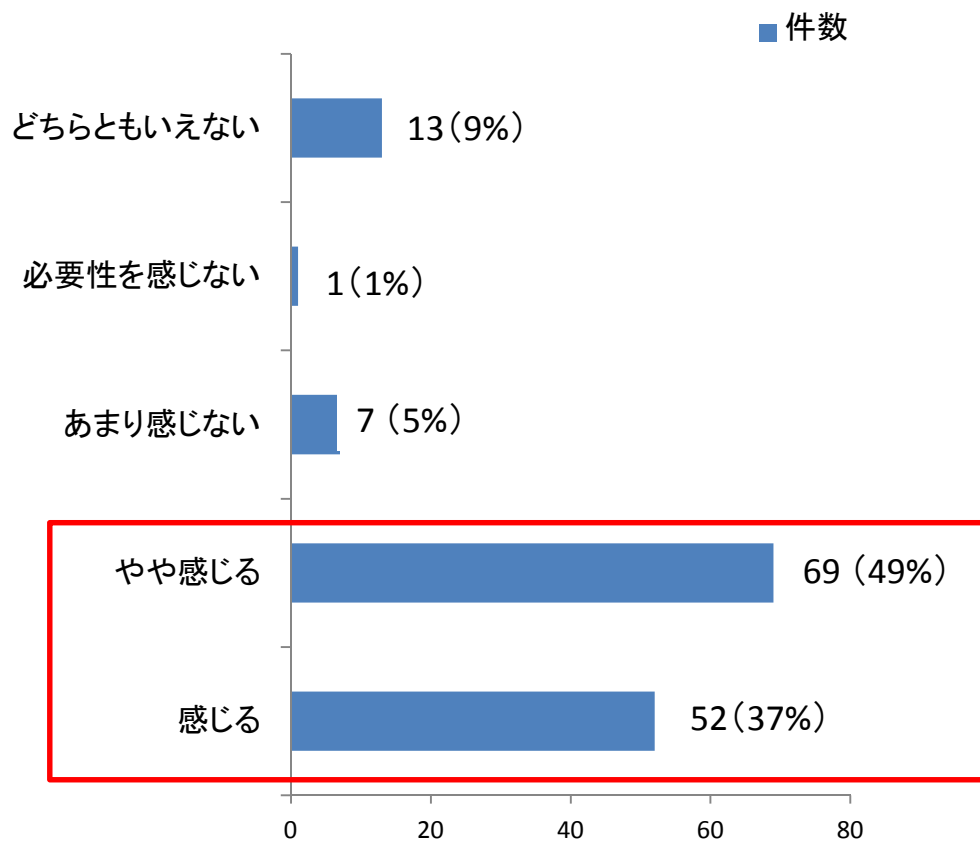
### メールフォームの認知度



活用希望	千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山長夷	安房	君津	市原	計
知っていて活用している	10					1		1		12
知っているが活用していない	8	8	12	3	3	6	1	5	5	51
知らなかったが今後活用したい	1	13	13	10	3	8	5	3		56
知らなかったが、必要性を感じない	1	7	2	3	2	4				19
その他	2	1		1						4
	22	29	27	17	8	19	6	9	5	142

## 問5 広域支援センターとの今後の連携の必要性

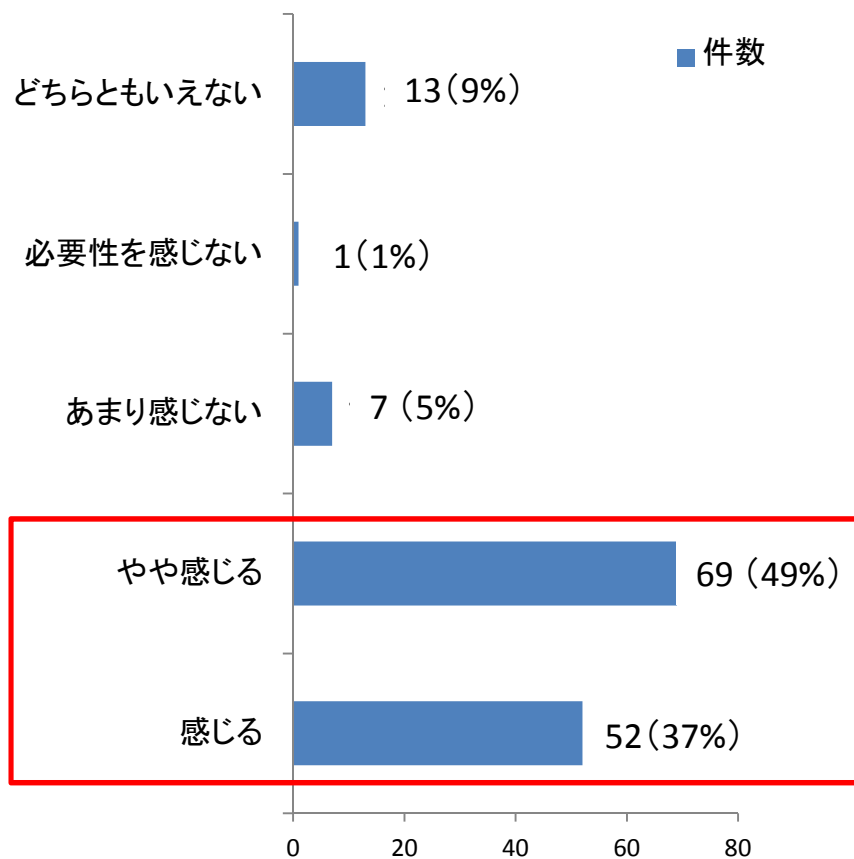
### 広域支援センターとの連携の必要性



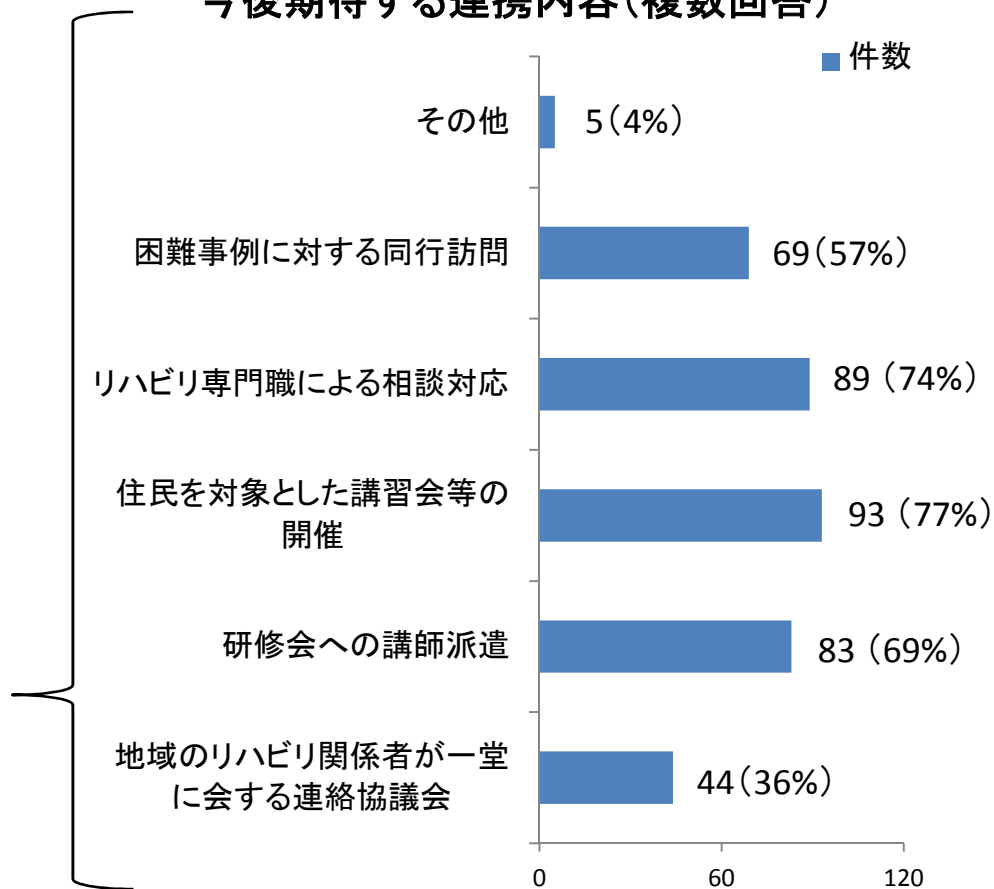
- 今後、連携の必要性について、86%(121包括)が「感じる」、「やや感じる」と回答した。

## 問5-1 広域支援センター業務のうち連携を図りたい事業内容

### 広域支援センターとの連携の必要性

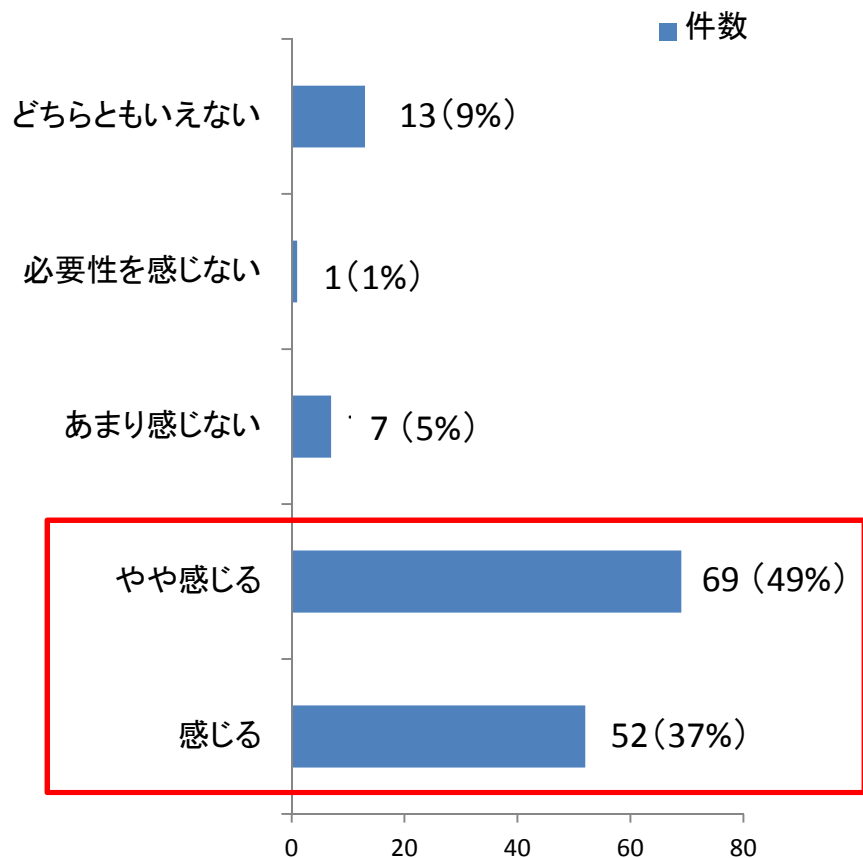


### 今後期待する連携内容(複数回答)

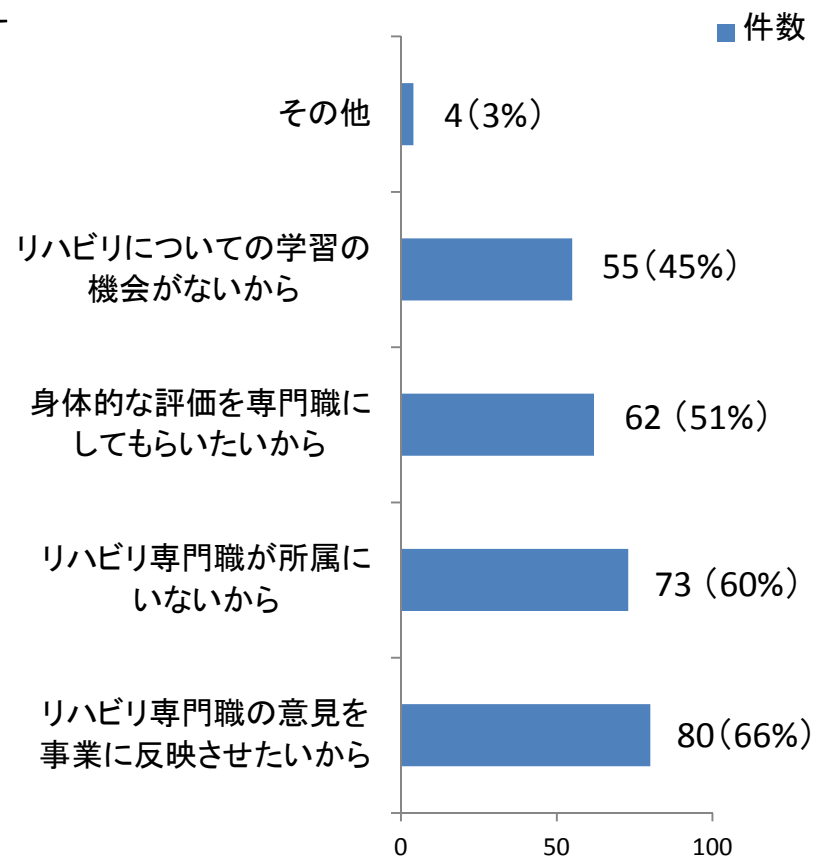


## 問5-2 広域支援センターと連携を図りたい理由

### 広域支援センターとの連携の必要性

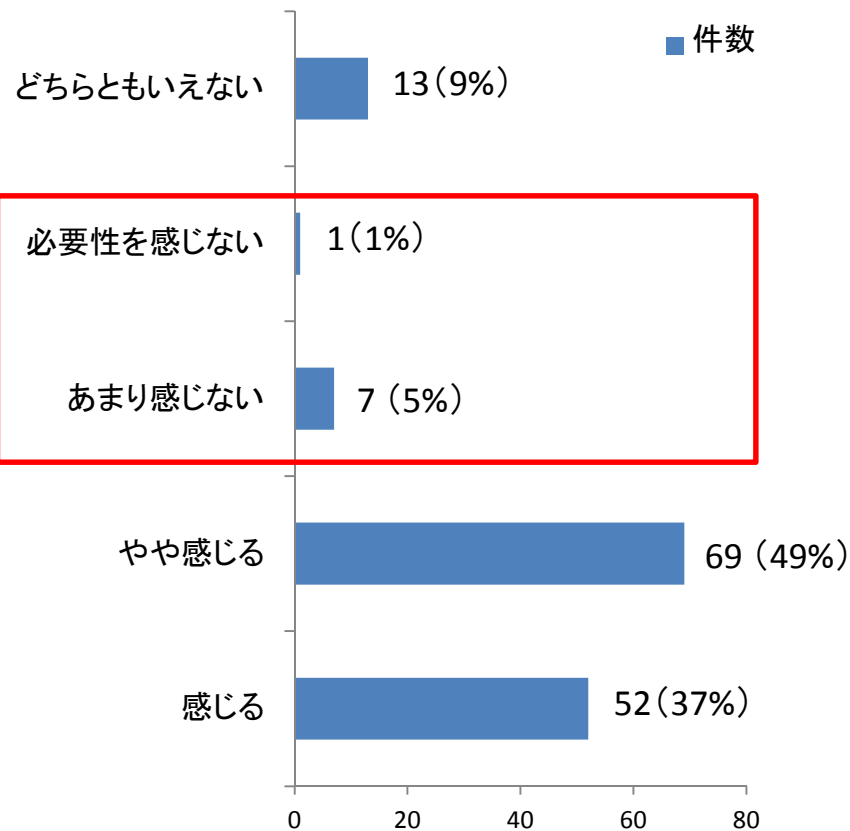


### 連携を図りたい理由(複数回答)

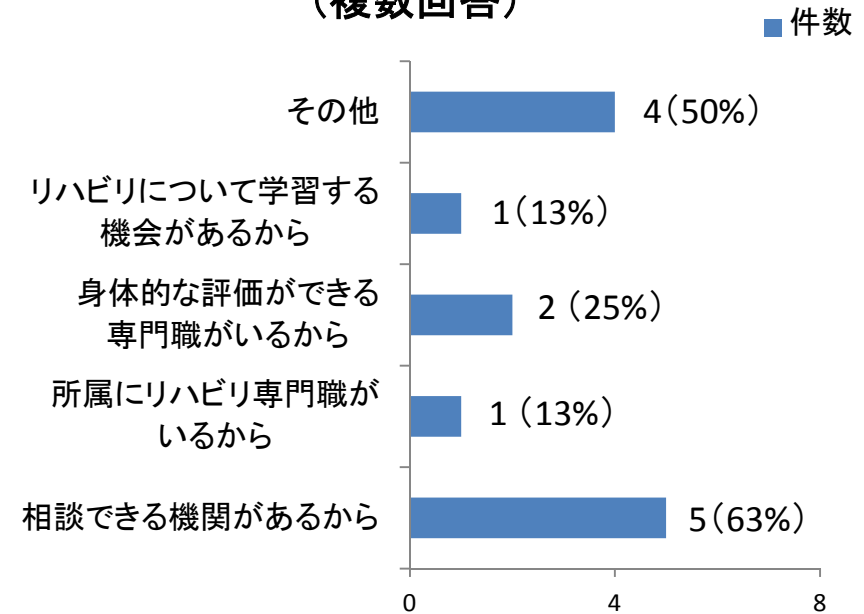


## 問5-3 広域支援センターと連携の必要性を感じない理由

### 広域支援センターとの連携の必要性



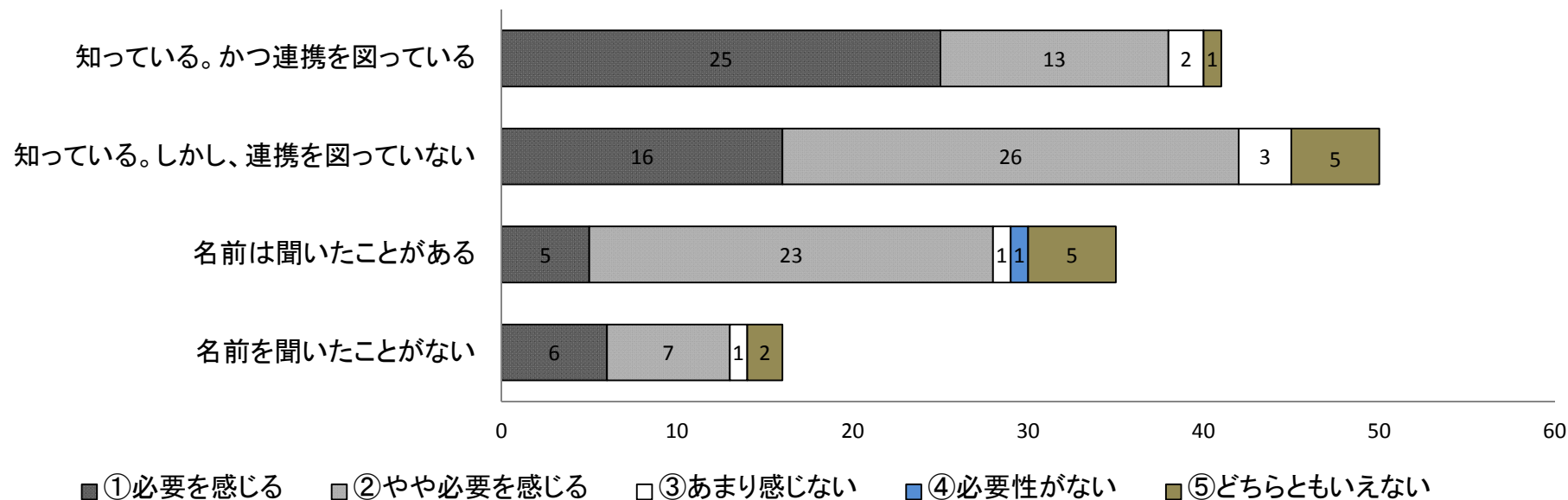
### 連携の必要性を感じない理由 (複数回答)



### その他の理由

- ・条件による。
- ・利用状況に併せ柔軟に対応してもらえたら利用したい。
- ・千葉県リハビリテーションセンターのメールフォームを活用している。
- ・今のところ事例がない。

# 広域支援センターとの「現在の関係(問3)」と「今後の連携の必要性(問5)」との関連



現在の関係 \ 今後の連携	①必要を感じる	②やや必要を感じる	③あまり感じない	④必要性がない	⑤どちらともいえない	計
知っている。かつ連携を図っている	25	13	2	0	1	41
知っている。しかし、連携を図っていない	16	26	3	0	5	50
名前は聞いたことがある	5	23	1	1	5	35
名前を聞いたことがない	6	7	1	0	2	16
計	52	69	7	1	13	142

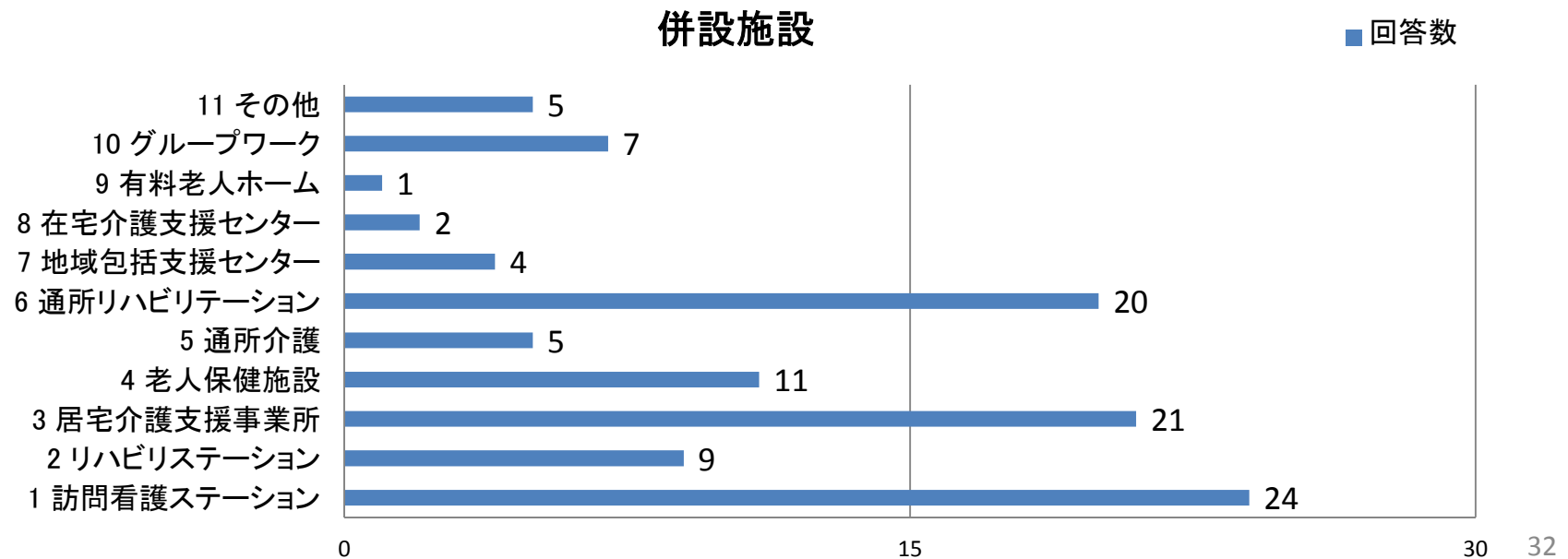
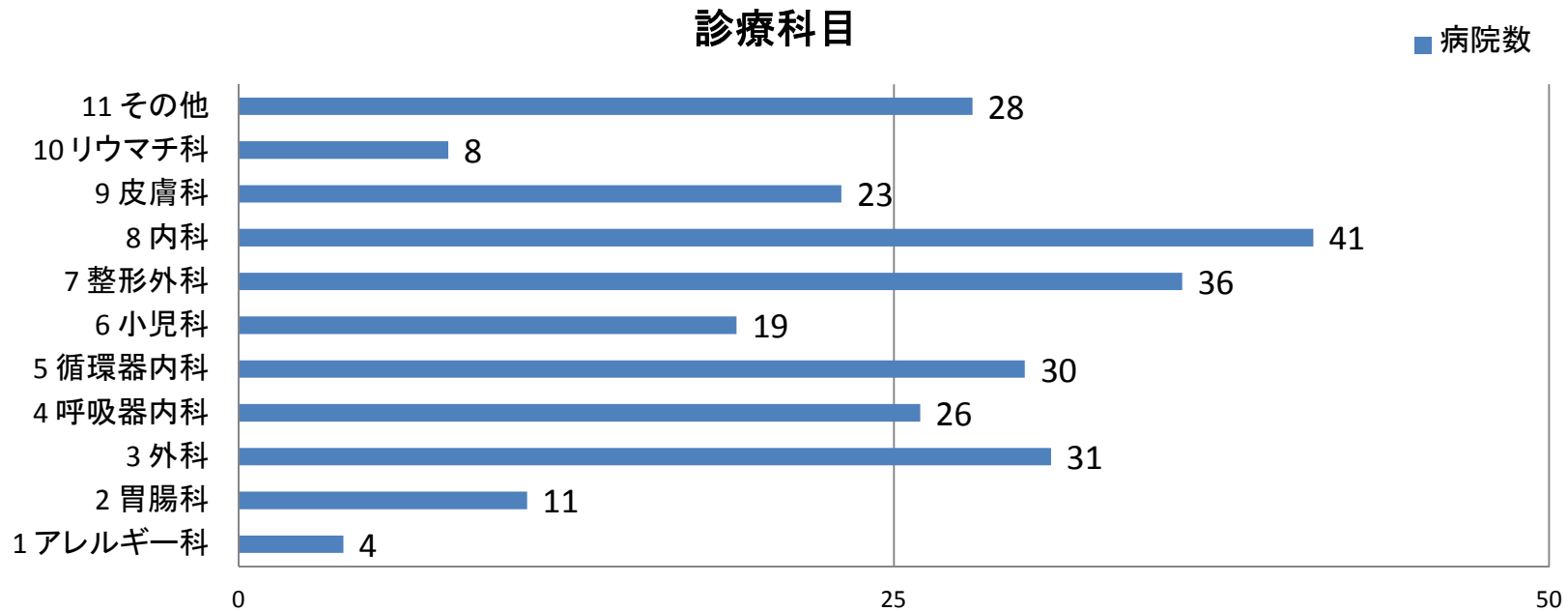


# 地域リハビリテーション推進のための 関係機関調査 (回復期、地域包括ケア病棟を有する病院)

対象数 55病院 回答数48病院  
回答率87%



# 問1 病院の概況

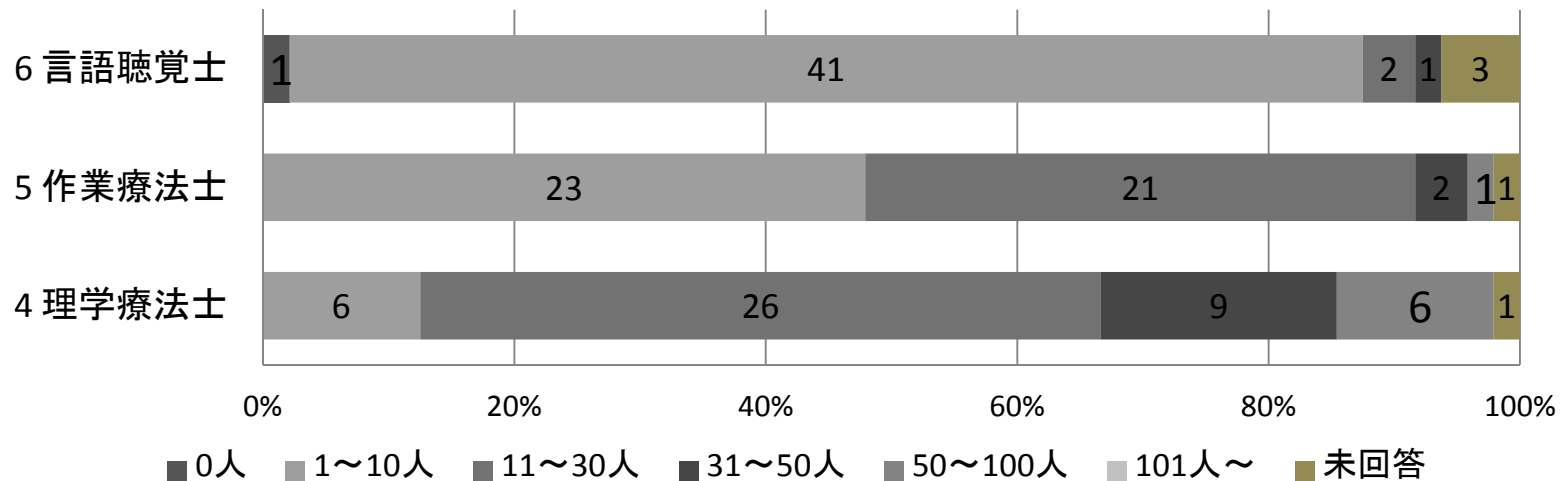


## 問1-1 病院の概況

従事者数(常勤)

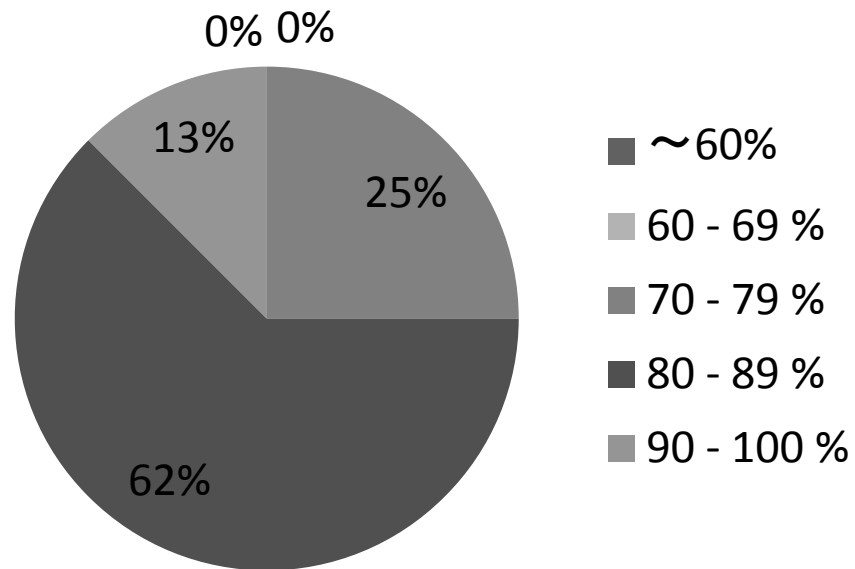
	0人	1~10人	11~30人	31~50人	50~100人	101人~	未回答
1 医師		23	15	7			3
2 薬剤師		35	10				3
3 看護師			1	13	15	16	3
4 理学療法士		6	26	9	6		1
5 作業療法士		23	21	2	1		1
6 言語聴覚士	1	41	2	1			3
7 放射線技師	4	34	7				3
8 看護助手	1	3	16	17	3	4	4
9 ケアマネ	21	17					10
10 MSW		43	2				3
11 事務		6	23	7	7		5
12 その他		12	13	2	7		14

### PT, OT, ST 従事者数の分布

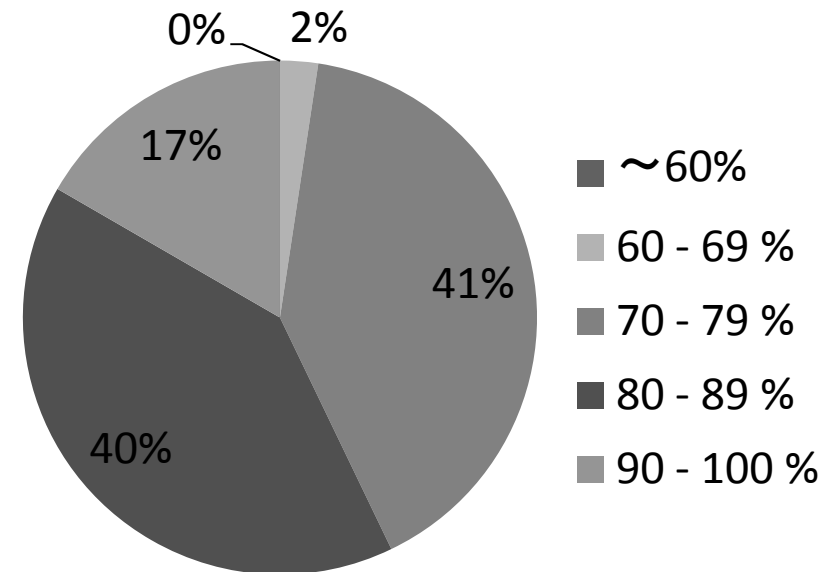


## 問2 在宅復帰率

### 地域包括ケア病棟 (n=8)



### 回復期リハビリテーション病棟 (n=41)



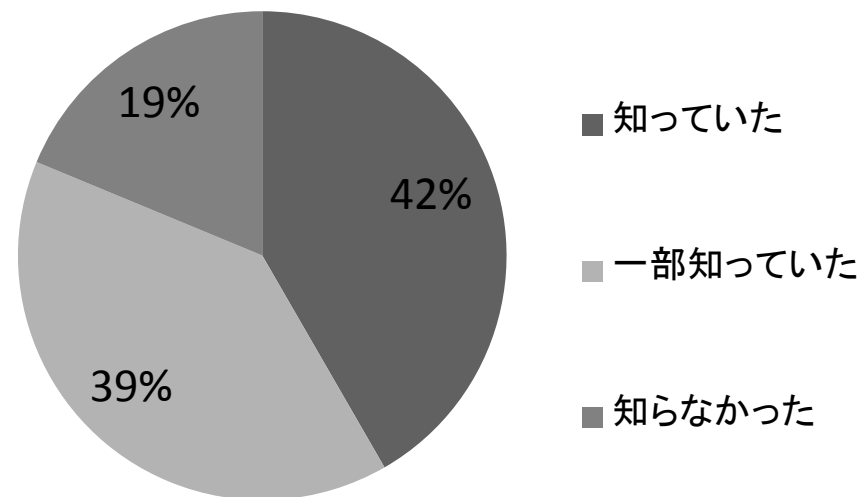
### 問3 「千葉県地域リハビリテーション連携指針」の機能・役割の認知度

#### 【医療機関の機能・役割】

(地域リハビリテーション連携指針より抜粋)

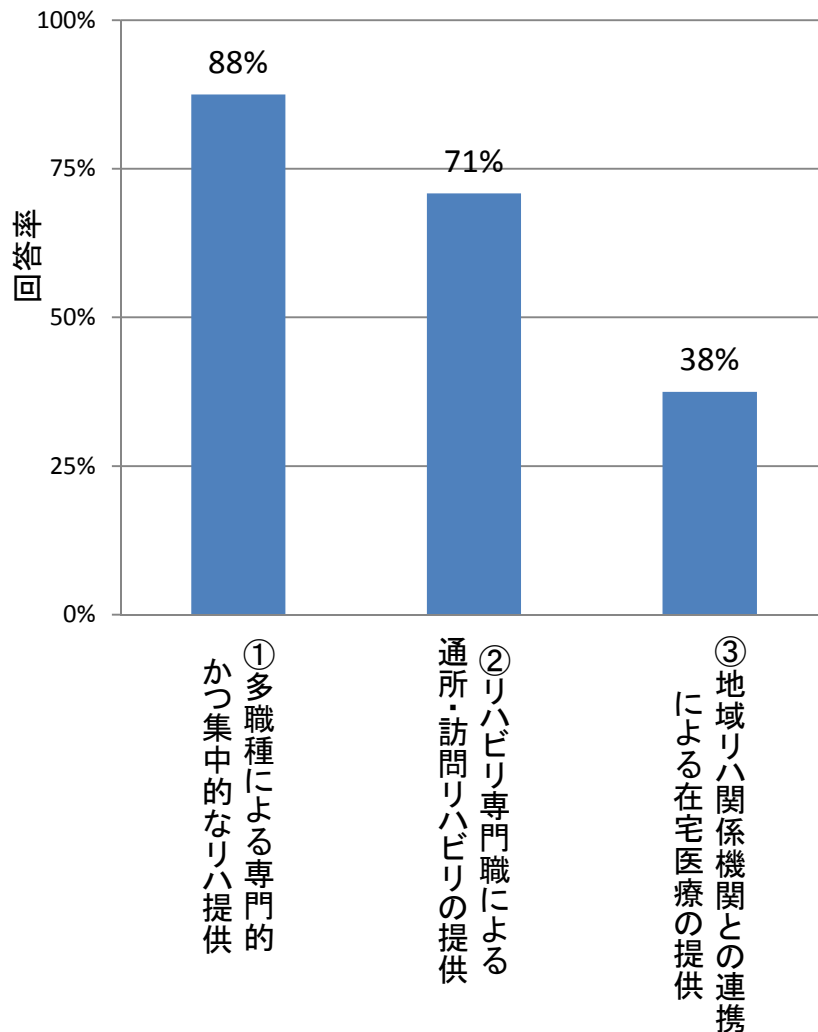
- ・病院・診療所等の医療機関は、各疾患における急性期・回復期・維持期の地域リハビリテーションの推進を図る拠点であります。
- ・特に急性期から回復期においては、多職種による専門的かつ集中的なリハビリテーションを担っています。
- ・維持期においては、地域との切れ目ない連携を図る一方、リハビリ専門職による通所リハビリや訪問リハビリの拠点としても機能します。
- ・かかりつけ医においては、介護保険事業所等を含む地域リハビリテーション関係機関と連携し、在宅療養の継続・充実を図ります。

#### 機能・役割の認知度



## 問3-1 機能・役割の実行状況

### 指針の各機能・役割の実行状況 (複数回答)

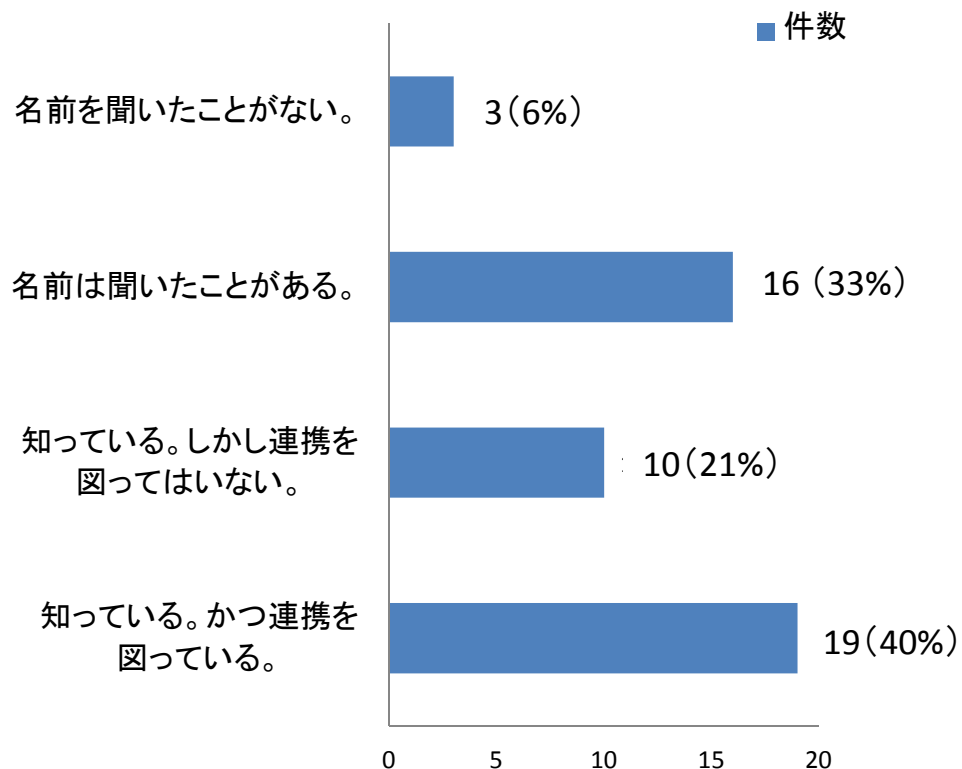


### 【その他、地域リハビリテーション推進のために取り組んでいること】

- ・ 地域リハビリ研究会の活動(年数回の講演会・勉強会)、カルチャーセンターでの講演・体操指導(Drとともに)。
- ・ 健康教室の開催や地域で行われている研修会、連携ケア会議等への積極的な参加会、連携ケア会議等への積極的な参加。
- ・ 千葉市介護予防事業(ヘルスアップ教室、シニアリーダー講座)の受託。地域自治体サロンでの体操・健康教室の開催。
- ・ 在宅チームとして、診療・看護・リハで関わっている。
- ・ 転倒予防教室を年2回実施。
- ・ 行政の地域リハに関する会議への参加。
- ・ 市民へのリハビリ啓蒙活動。ケアマネージャーへの啓蒙活動。
- ・ 地域包括支援センターと協力して地域住民向けの転倒予防教室の開催。
- ・ 公民館やホールでの転倒予防教室、健康教室等の開催。
- ・ 地域包括支援センターとの協力による近隣住民に対する予防活動等の定期的な実施。地域包括支援センターからの担当事例や困難事例等に関する相談。
- ・ 地域リハ及びケア職への研修会の企画・運営を行い、地域リハケアの質の向上に努めている。
- ・ 地域住民向け腰痛予防セミナー(無料)等の開催。
- ・ 居宅介護支援事業所との会議・連携、地域包括支援センターと健康増進課と予防啓発活動、回復期リハ病棟連携の会、脳卒中パス会議等の参加・協力。

## 問4 広域支援センターとの現在の関係

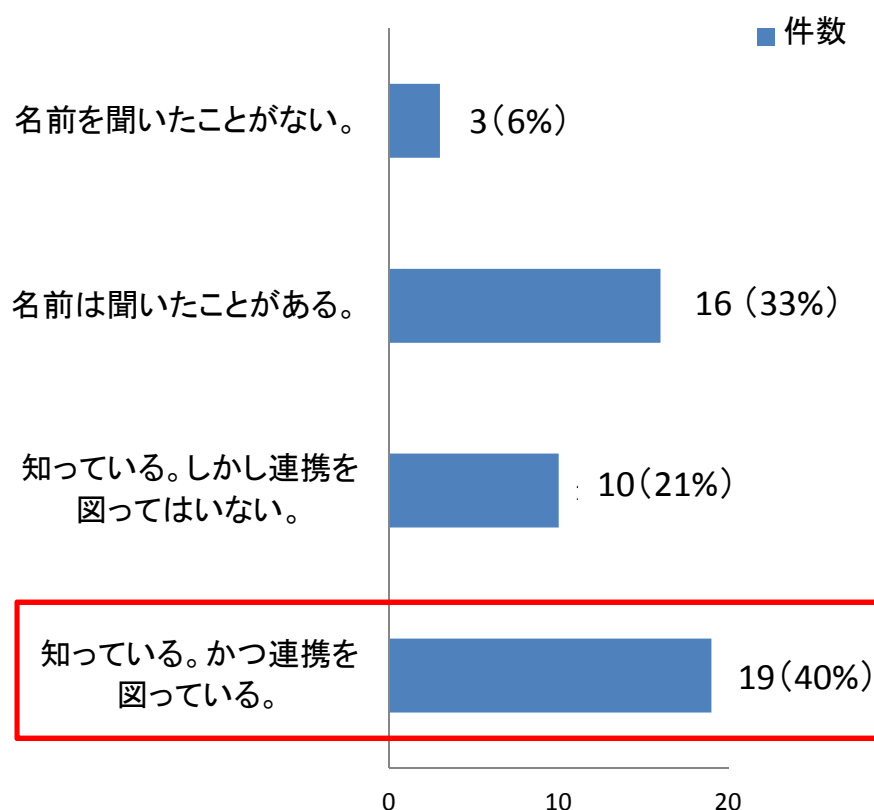
### 広域支援センターとの現在の関係



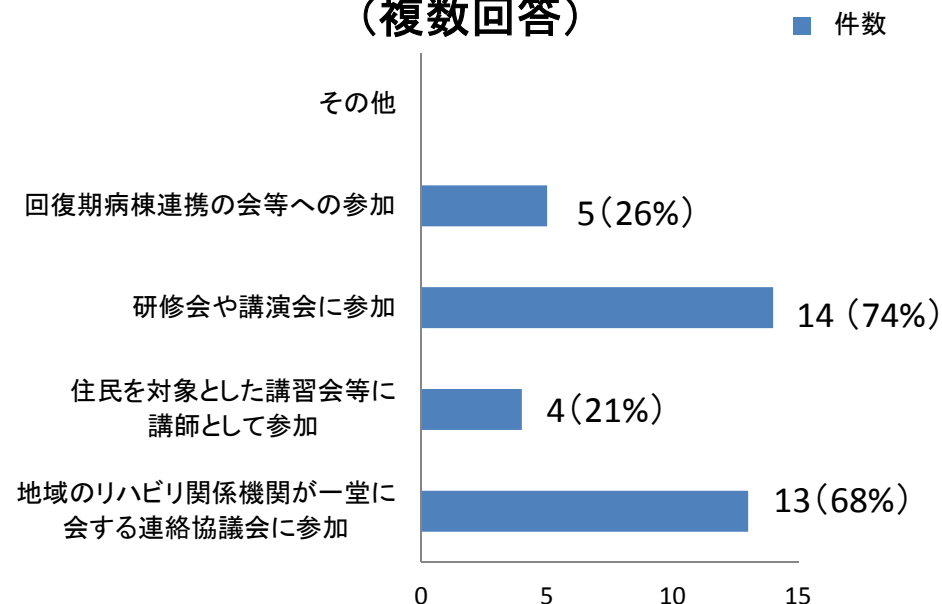
- 広域支援センターを知っており、かつ連携を図っている割合は40%（19病院）
- 広域支援センターを知っているが、連携を図っていない割合は21%（10病院）
- 名前を聞く程度33%（16病院）
- 名前を聞いたことない6%（3病院）

# 問4-1 広域支援センターと連携したことがある事業内容

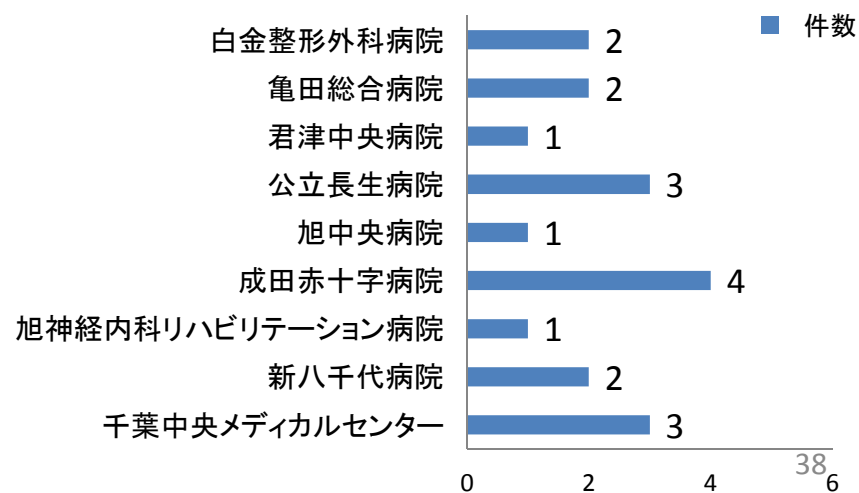
## 広域支援センターとの現在の関係



## 実際連携したことがある事業 (複数回答)

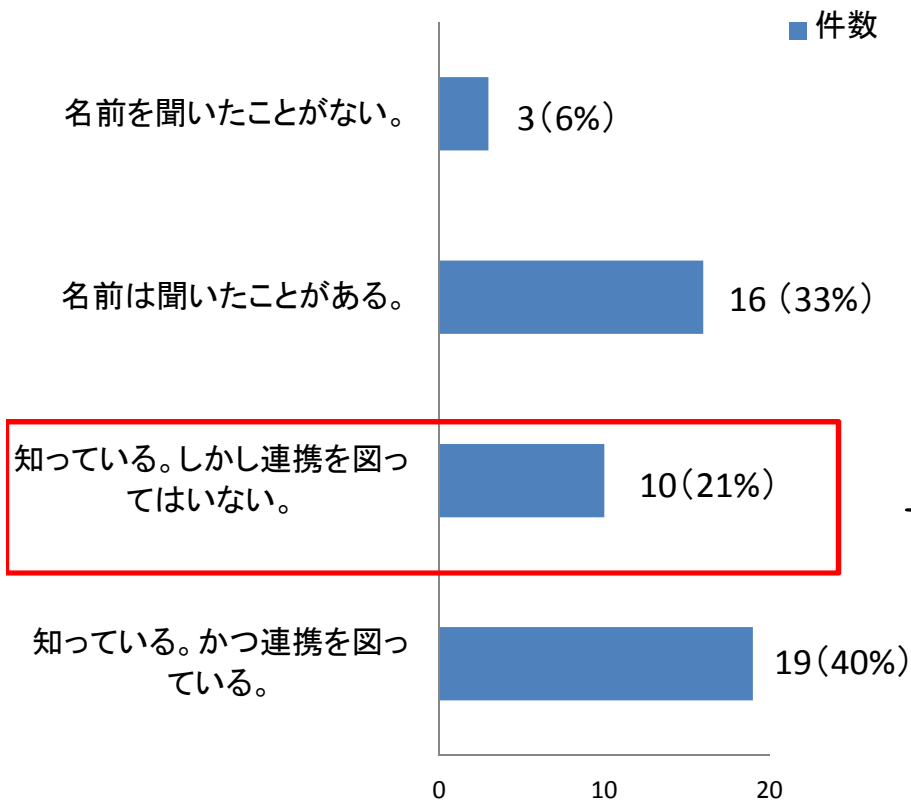


## 連携先の広域支援センター

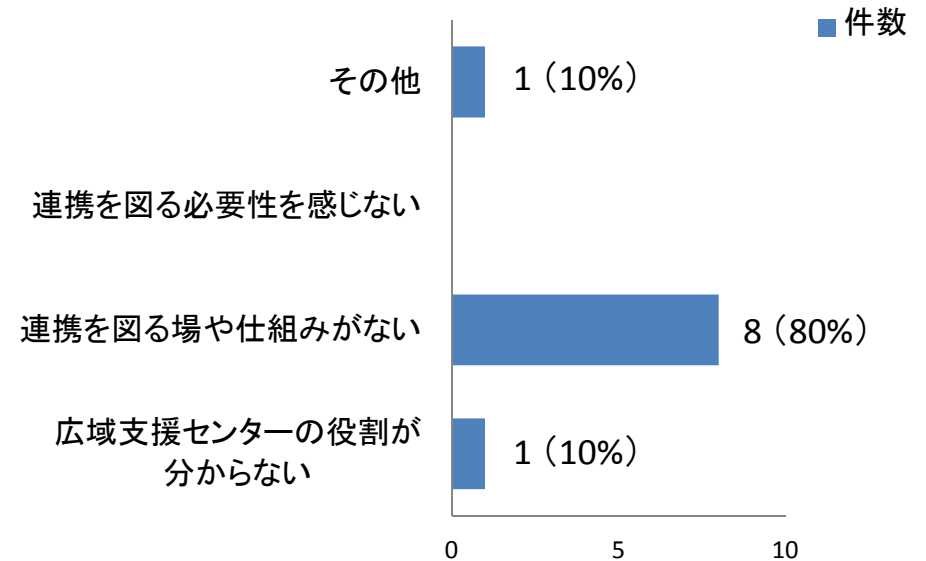


## 問4-2 広域支援センターと連携を図っていない理由

### 広域支援センターとの現在の関係



### 連携を図っていない理由(複数回答)



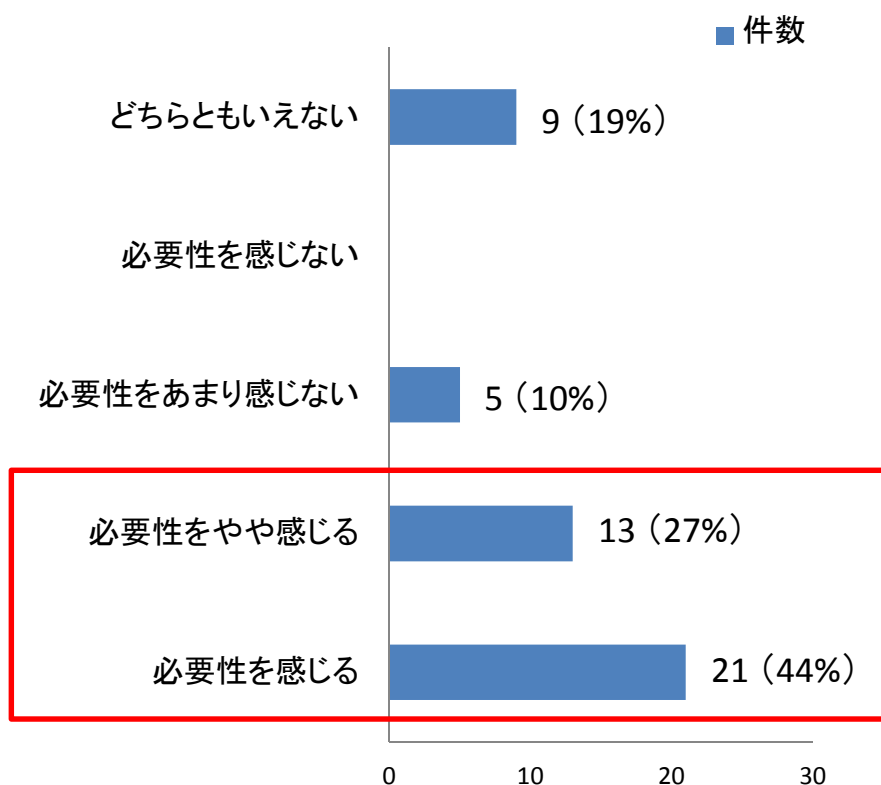
### その他の理由

- ・整形外科の常勤医師がない。



## 問5 広域支援センターとの今後の連携の必要性

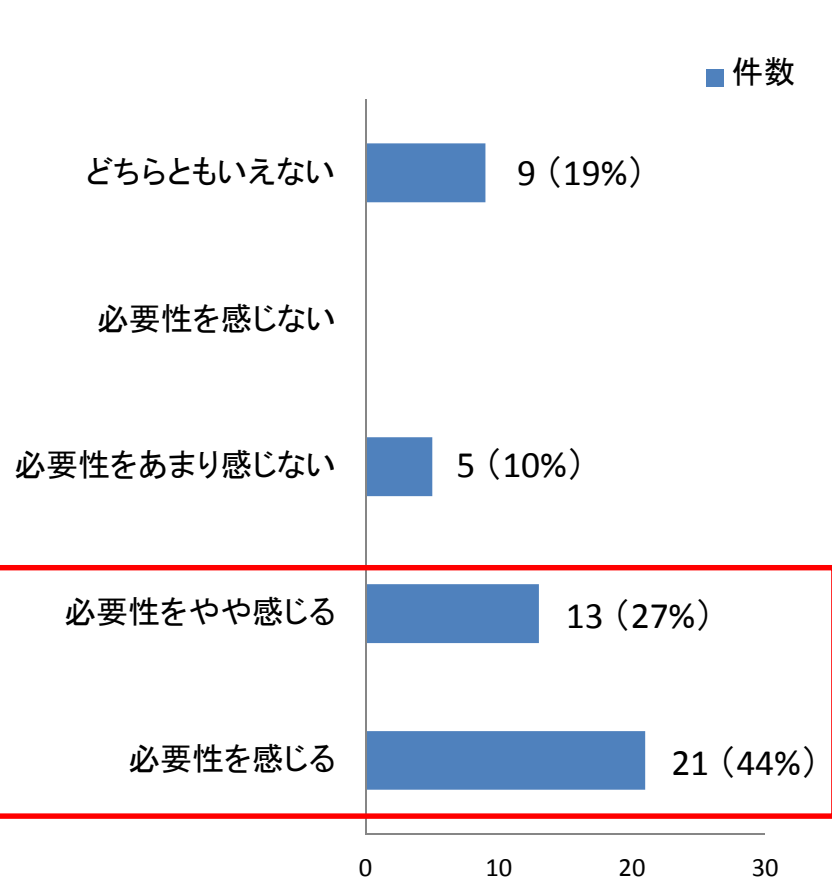
### 今後の連携の必要性



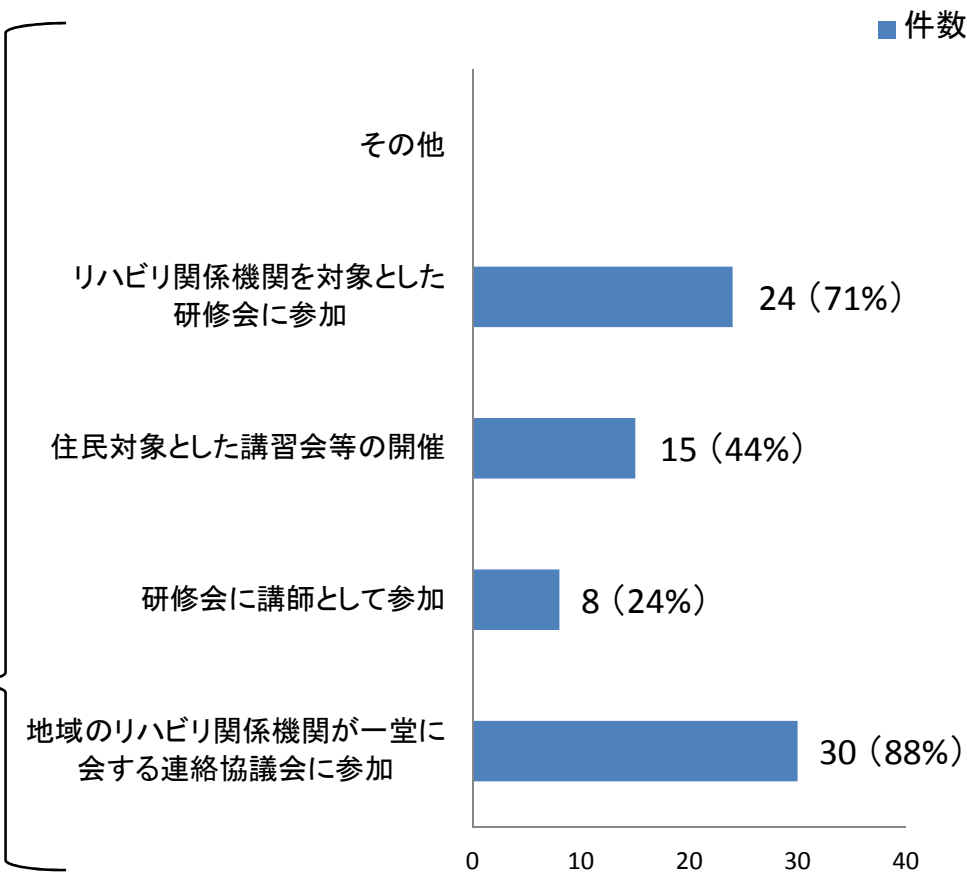
- 今後、連携の必要性について、71% (34病院) が「感じる」、「やや感じる」と回答した。

# 問5-1 広域支援センター業務のうち連携を図りたい事業内容

## 今後の連携の必要性

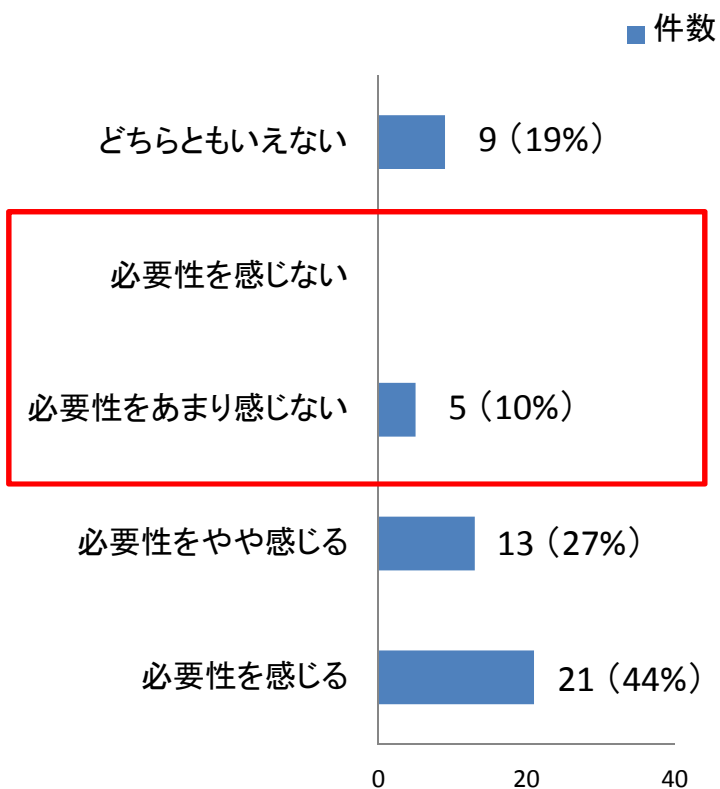


## 今後期待する連携内容(複数回答)

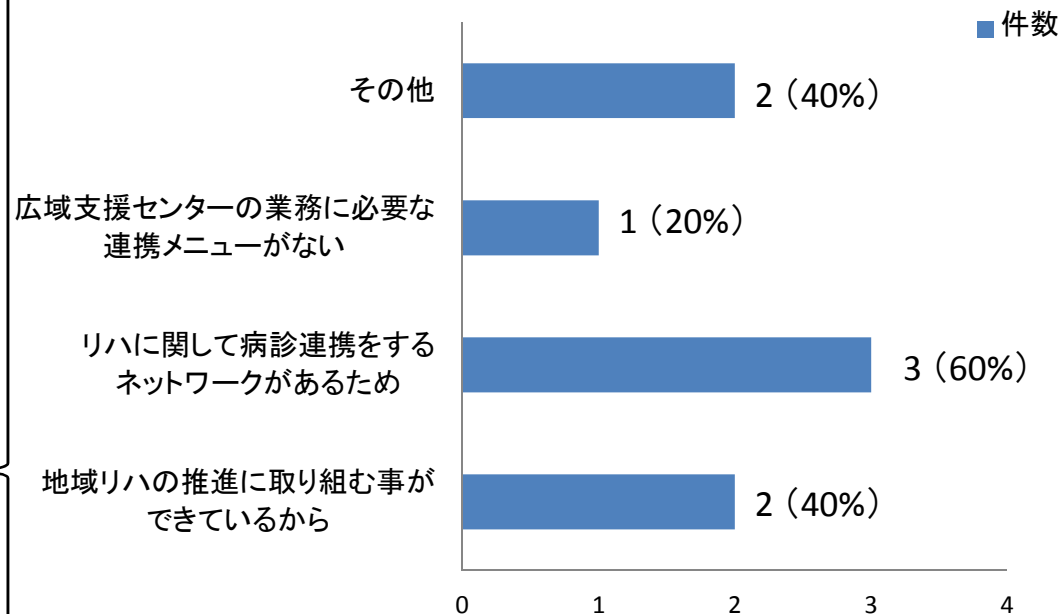


## 問5-2 広域支援センターと連携の必要性を感じない理由

### 今後の連携の必要性



### 連携の必要性を感じない理由（複数回答）

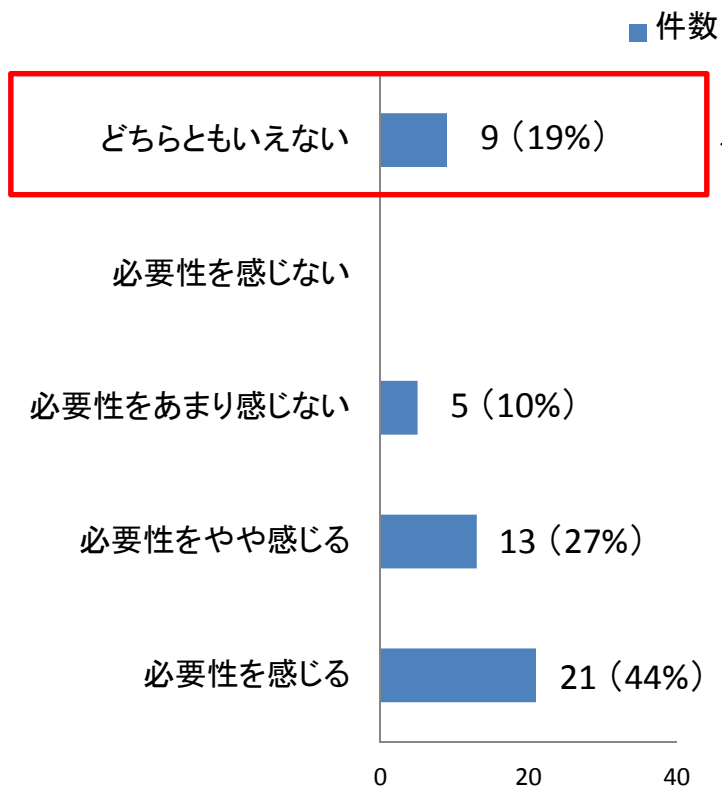


### その他の理由

- ・広域支援センターの役割・内容が不明瞭なため。
- ・市内では様々な取り組みを行っているが、支援センターとは市が異なるため連携しづらい。

## 問5-2 広域支援センターと連携の必要性について どちらともいえない理由

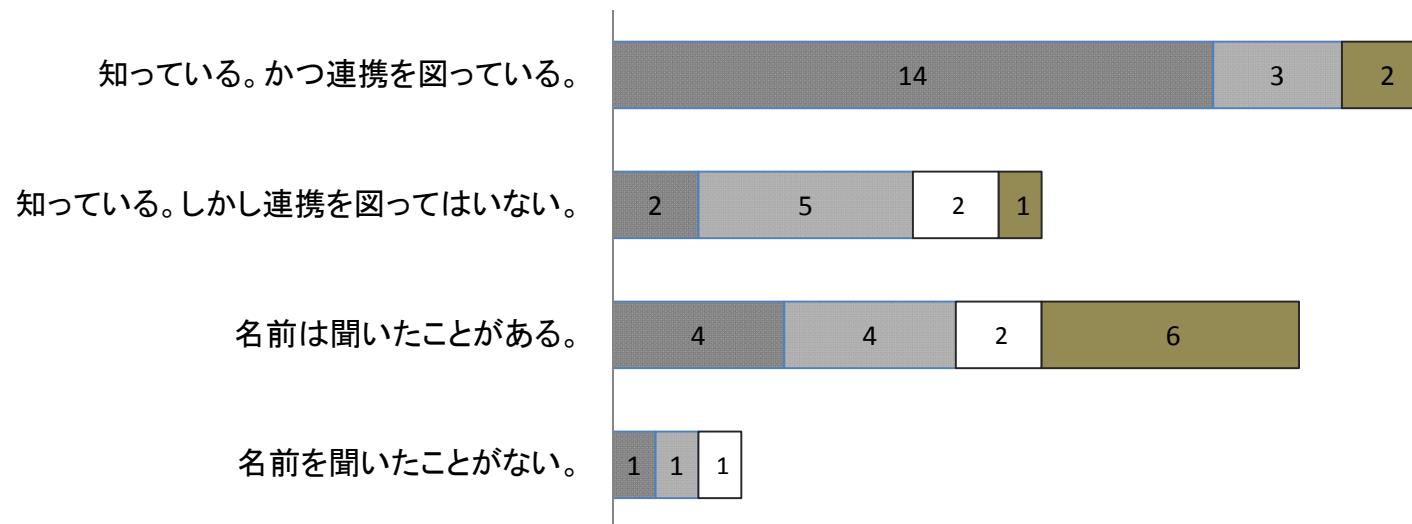
### 今後の連携の必要性



### どちらともいえない理由

- ・連携は大事と思うが、広域支援センターとの具体的な連携のイメージがわからない。
- ・具体的イメージがわからない。
- ・広域支援センターがあることによりどのような効果が得られたのかが良くわからないから。
- ・マンパワー不足で連携まで至っていない状態
- ・連携を図るには地域のくくりが広い。市レベルでの連携のほうが現場では要求される。
- ・二次医療圏では範囲が大きすぎ、連携をどうすればよいか明確にはならない。
- ・直接的な連携としては、地域包括支援センターとの協力・連携が重要と考える。より広範囲な情報把握や、地域リハ連携推進のためには、広域支援センターとの連携が重要かと思う。

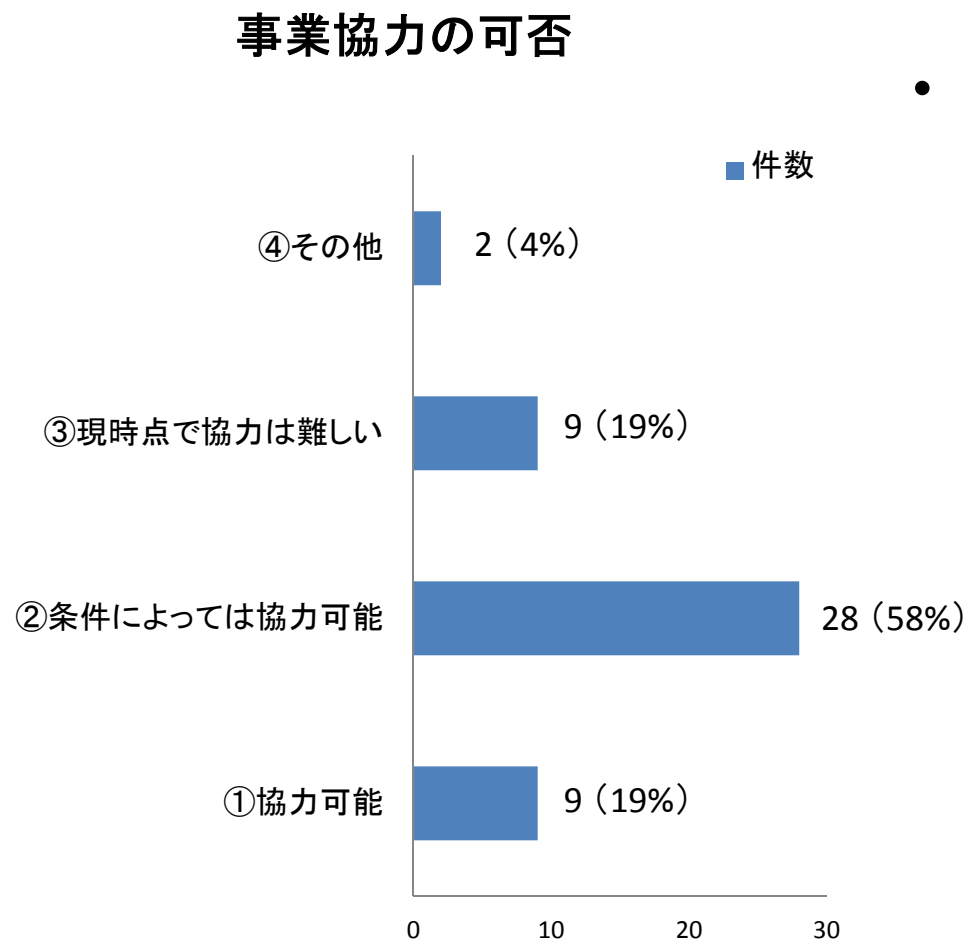
# 広域支援センターとの「現在の関係(問4)」と「今後の連携の必要性(問5)」との関連



■ ①必要性を感じる ■ ②必要性をやや感じる □ ③必要性をあまり感じない ■ ④必要性を感じない ■ ⑤どちらともいえない

現在の関係 \ 今後の連携	①必要を感じる	②やや必要を感じる	③あまり感じない	④必要性がない	⑤どちらともいえない	計
知っている。かつ連携を図っている	14	3	0	0	2	19
知っている。しかし、連携を図っていない	2	5	2	0	1	10
名前は聞いたことがある	4	4	2	0	6	16
名前を聞いたことがない	1	1	1	0	0	3
計	21	13	5	0	9	48

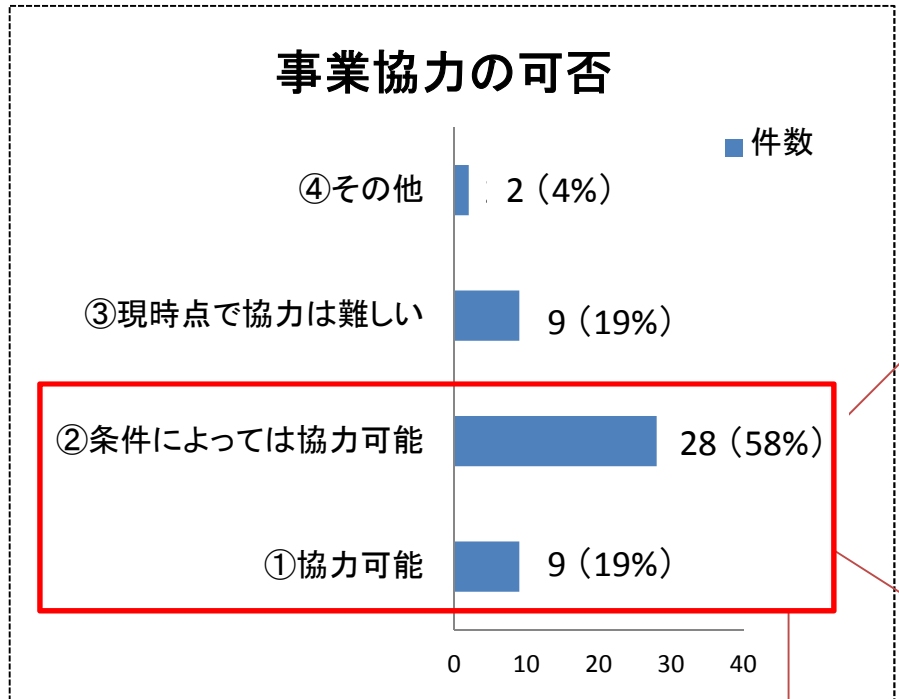
## 問6 広域支援センターが協力を依頼した場合の事業協力の可否



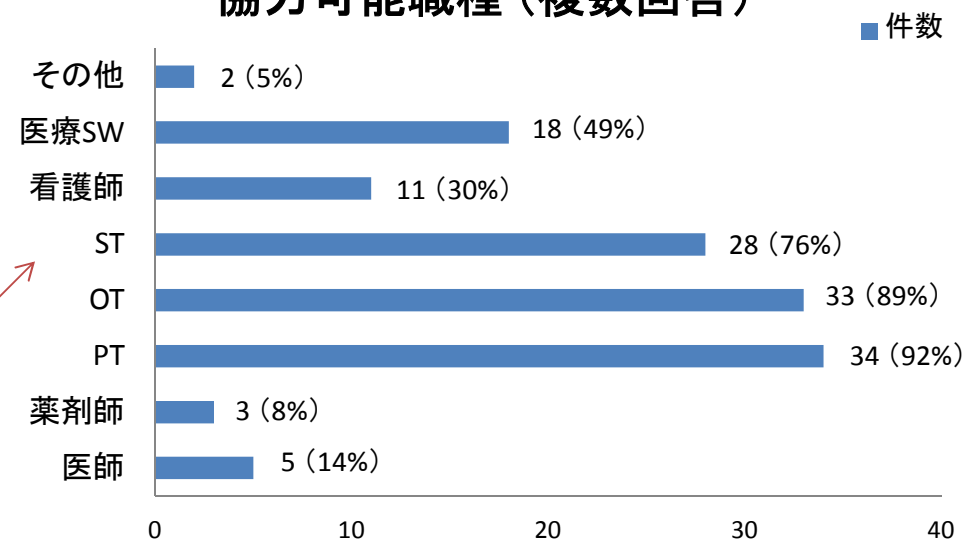
- 広域支援センターが協力を依頼した場合、回復期リハ病棟又は地域包括ケア病棟有する病院の77% (37病院)が「協力可能」、「条件によっては協力可能」と回答。

# 問6-1 事業協力の条件

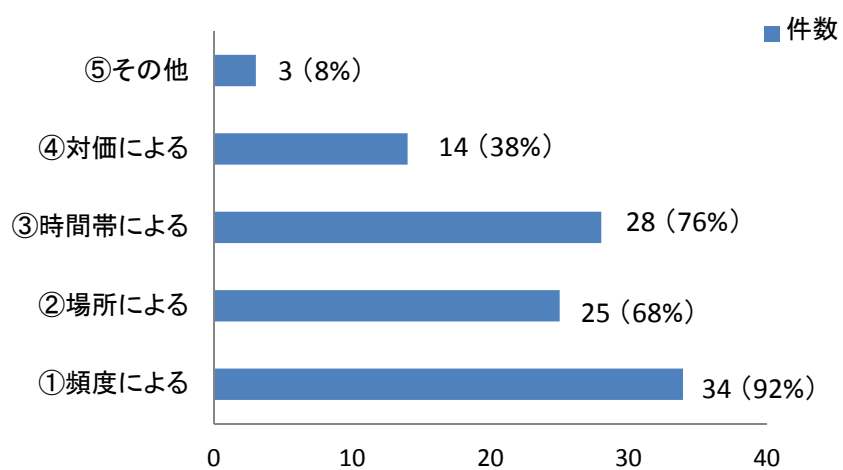
## 事業協力の可否



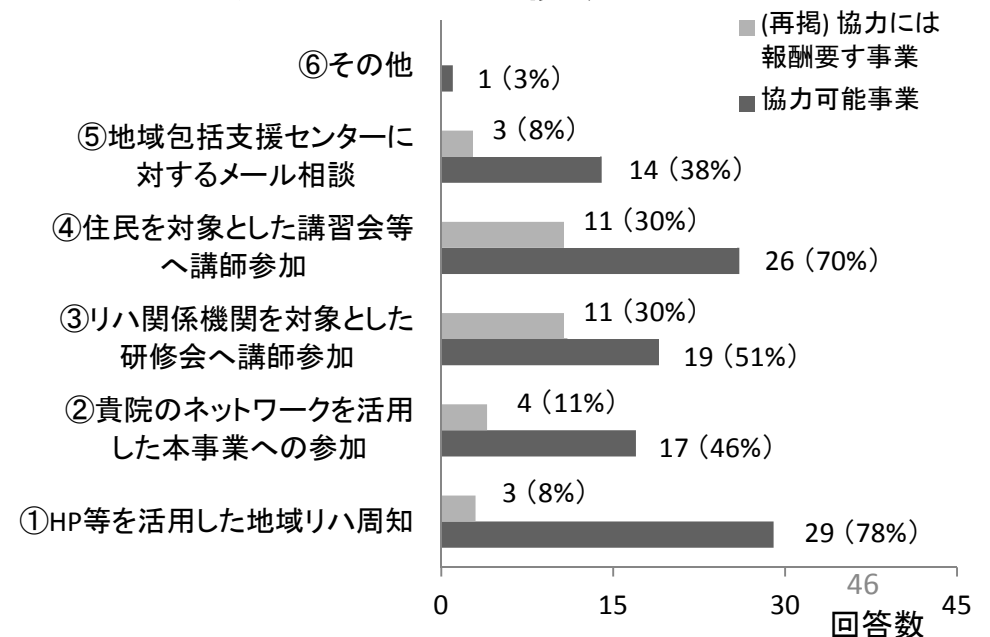
## 協力可能職種（複数回答）



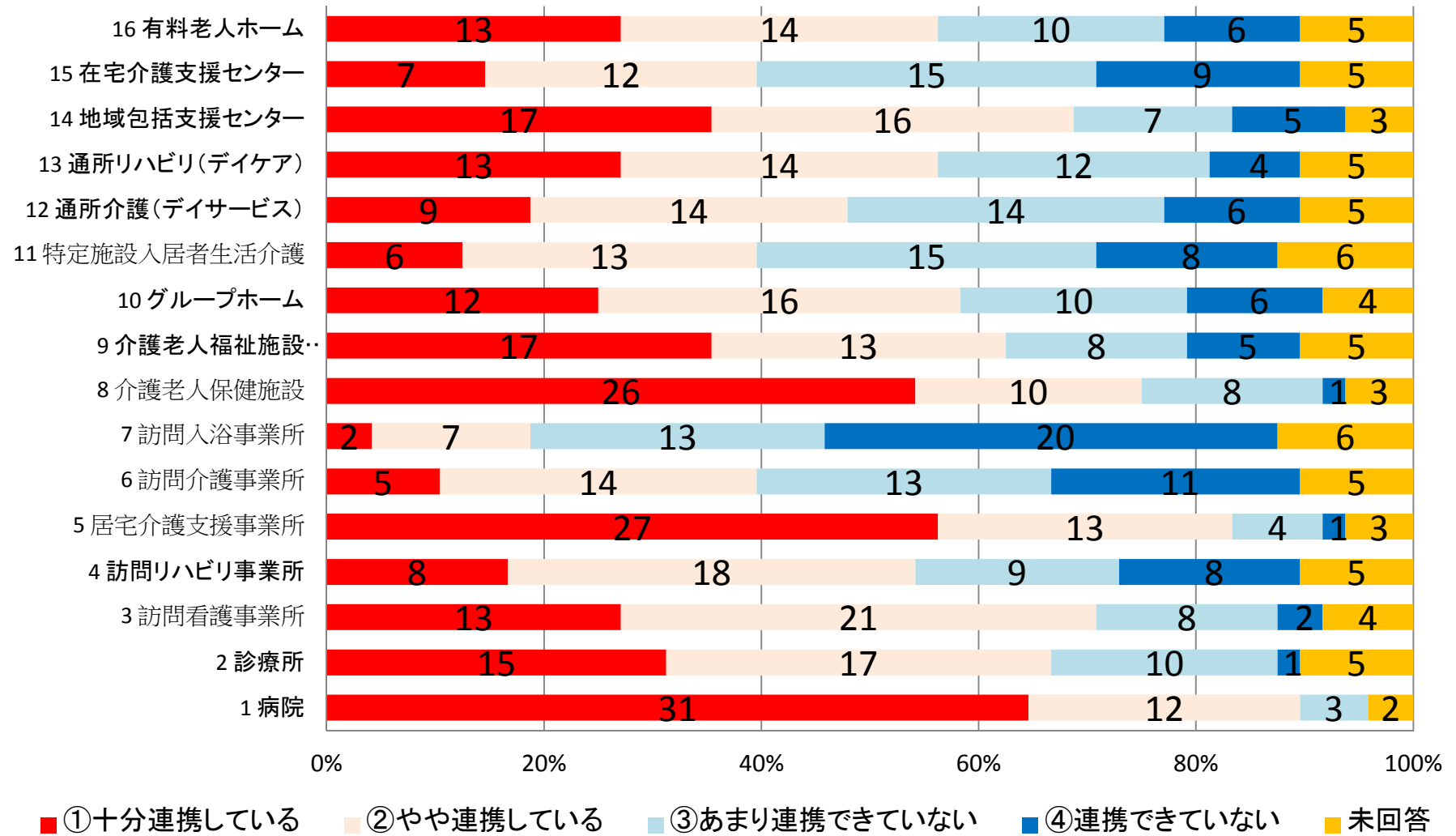
## 協力可否の条件（複数回答）



## 協力可能事業（複数回答）



## 問7 関係機関との連携状況







# 地域リハビリテーション推進のための 関係機関調査 (リハビリテーション科を標榜する診療所)

対象数 493診療所 回答数138診療所  
回答率28%

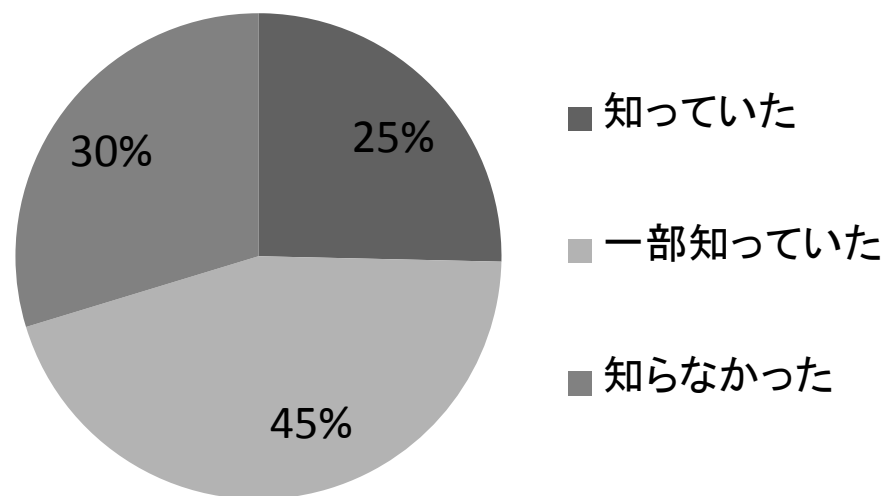
# 問1 「千葉県地域リハビリテーション連携指針」の機能・役割の認知度

## 【医療機関の機能・役割】

(地域リハビリテーション連携指針より抜粋)

- ・病院・診療所等の医療機関は、各疾患における急性期・回復期・維持期の地域リハビリテーションの推進を図る拠点であります。
- ・特に急性期から回復期においては、多職種による専門的かつ集中的なリハビリテーションを担っています。
- ・維持期においては、地域との切れ目ない連携を図る一方、リハビリ専門職による通所リハビリや訪問リハビリの拠点としても機能します。
- ・かかりつけ医においては、介護保険事業所等を含む地域リハビリテーション関係機関と連携し、在宅療養の継続・充実を図ります。

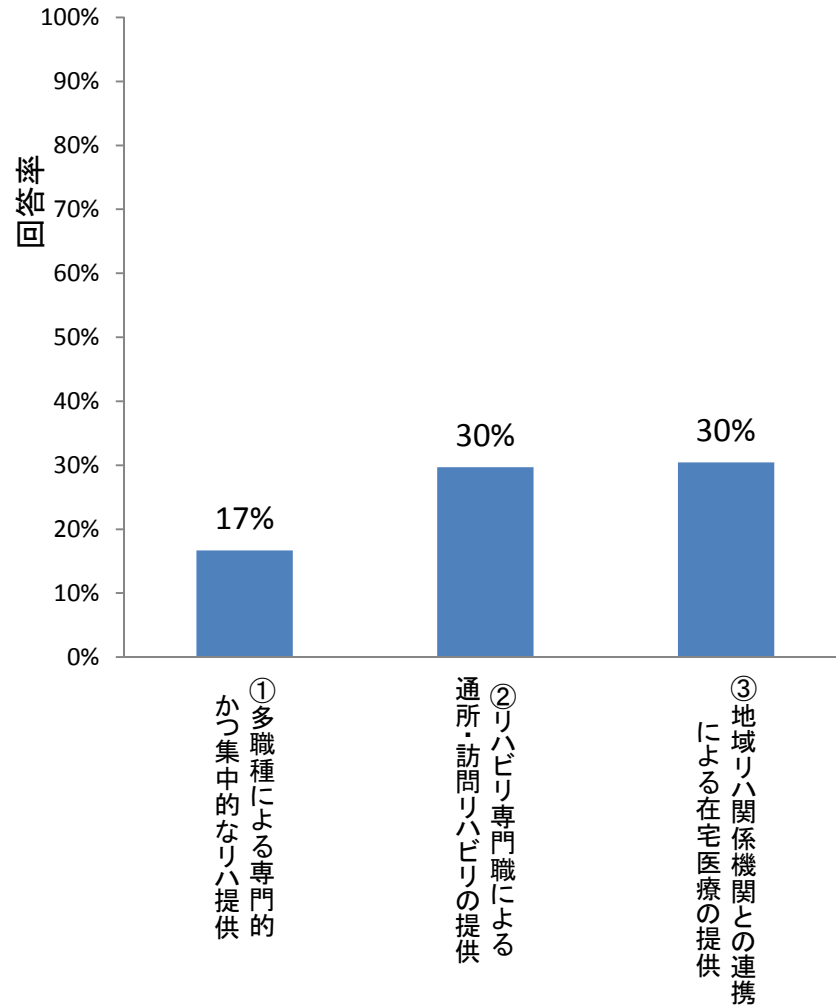
## 機能・役割の認知度



# 問1-1 機能・役割の実行状況

## 機能・役割の実行状況 (複数回答)

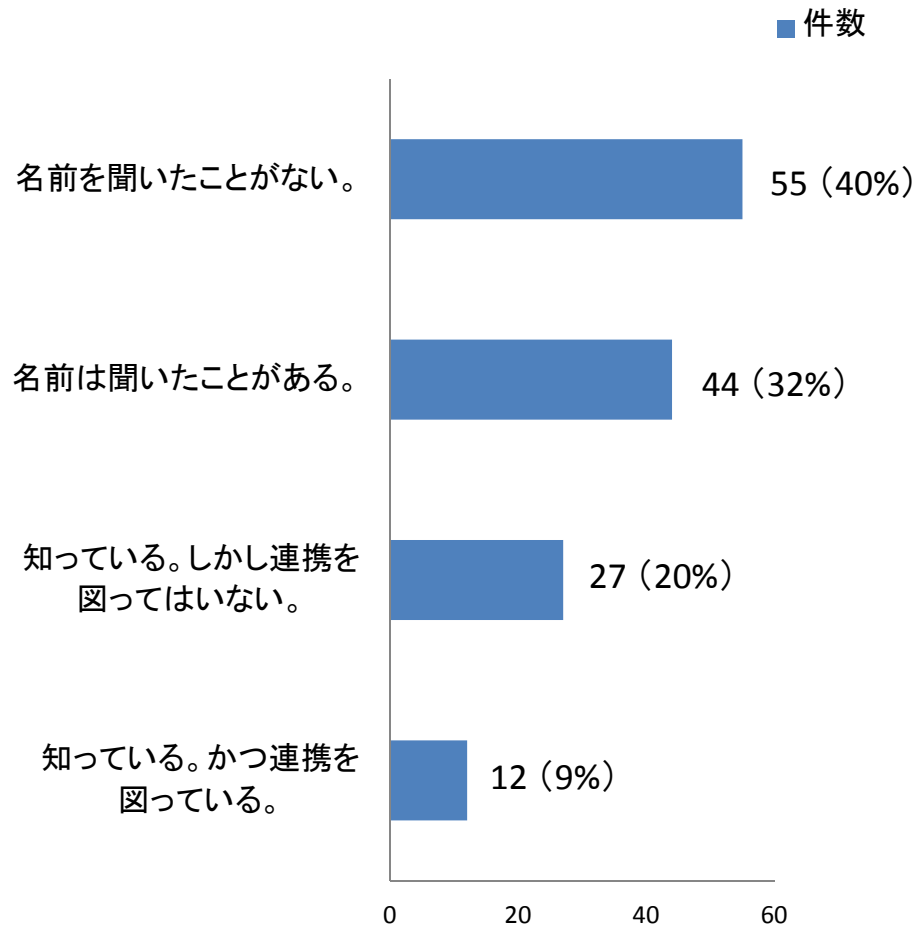
【その他、地域リハビリテーション推進のために  
取り組んでいること】



- ・地域リハビリテーション支援センターと連携している。
- ・2か月に1度市民向けに無料体操教室を開催。
- ・年に数回体操教室等の開催。
- ・健康教室、骨粗鬆症教室、運動習慣へのすすめ等。
- ・モチベーション向上のためのイベント(講演等)。
- ・市介護予防事業(ヘルスアップ教室、シニアリーダー講座)の受託。地域自治会、サロンでの体操・健康教室の開催。
- ・教育・福祉施設への訪問指導。
- ・同一法人内でのデイサービス、介護支援事業。
- ・患者のリハビリについてケアマネージャーと連携している。
- ・関連施設のデイサービスでPTを配置し、リハビリを提供している。
- ・外来にて維持期リハビリ、ロコモティブシンドロームの発見・治療、未治療の骨粗しょう症の発見・治療、通所介護によるリハビリ。
- ・診療所で実施できるリハビリテーション、付属のクリニックとして術後のリハビリテーション。
- ・特別養護老人ホームの嘱託として積極的に取り入れている。
- ・疾病予防運動療法施設(健康日本21に基づく)。
- ・温泉療法等。
- ・維持期のみ。

## 問2 広域支援センターとの現在の関係

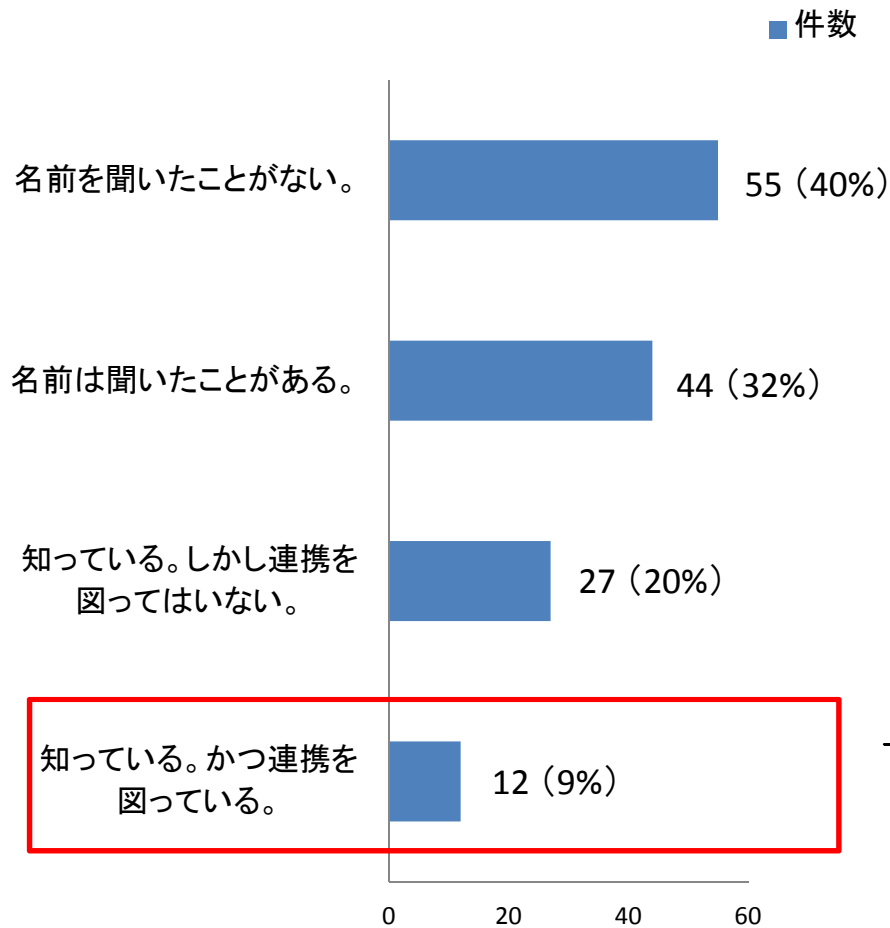
### 広域支援センターとの現在の関係



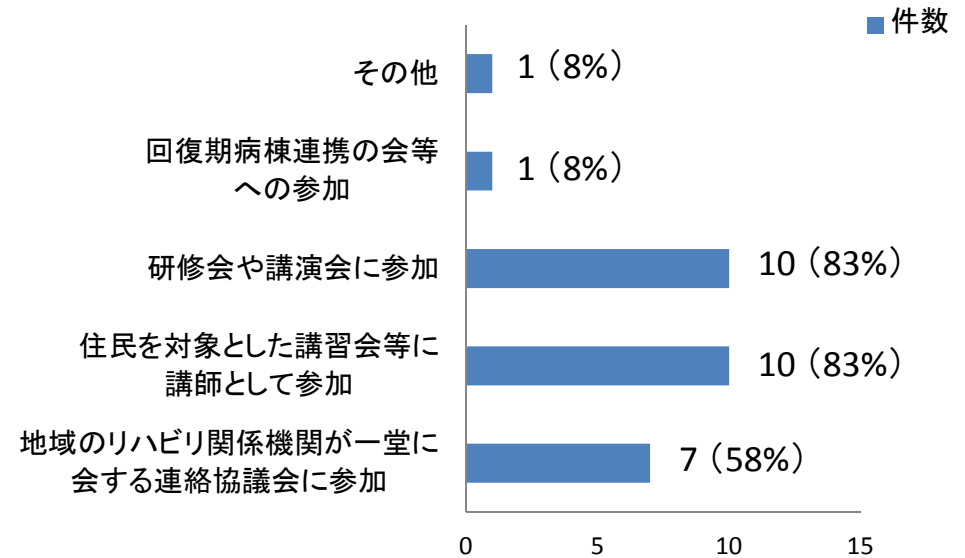
- 広域支援センターを知っており、かつ連携を図っている割合は8% (12診療所)
- 広域支援センターを知っているが、連携を図っていない割合は20% (27診療所)
- 名前を聞く程度32% (44診療所)
- 名前を聞いたことない40% (55診療所)

## 問2-1 広域支援センターと連携したことのある事業内容

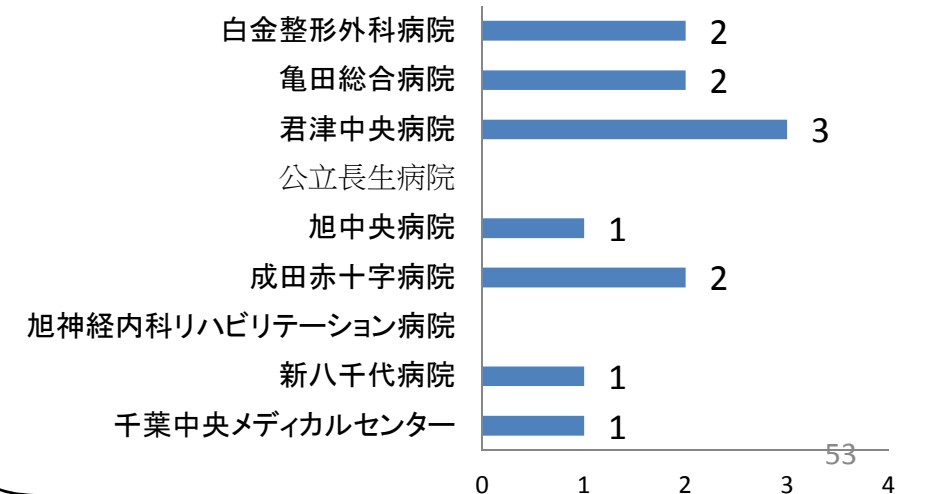
### 広域支援センターとの現在の関係



### 連携したことのある事業(複数回答)

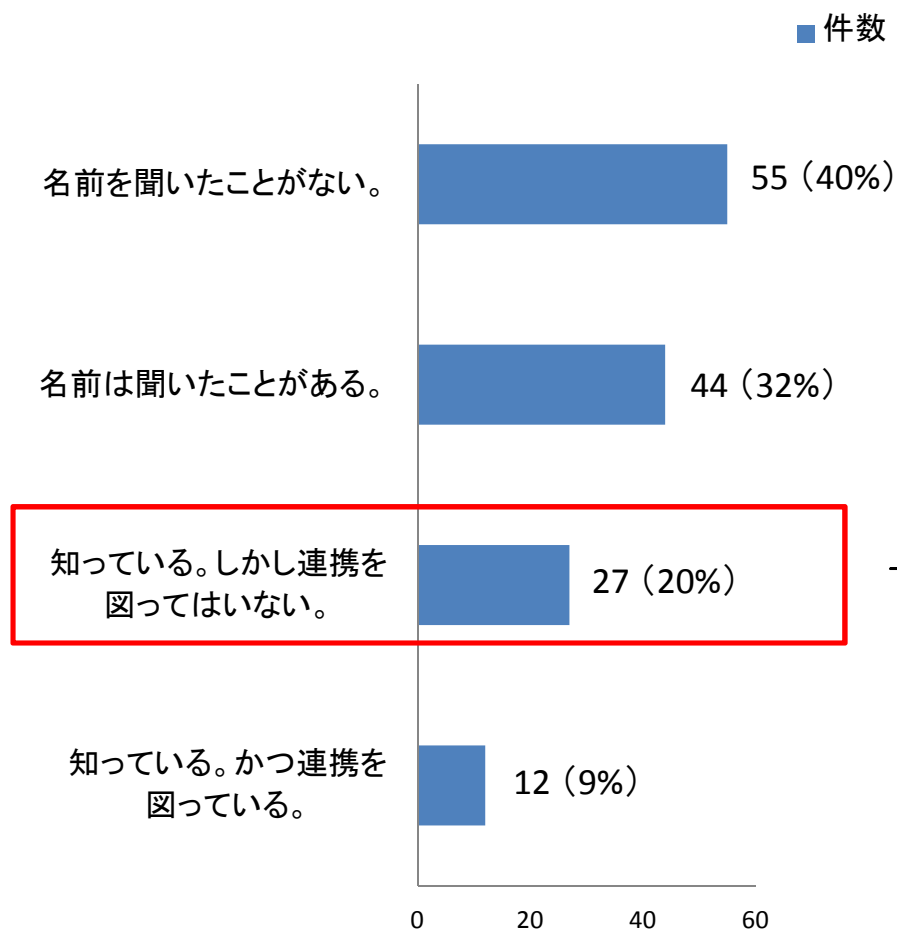


### 連携先の広域支援センター

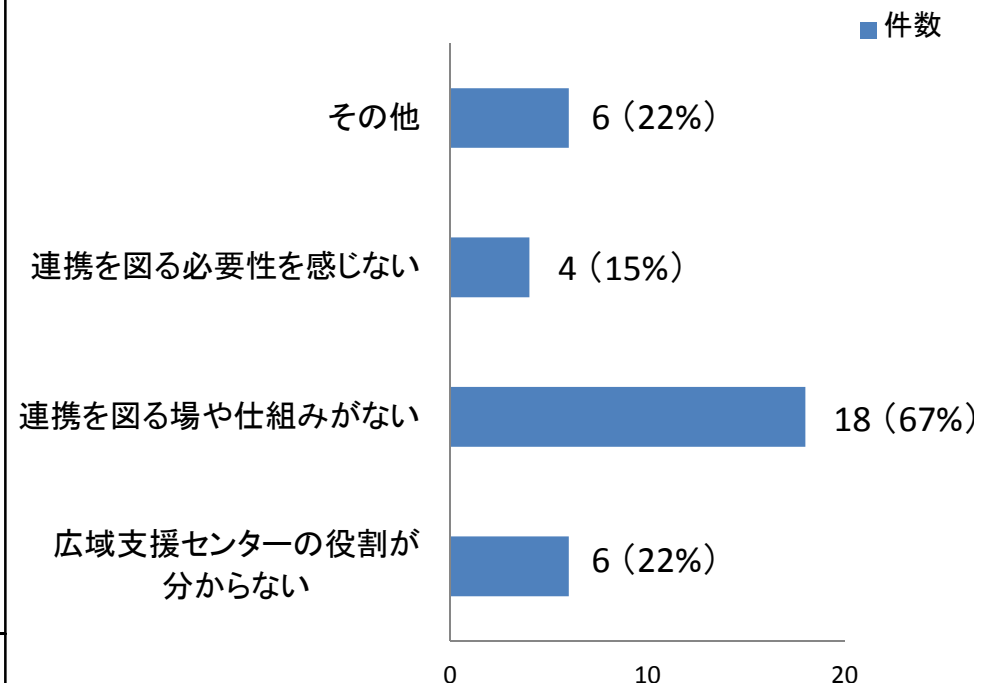


## 問2-2 広域支援センターと連携を図っていない理由

### 広域支援センターとの現在の関係



### 連携を図っていない理由(複数回答)

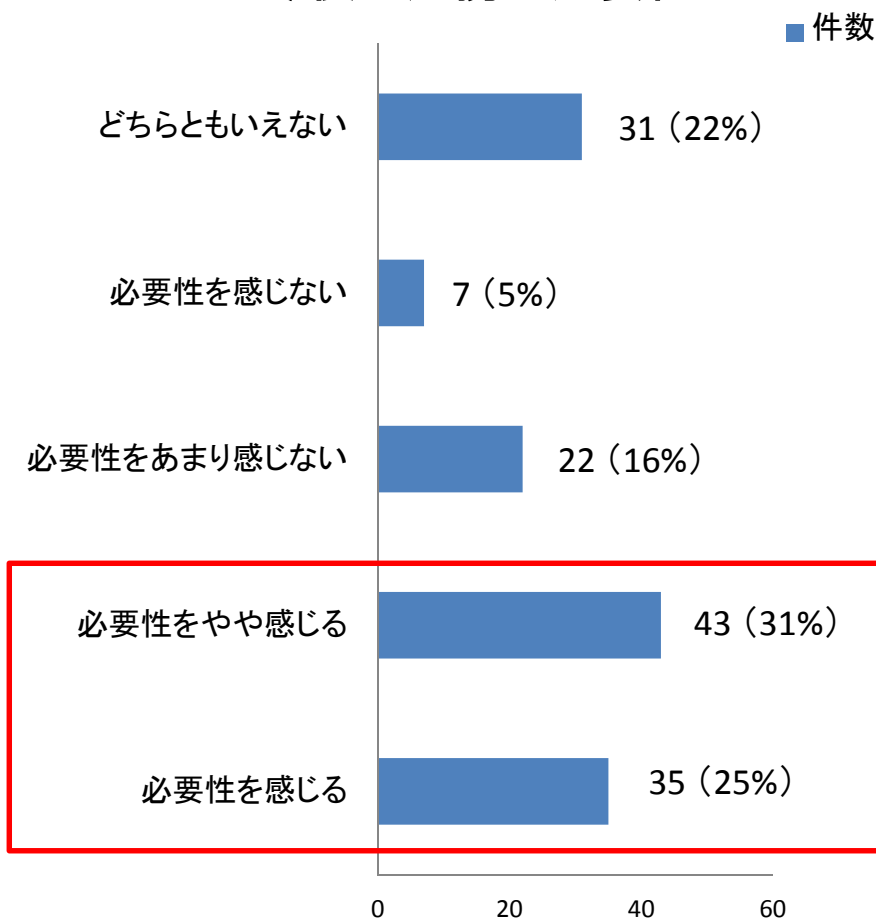


### その他の理由

- ・地域が離れている。
- ・人材不足で受けてもらえない。
- ・広域支援センターから連絡が来ていない。
- ・忙しくて参加できていない。
- ・当院に担える機能がない。
- ・適切なサービスを提供できないため。

### 問3 広域支援センターとの今後の連携の必要性

今後の連携の必要性

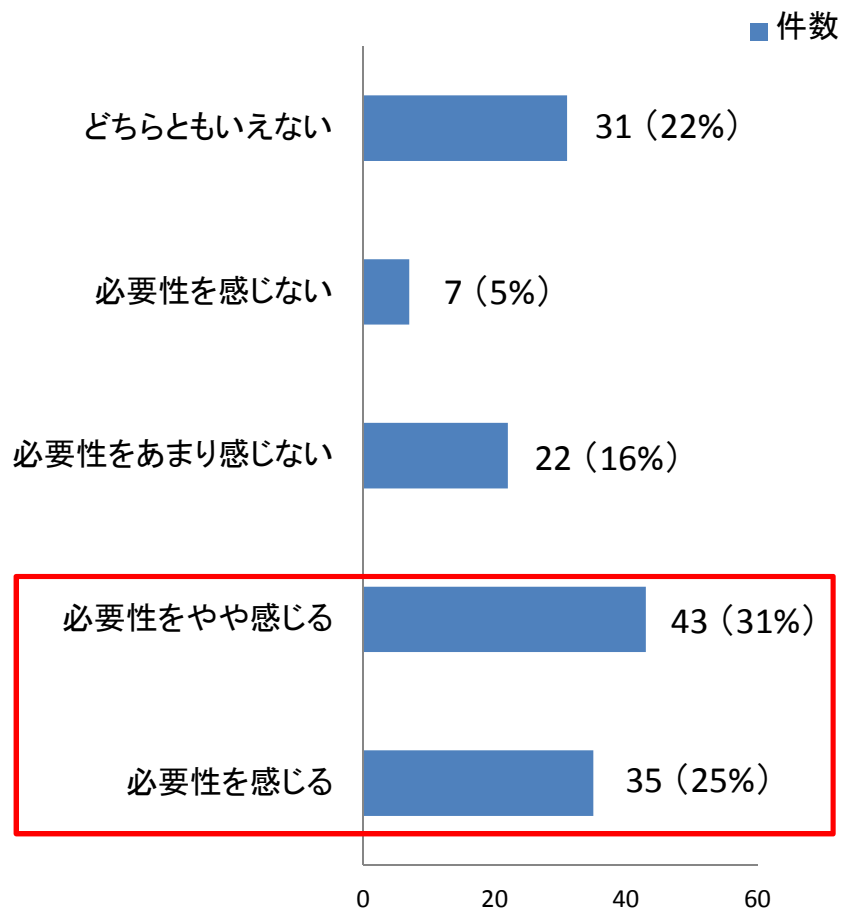


- 今後、連携の必要性について、56% (78診療所) が「感じる」、「やや感じる」と回答した。

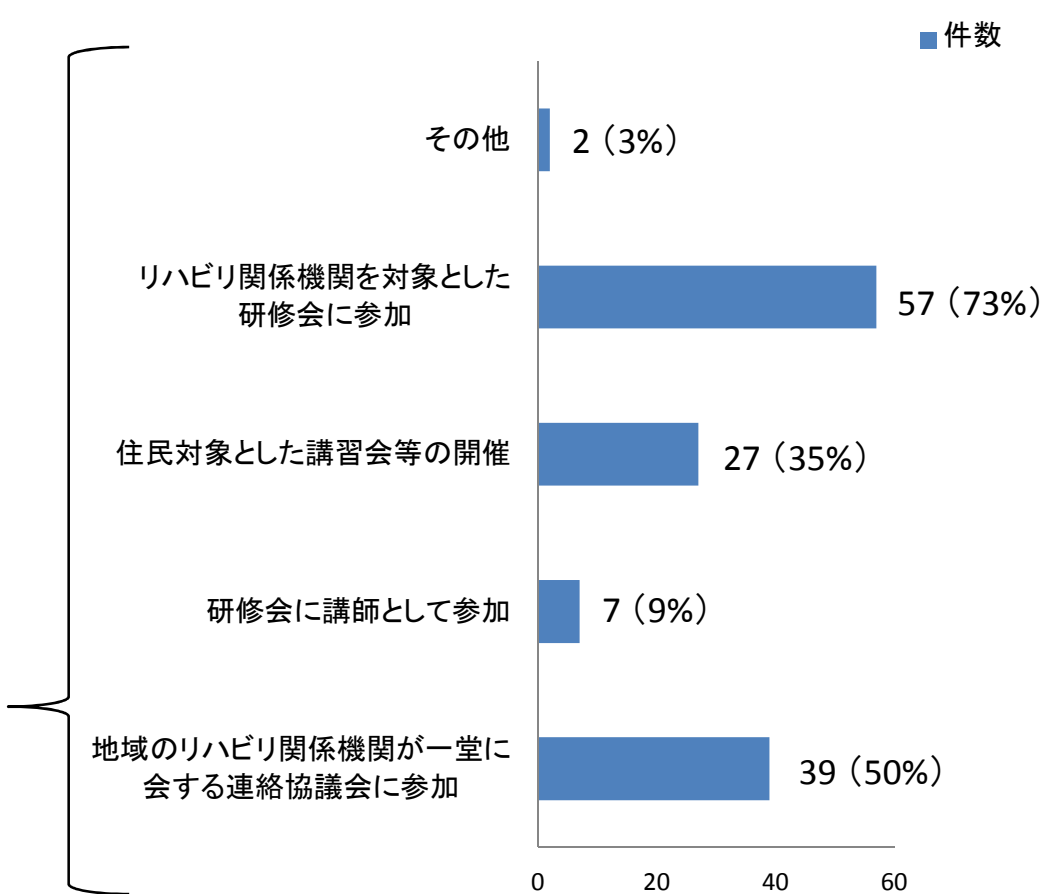


# 問3-1 広域支援センター業務のうち連携を図りたい事業内容

## 今後の連携の必要性

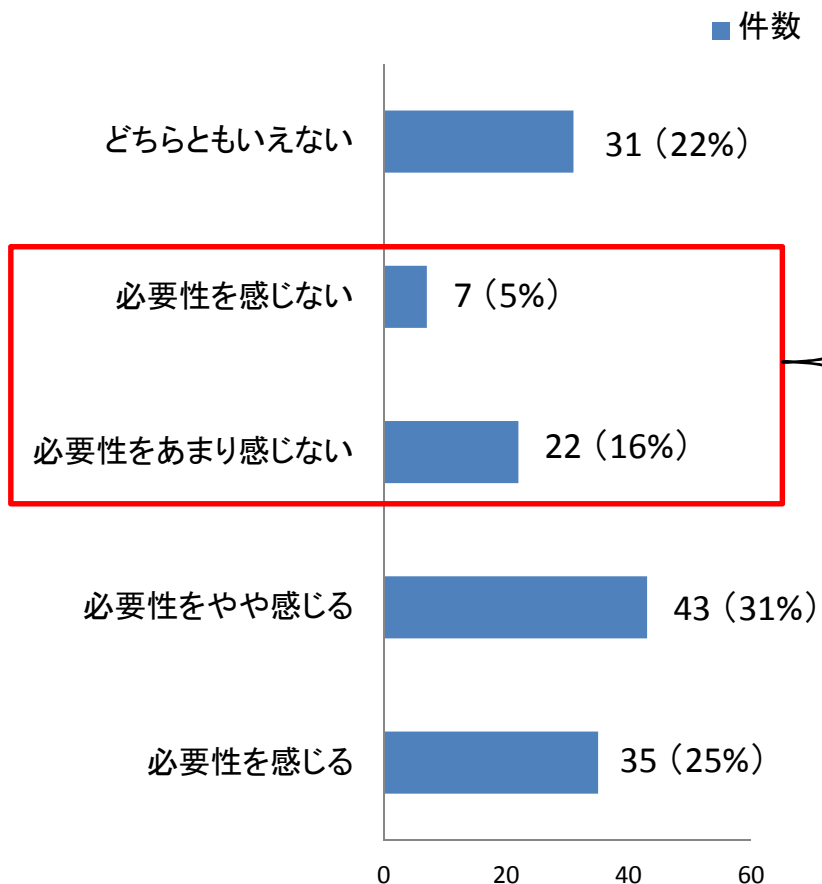


## 今後期待する連携内容(複数回答)

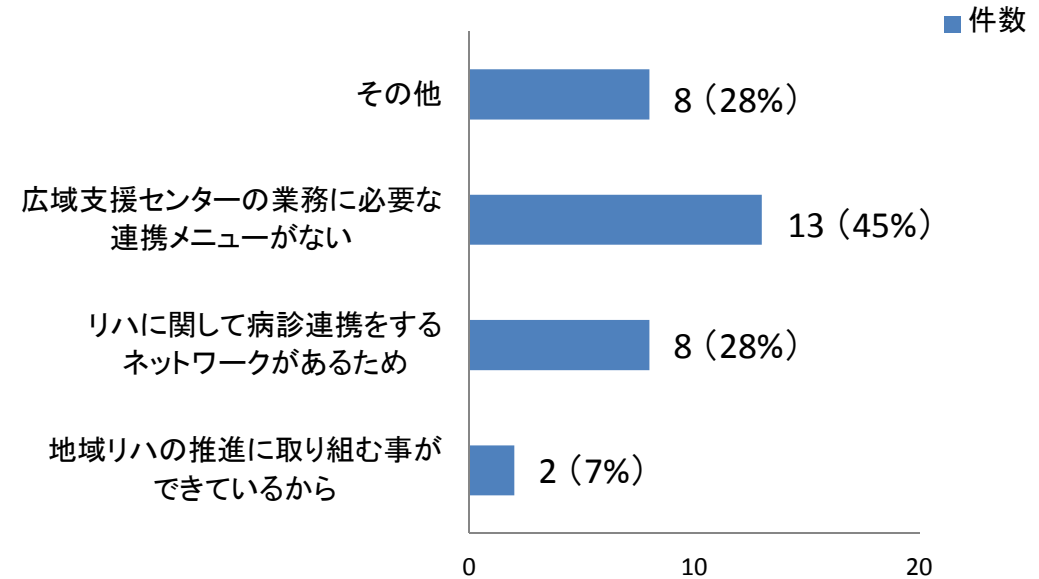


## 問3-2 広域支援センターと連携の必要性を感じない理由

### 今後の連携の必要性



### 連携の必要性を感じない理由(複数回答)



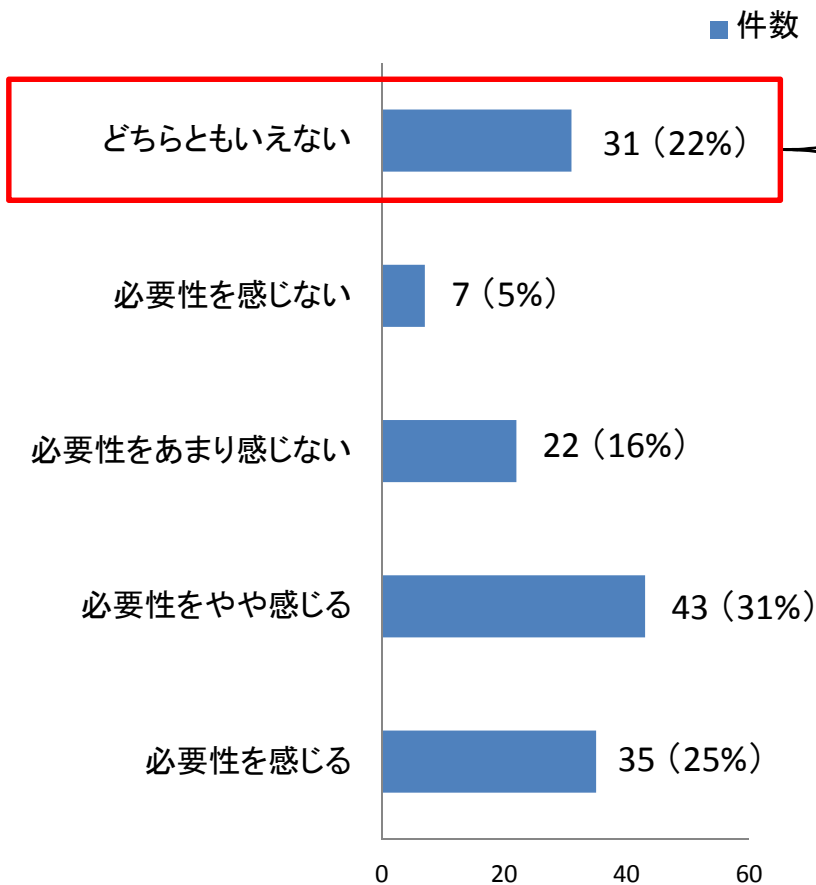
### その他の理由

- ・連携の具体的な方法が未周知。
- ・実感がわからない。
- ・民間医療機関のリハビリとの連携がある。
- ・現行で手いっぱいである。
- ・週3回半日のみの診療なので。
- ・当院のリハビリは医学適応のみ。

# 問3-3 広域支援センターと連携の必要性についてどちらともいえない理由

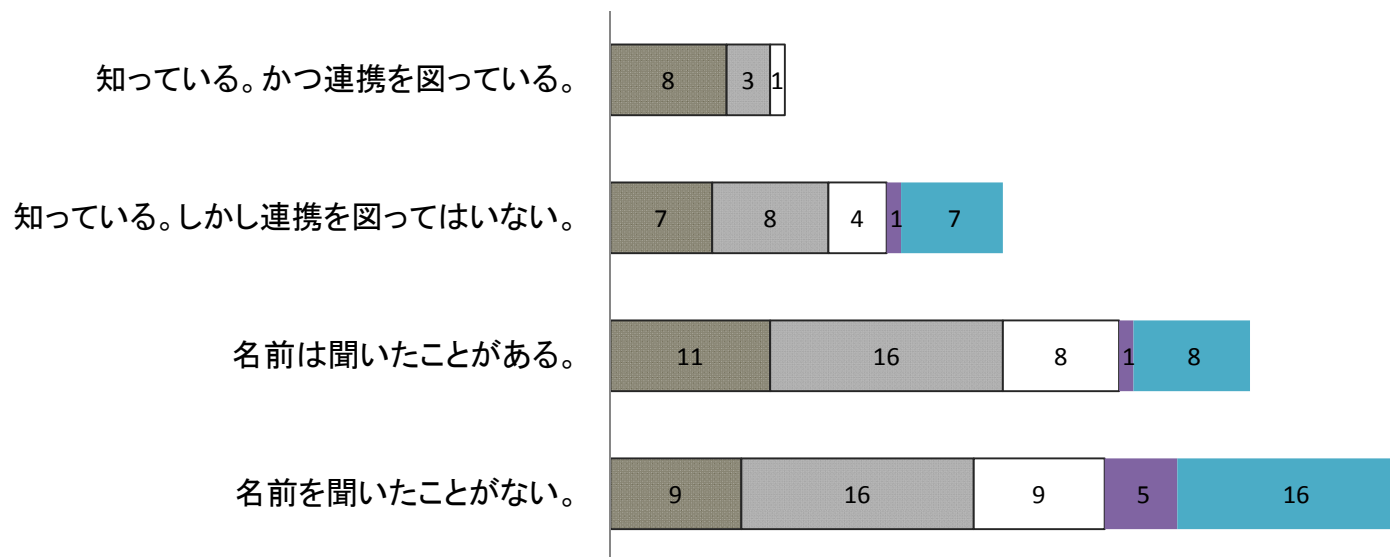
## どちらともいえない理由

## 今後の連携の必要性



- ・実態が不明であるから。認識していないから。
- ・どのように連携できるか不明のため。
- ・連携をしていないのでわからない。
- ・事業内容がよくわからない。
- ・情報が乏しく判断できない。
- ・良く知らないから。
- ・広域支援センターの役割を知らないため。
- ・広域支援センターの役割、具体的連携内容が分からない。
- ・広域支援センターが機能しているとは言い難い。
- ・常に上から目線のセンターであるから。
- ・遠方であるため、ほとんど利用できない状況である。
- ・近隣にセンターがない。遠いから来院するのは大変。
- ・必要性を感じないから。
- ・連携を図っても実際行えることは少ない。
- ・当該病院と病診連携をしているが、それ以上のシステムとしての機能は必要か？
- ・組織内の後送施設を利用できる。
- ・連携における当院の役割、メリット、エリア的關係。
- ・必要性を感じますが、肉体的時間的に無理がある。
- ・連携はとても大切ではあるが、リハビリにおける連携は課題。
- ・当院ではPT,OTがいるわけではなく、それほど重度な患者さんがいないため。
- ・当院では現在リハビリテーション施術していない。
- ・当院の受け入れ体制が整っていないため。
- ・現在病院診療所ともに経営問題が深刻であり、連携せず個々に抱えてしまう傾向にあるから。

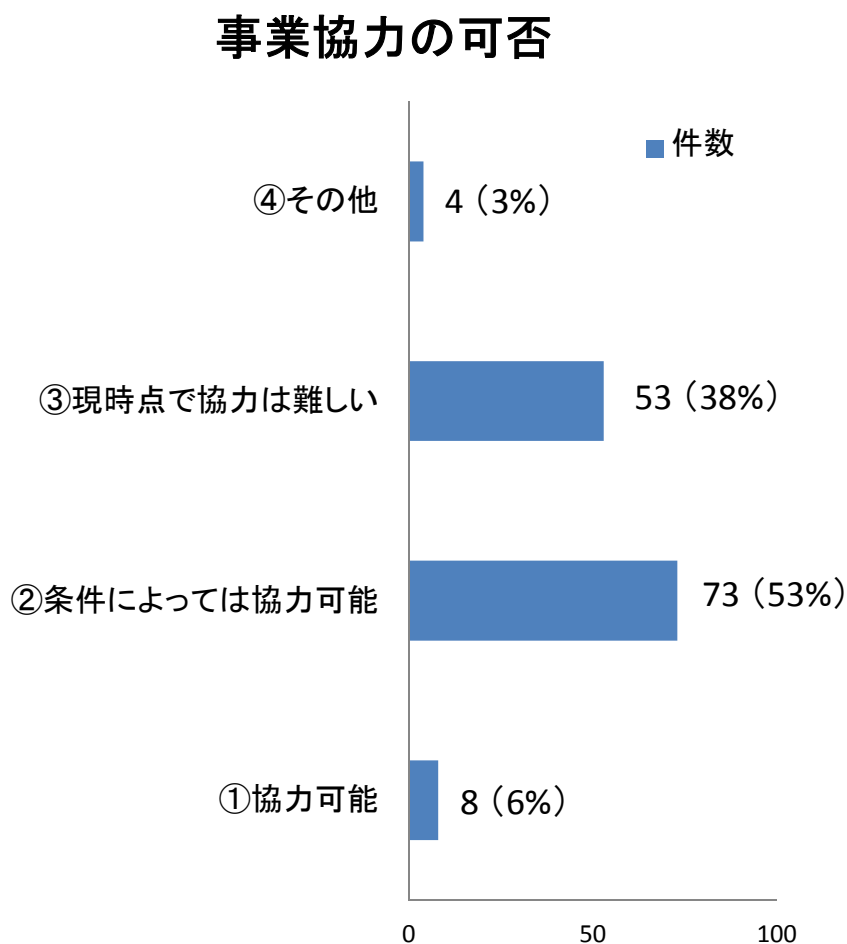
# 広域支援センターとの「現在の関係(問2)」と「今後の連携の必要性(問3)」との関連



■ ①必要性を感じる ■ ②必要性をやや感じる □ ③必要性をあまり感じない ■ ④必要性を感じない ■ ⑤どちらともいえない

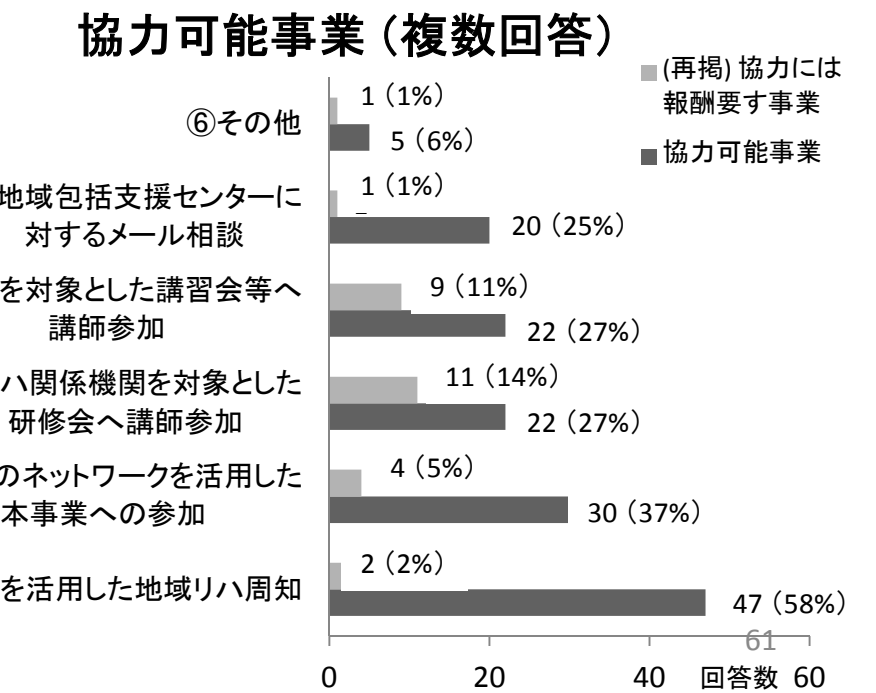
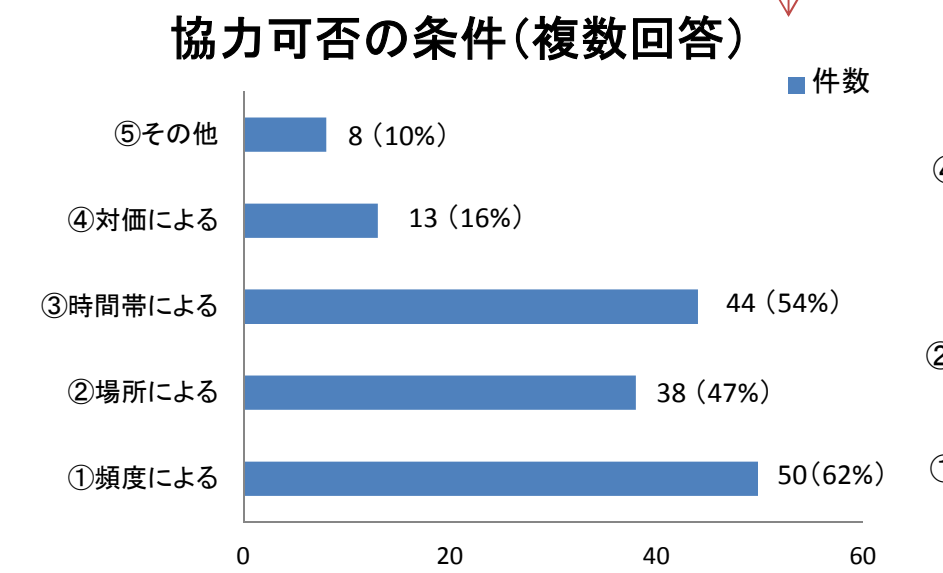
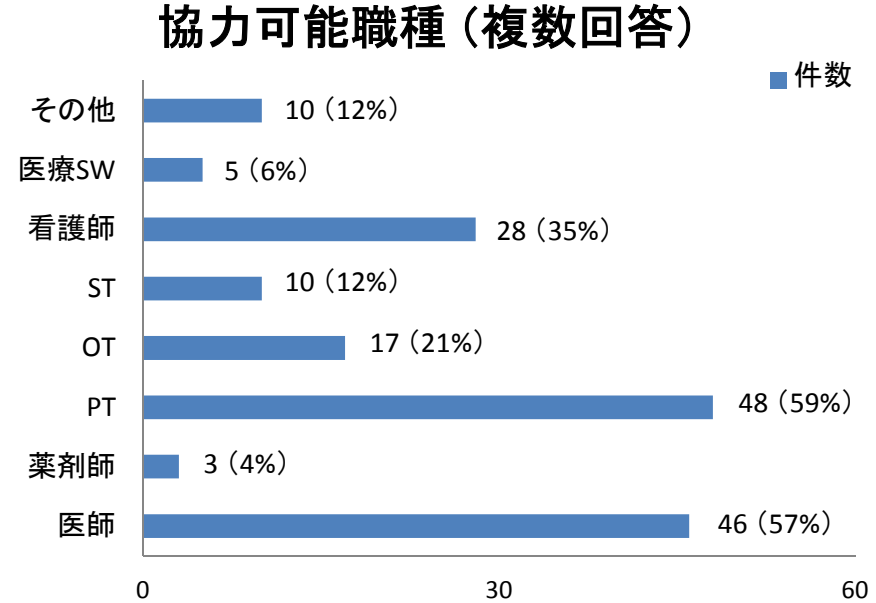
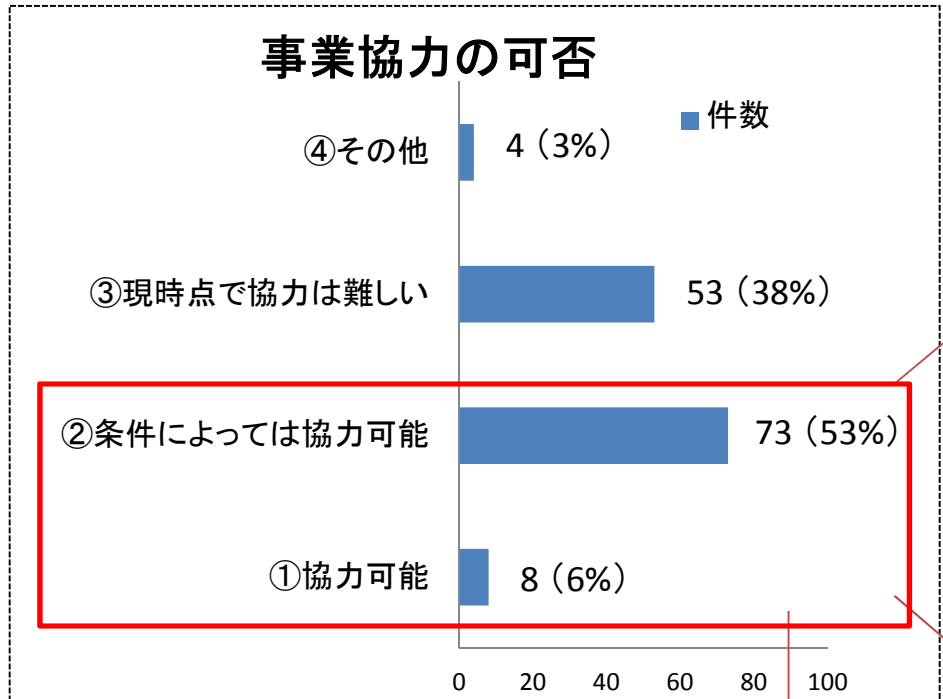
現在の関係 \ 今後の連携	①必要を感じる	②やや必要を感じる	③あまり感じない	④必要性がない	⑤どちらともいえない	計
知っている。かつ連携を図っている	8	3	1	0	0	12
知っている。しかし、連携を図っていない	7	8	4	1	7	27
名前は聞いたことがある	11	16	8	1	8	44
名前を聞いたことがない	9	16	9	5	16	55
計	35	43	22	7	31	138

## 問4 広域支援センターが協力を依頼した場合の事業協力の可否

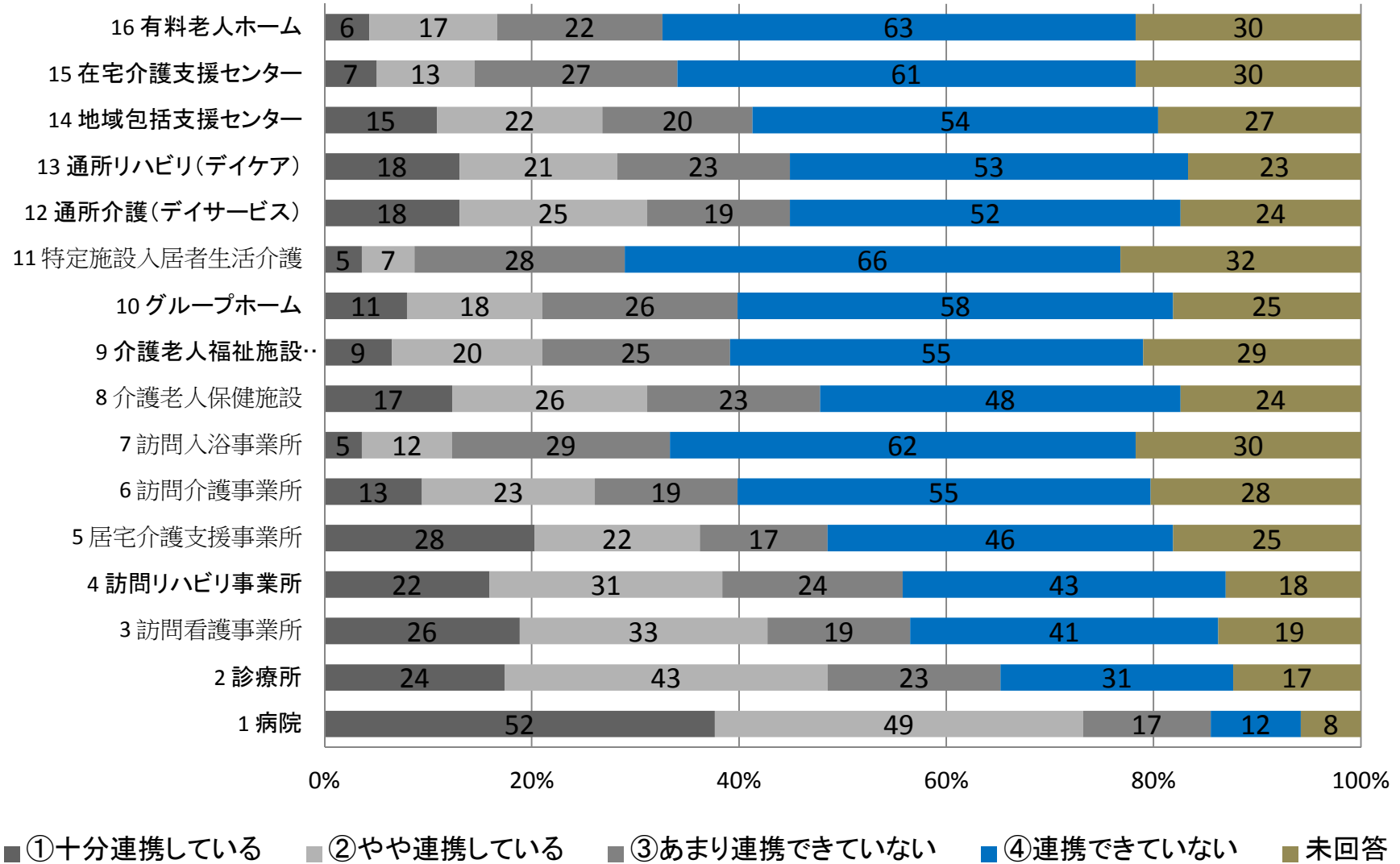


- 広域支援センターが協力を依頼した場合、リハビリテーション科を標榜する診療所の59% (81診療所) が「協力可能」、「条件によっては協力可能」と回答。

# 問4-1 事業協力の条件

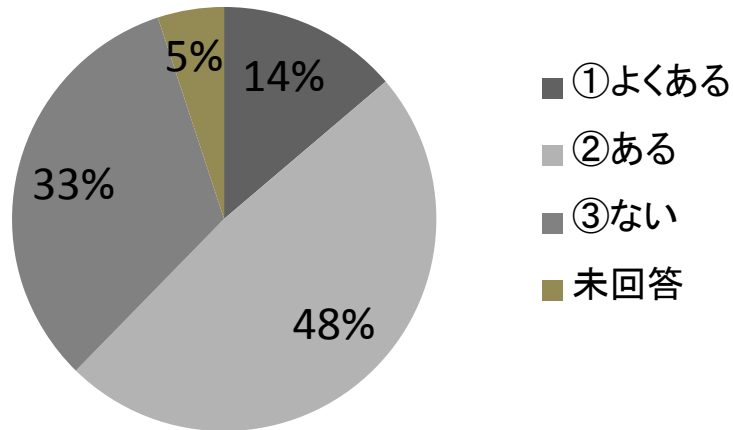


## 問5 関係機関との連携状況

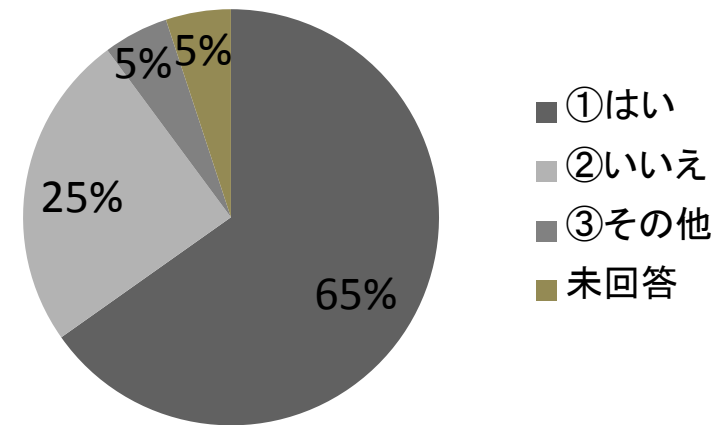


## 問6 かかりつけ医研修会等の希望

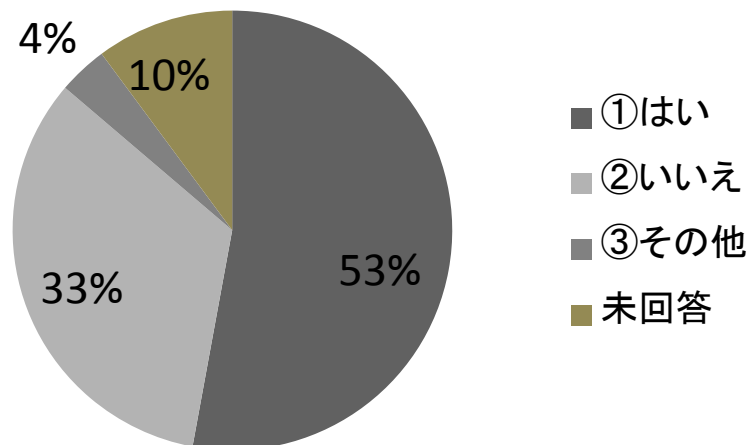
訪問リハビリ指示書を書いたことがあるか



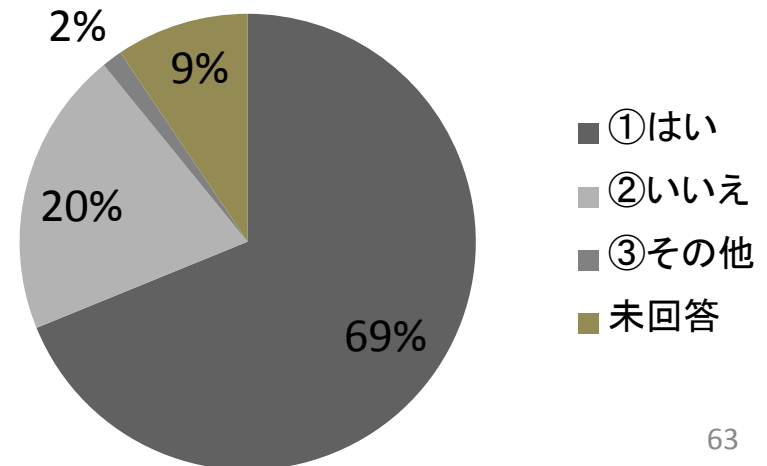
リハビリ医学研修の必要性  
(地域包括ケアシステム・リハビリ概論・実践等)



リハ科標榜していない医療機関の  
医師へのリハビリ医学研修の必要性



リハ科を標榜していない医療機関の医師に対する  
リハビリ専門医相談体制の必要性





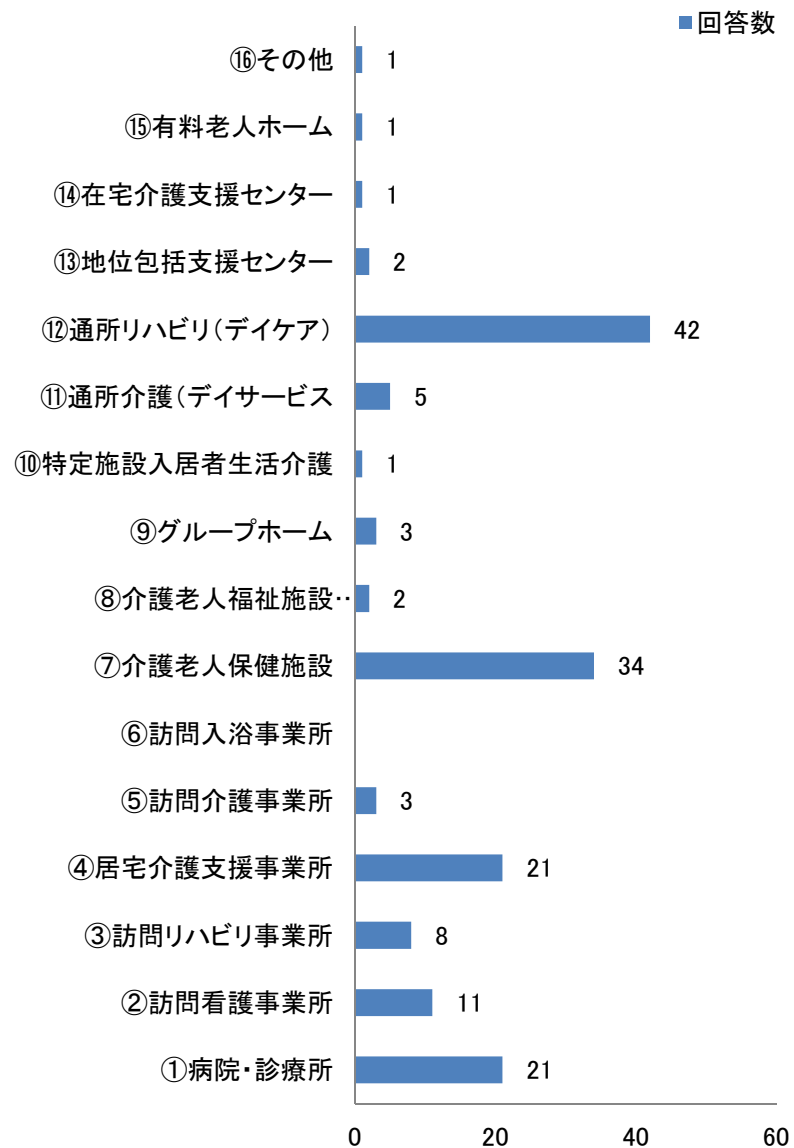


# 地域リハビリテーション推進のための 関係機関調査 (介護老人保健施設)

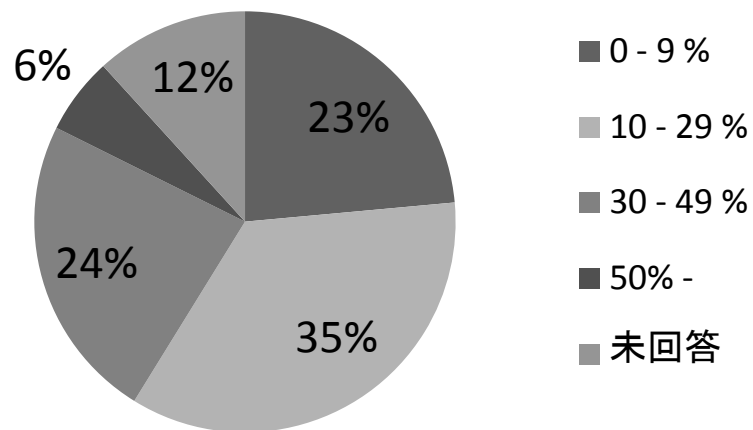
対象数 140事業所 回答数53事業所  
回答率38%

# 問1 事業所の概況

## 併設施設



## 在宅復帰率

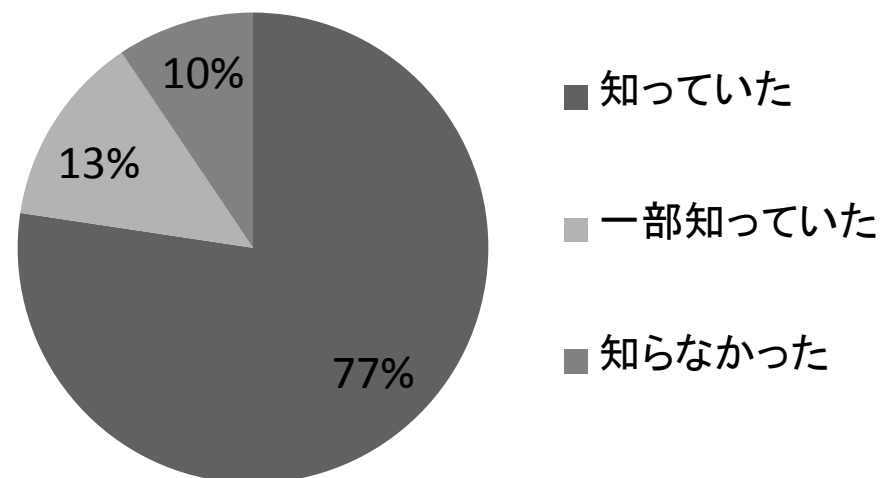


## 問2 「千葉県地域リハビリテーション連携指針」の機能・役割の認知度

### 【介護老人保健施設の機能・役割】 (地域リハビリテーション連携指針より抜粋)

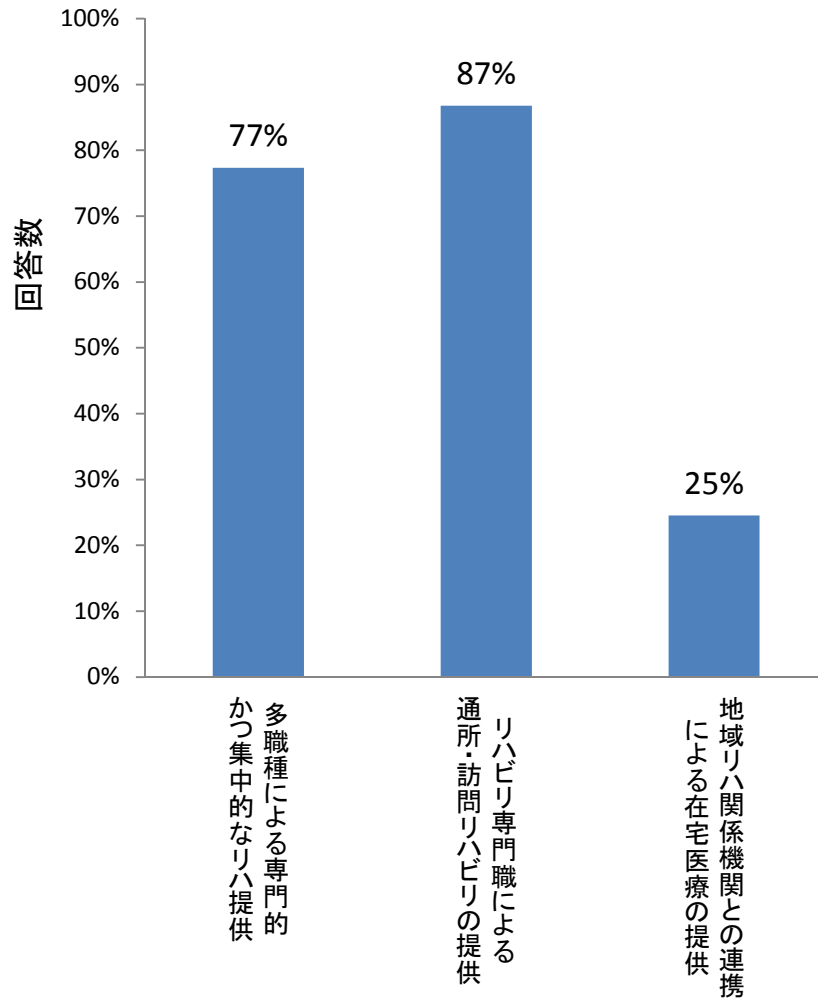
- ・介護老人保健施設は、入所者の在宅復帰を目的とする施設であり、医療機関との連携を取りつつ維持期のリハビリテーションを担っています。
- ・通所リハビリテーション事業所としての役割を担い、維持期のリハビリテーションとして介護スタッフやリハビリ専門職が連携を取りながら個々の生活機能の維持向上を援助します。
- ・在宅療養者に向けての環境調整や、継続的なリハビリテーションを受けるための家族及び各関係機関との連携を密にします。

### 機能・役割の認知度



## 問2-1 機能・役割の実行状況

### 各機能・役割の実行状況 (複数回答)

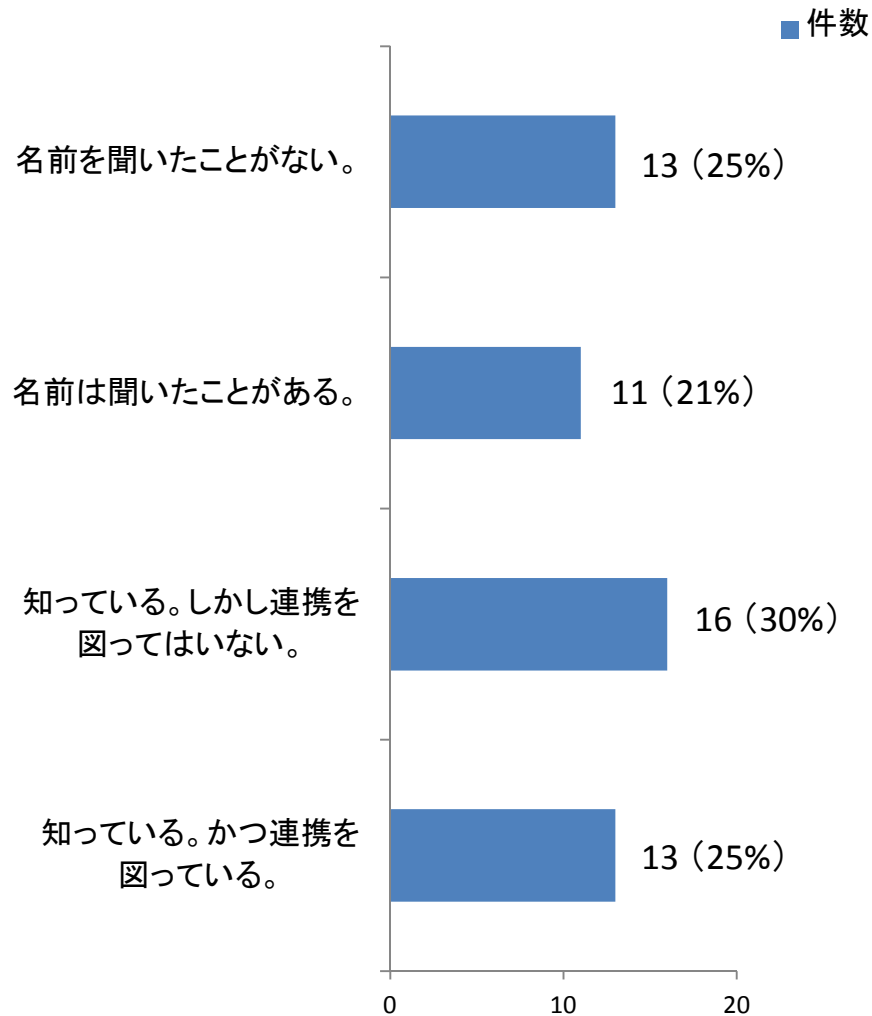


### 【その他、地域リハビリテーション推進のために取り組んでいること】

- ・地域リハ協議会等に参画。
- ・地域リハビリテーション協議会主催の研修会・勉強会へ参加。
- ・地域での家族介護教室の実施。
- ・健康セミナーの開催(不定期)。
- ・市の元気向上プログラム受託事業。
- ・市から委託されている地域支援事業(介護予防事業)の実施。
- ・地域支援事業等の行政との連携。
- ・リハ職が中心となり、法人内の病院や介護老人保健施設と連携。

### 問3 広域支援センターとの現在の関係

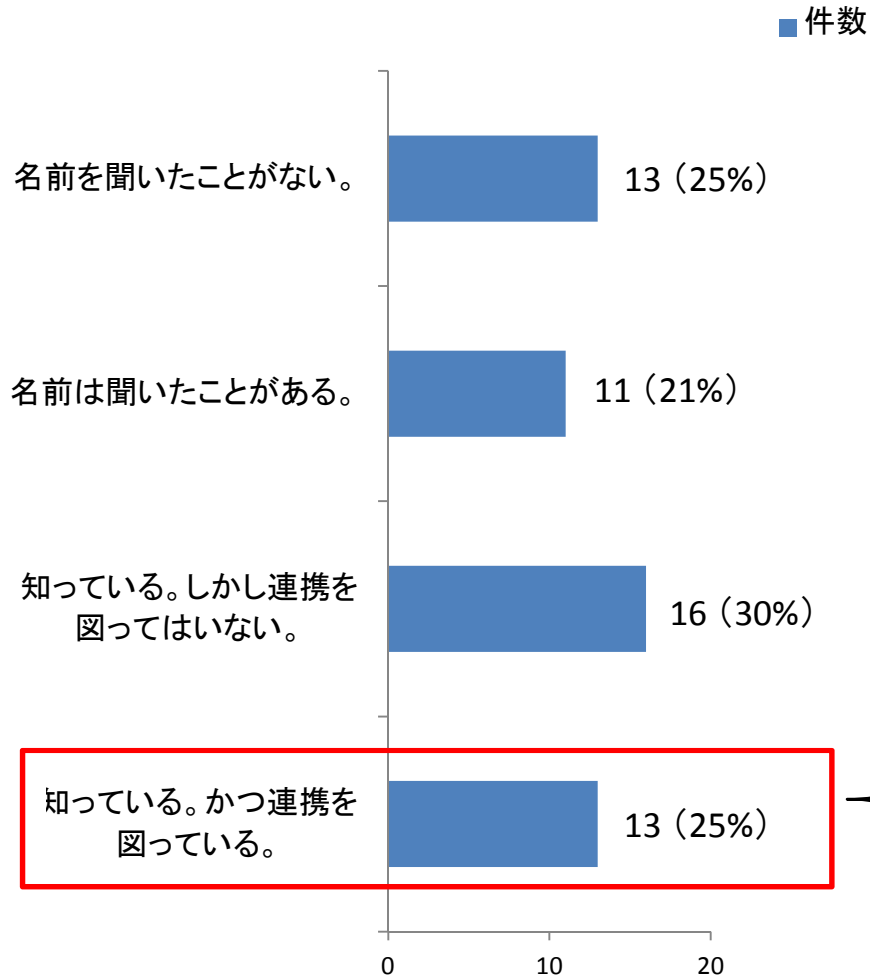
#### 広域支援センターとの現在の関係



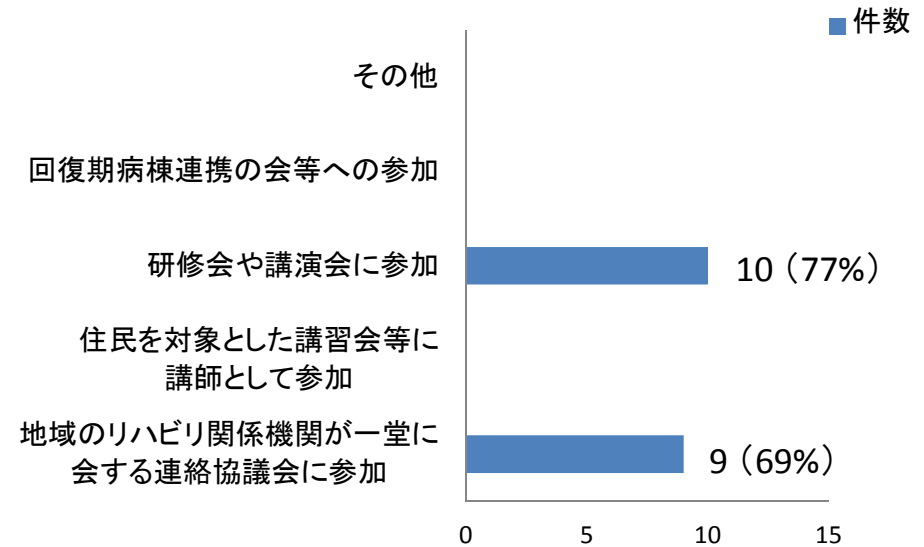
- 広域支援センターを知っており、かつ連携を図っている割合は25% (13事業所)
- 広域支援センターを知っているが、連携を図っていない割合は30% (16事業所)
- 名前を聞く程度21% (11事業所)
- 名前を聞いたことない25% (13事業所)

# 問3-1 広域支援センターと連携したことのある事業内容

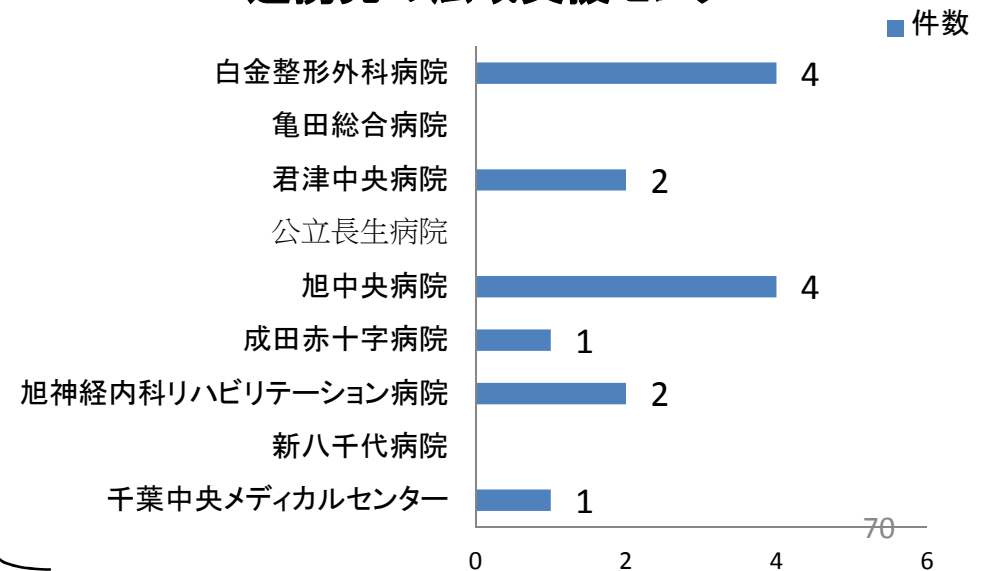
## 広域支援センターとの現在の関係



## 連携したことのある事業(複数回答)

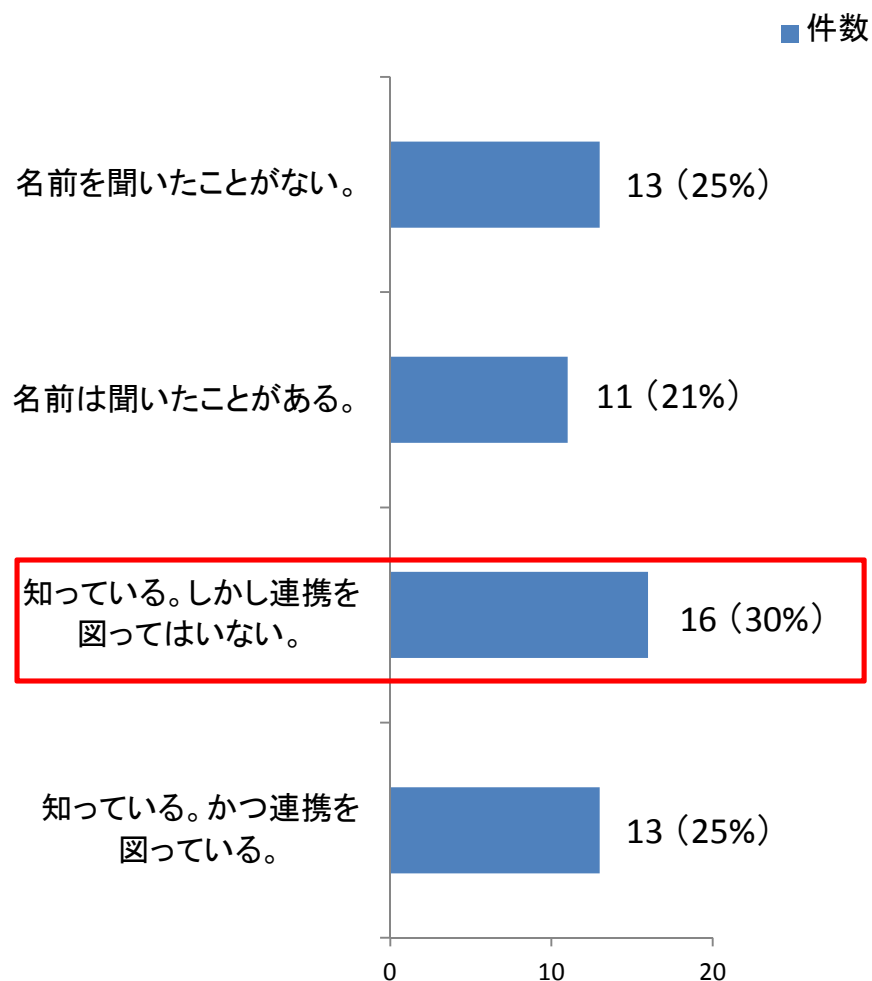


## 連携先の広域支援センター

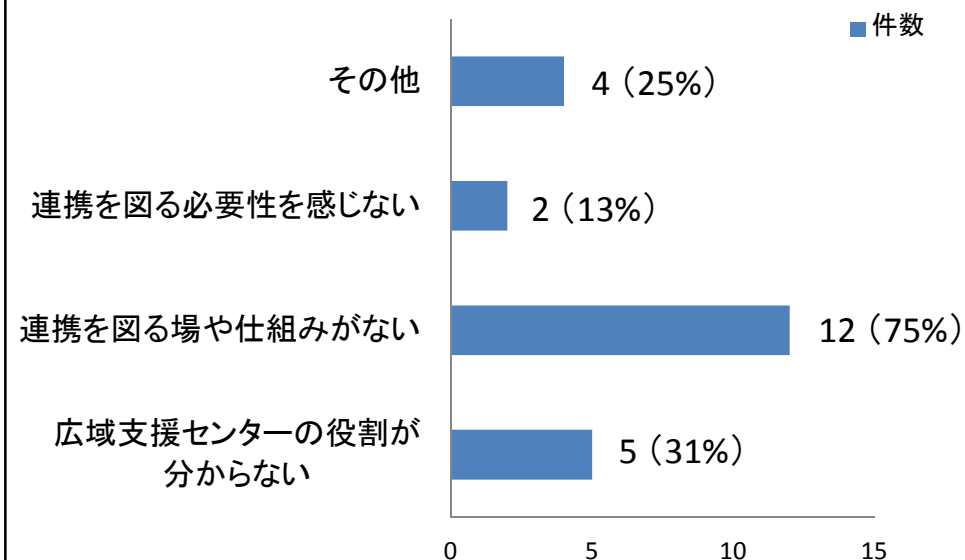


## 問3-2 広域支援センターと連携を図っていない理由

### 広域支援センターとの現在の関係



### 連携を図っていない理由（複数回答）

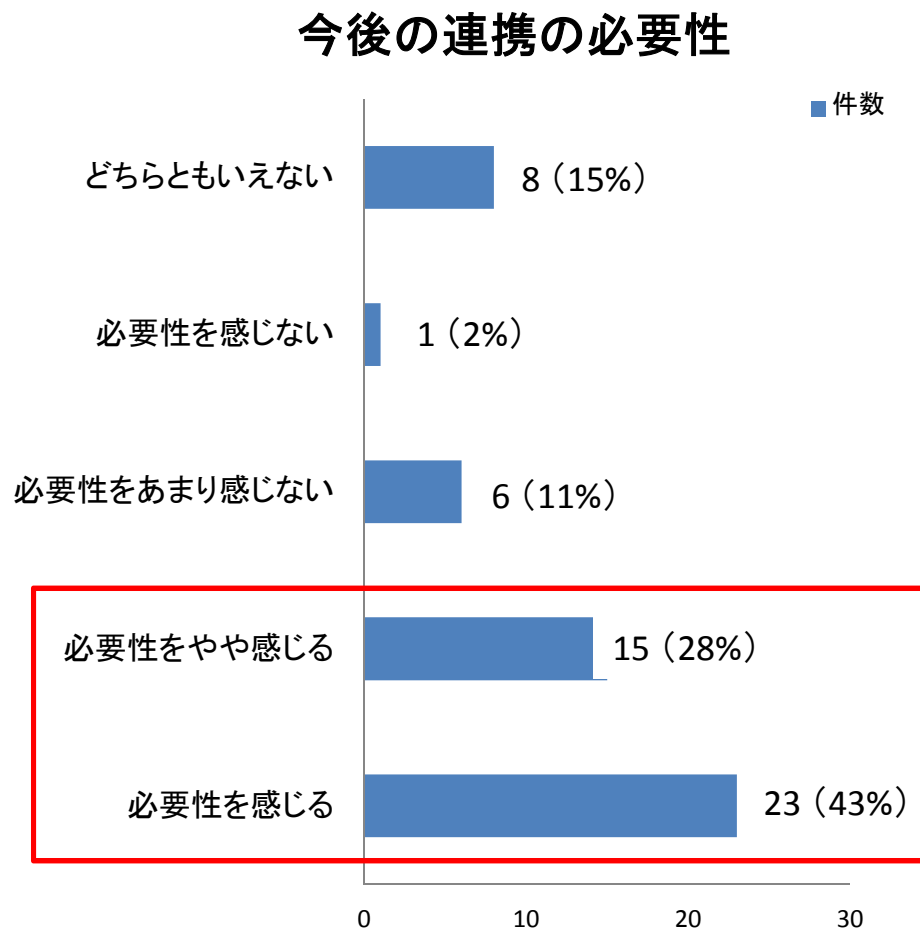


### その他の理由

- ・研修会実施しているのは知っている程度で具体的な連携方法が不明である。
- ・地域の近くにない。
- ・退院して自宅に戻れる方が少ない。
- ・現在必要な利用者が少ない。



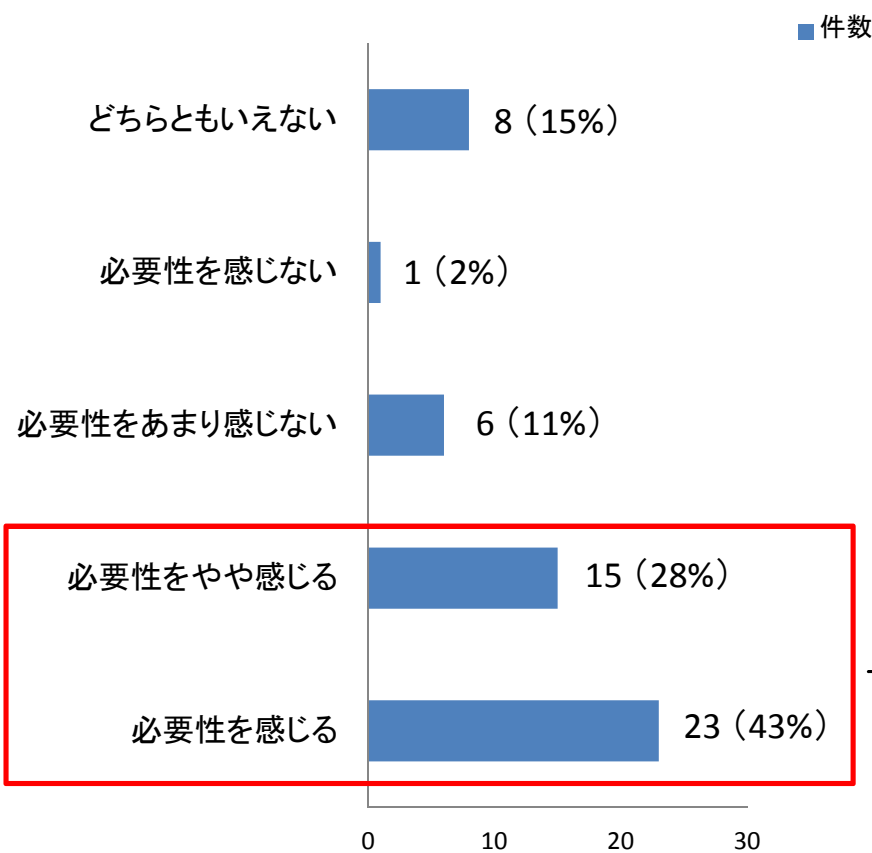
## 問4 広域支援センターとの今後の連携の必要性



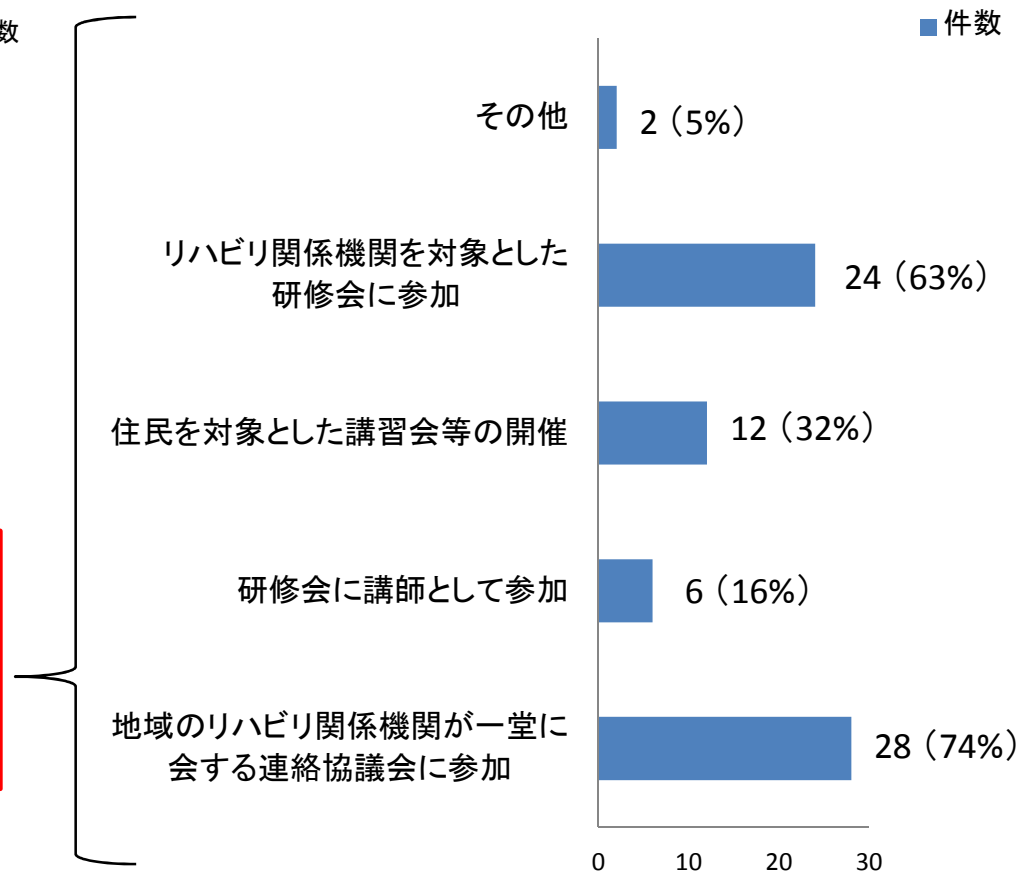
- 今後、連携の必要性について、71%(38事業所)が「感じる」、「やや感じる」と回答した。

## 問4-1 広域支援センター業務のうち連携を図りたい事業内容

### 今後の連携の必要性

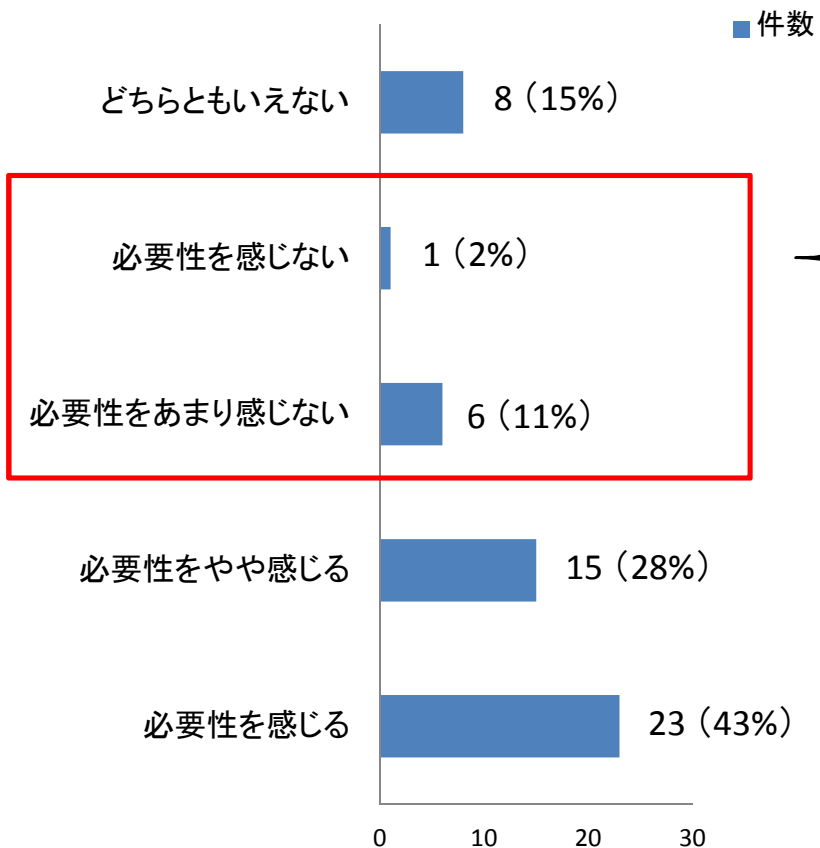


### 今後期待する連携内容(複数回答)

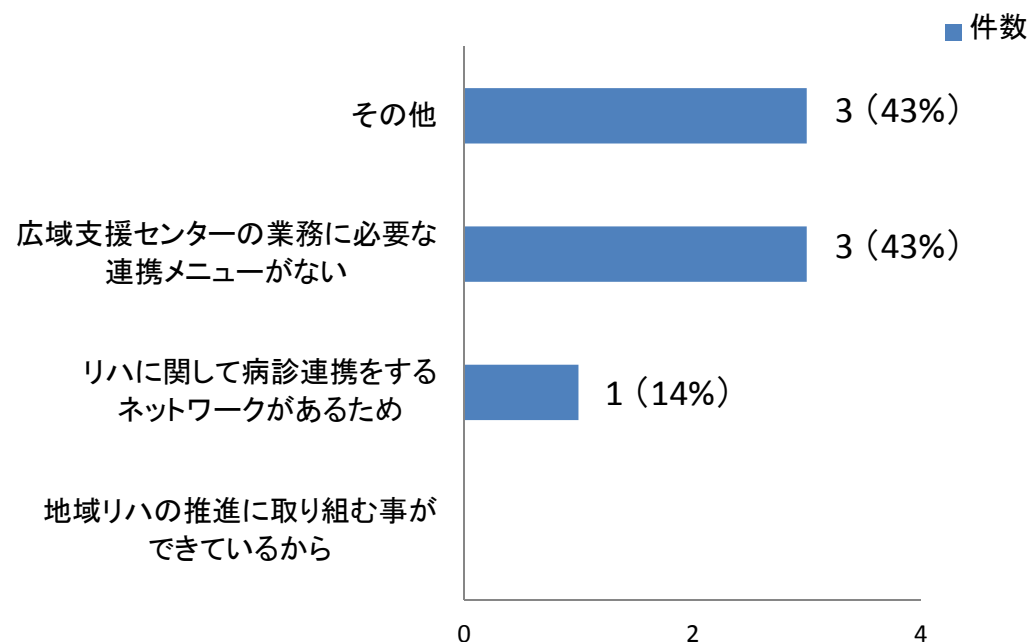


## 問4-2 広域支援センターと連携の必要性を感じない理由

### 今後の連携の必要性



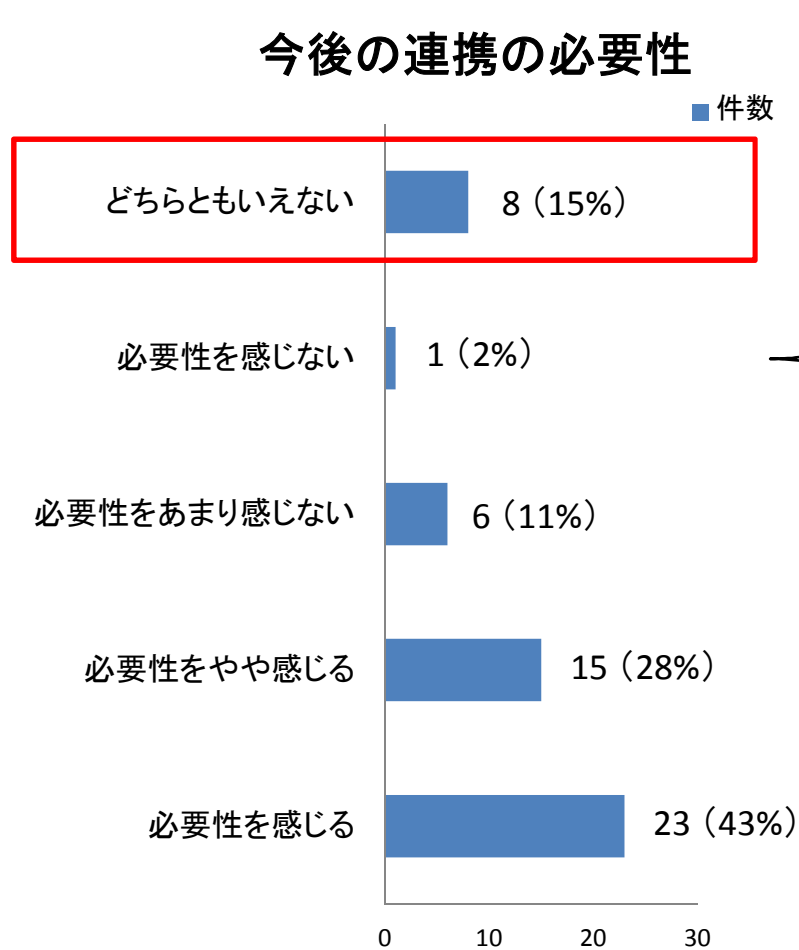
### 連携の必要性を感じない理由(複数回答)



### その他の理由

- ・良くわからない。
- ・在宅復帰できる方が非常に少ない。

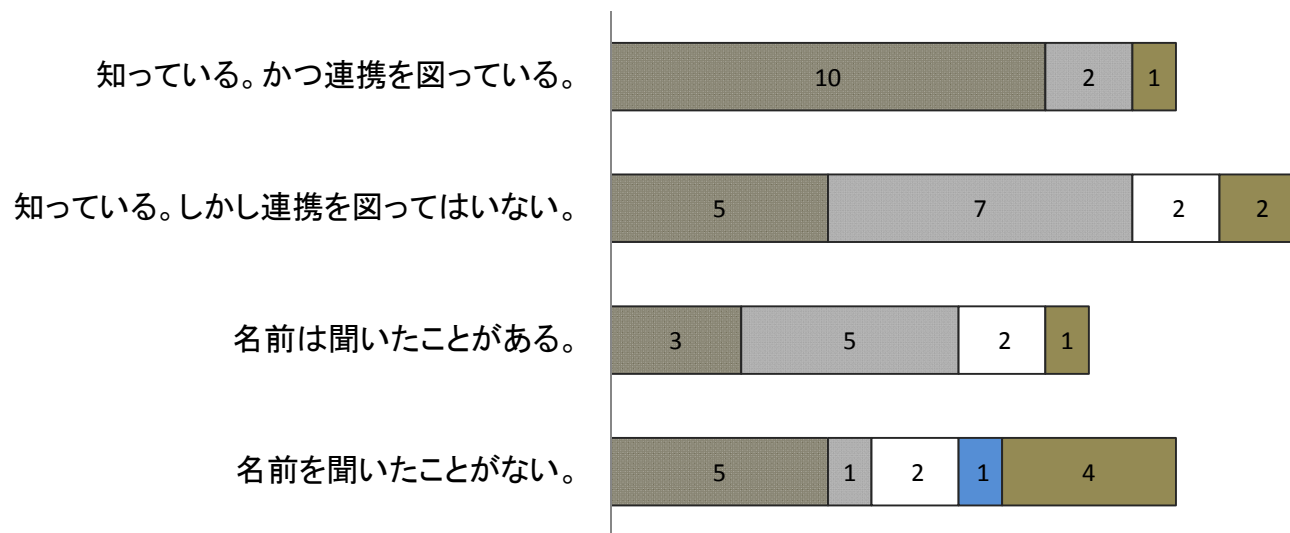
## 問4-2 広域支援センターと連携の必要性について どちらともいえない理由



### どちらともいえない理由

- ・広域支援センターの業務内容の理解が不十分のため。
- ・具体的な活動内容をまだ自身が分かっていないため。
- ・今回初めて知ったので、現状で判断しかねます。
- ・詳細の理解が不十分であるため。
- ・目的に沿った具体的な活動が分からず、かつ現有スタッフで対応可能かも不明である。
- ・リハビリに限らず、医療・介護・リハビリの連携をすることが大切と考える。当市では連携が進んでおり、圏域での連携は地域が広すぎるため、具体的なイメージが湧きづらい。広域での連携が果たして必要なのか。
- ・地域差があるので行政の協力もないと。
- ・当施設は老健であり、現在は連携は行っていない。

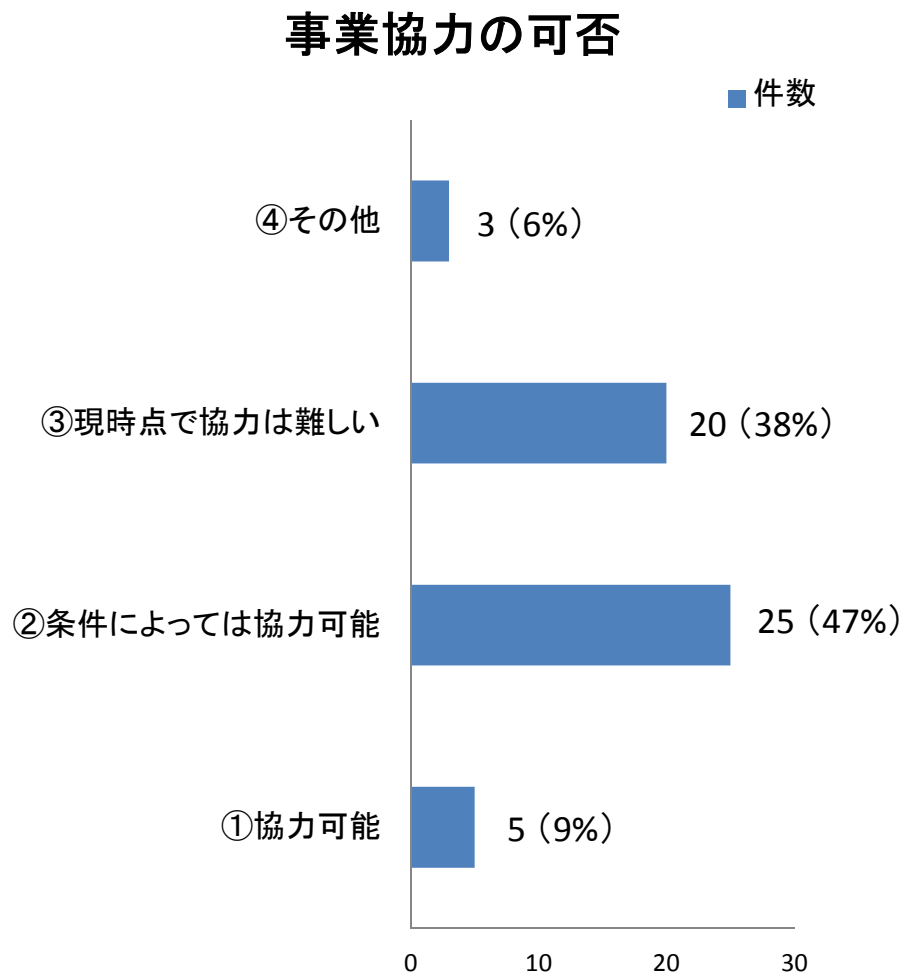
# 広域支援センターとの「現在の関係(問3)」と「今後の連携の必要性(問4)」との関連



■ ① 必要を感じる ■ ② 必要をやや感じる □ ③ 必要をあまり感じない ■ ④ 必要性を感じない ■ ⑤ どちらともいえない

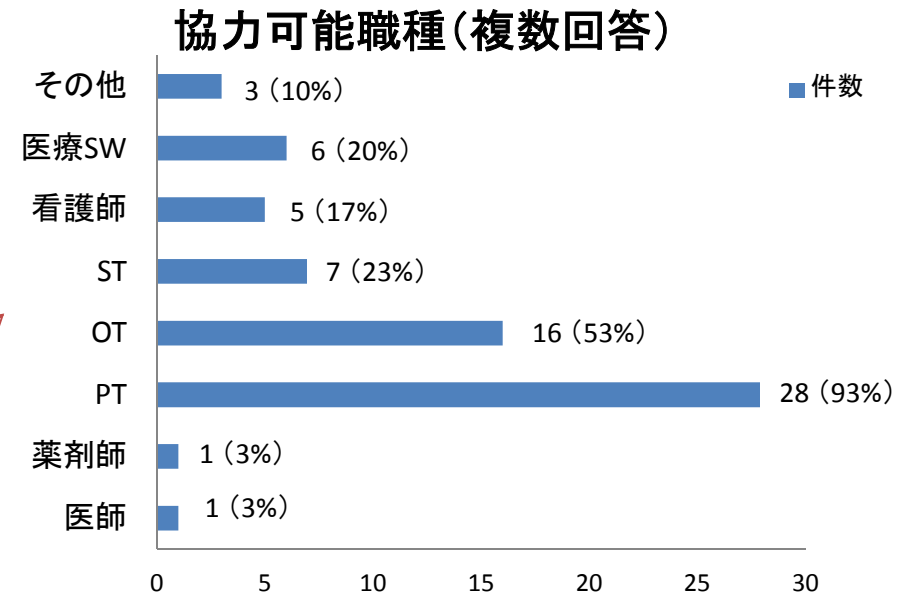
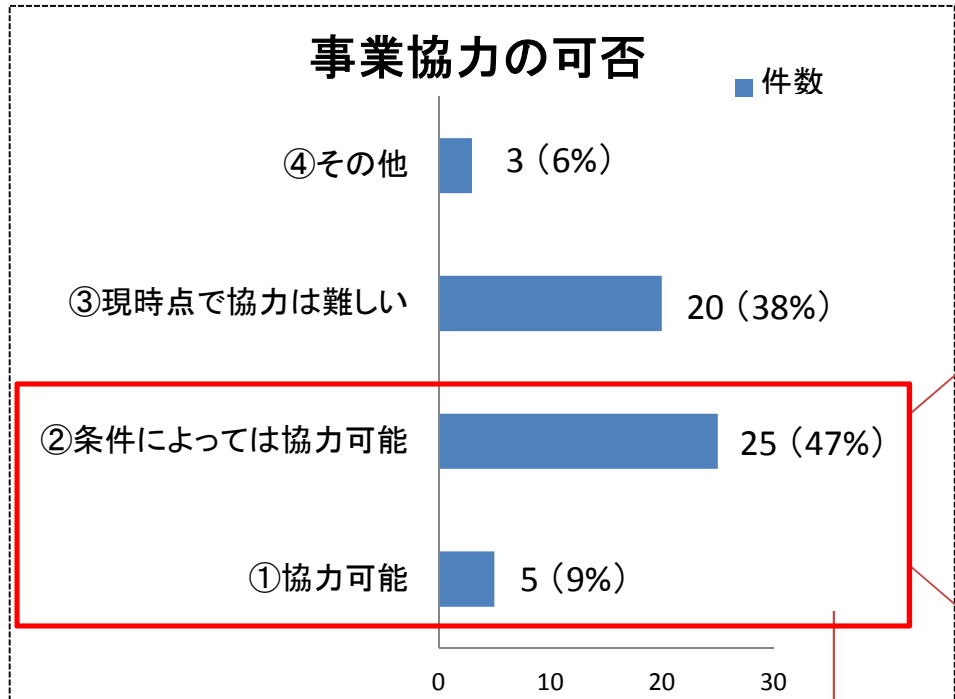
現在の関係 \ 今後の連携	① 必要を感じる	② やや必要を感じる	③ あまり感じない	④ 必要性がない	⑤ どちらともいえない	計
知っている。かつ連携を図っている	10	2	0	0	1	13
知っている。しかし、連携を図っていない	5	7	2	0	2	16
名前は聞いたことがある	3	5	2	0	1	11
名前を聞いたことがない	5	1	2	1	4	13
計	23	15	6	1	8	53

## 問5 広域支援センターが協力を依頼した場合の事業協力の可否

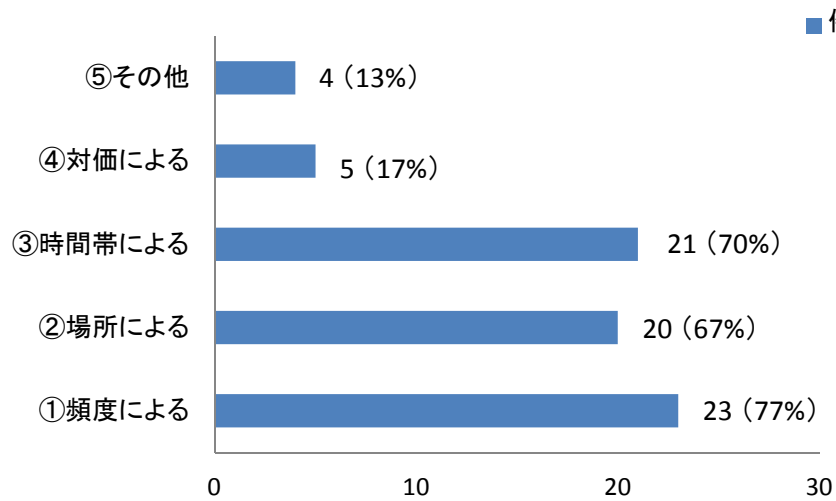


- 広域支援センターが協力を依頼した場合、介護老人保健施設の56% (30事業所)が「協力可能」、「条件によっては協力可能」と回答。

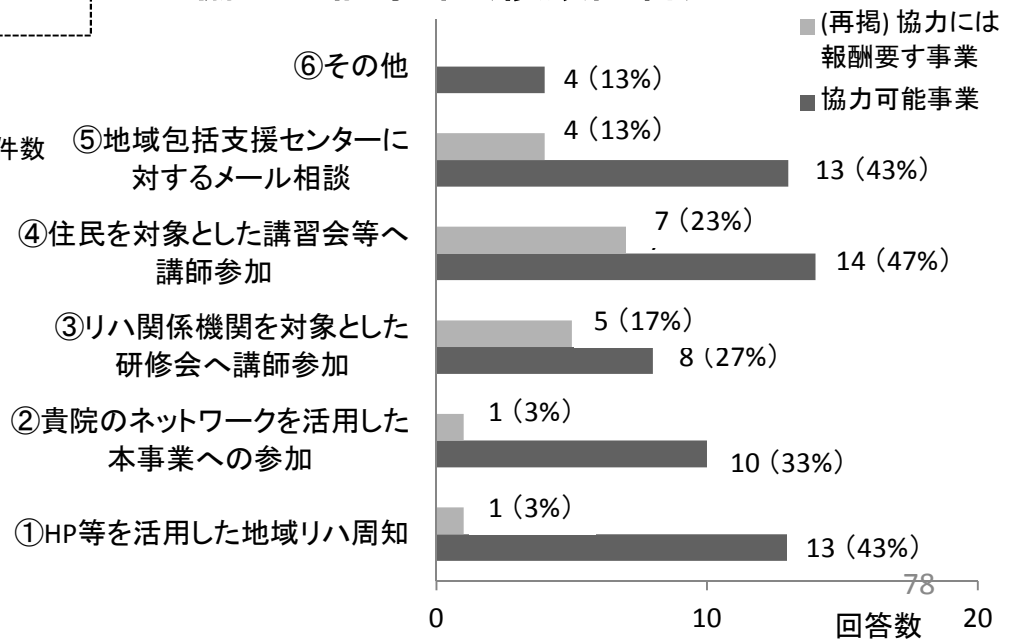
# 問5-1 事業協力の条件



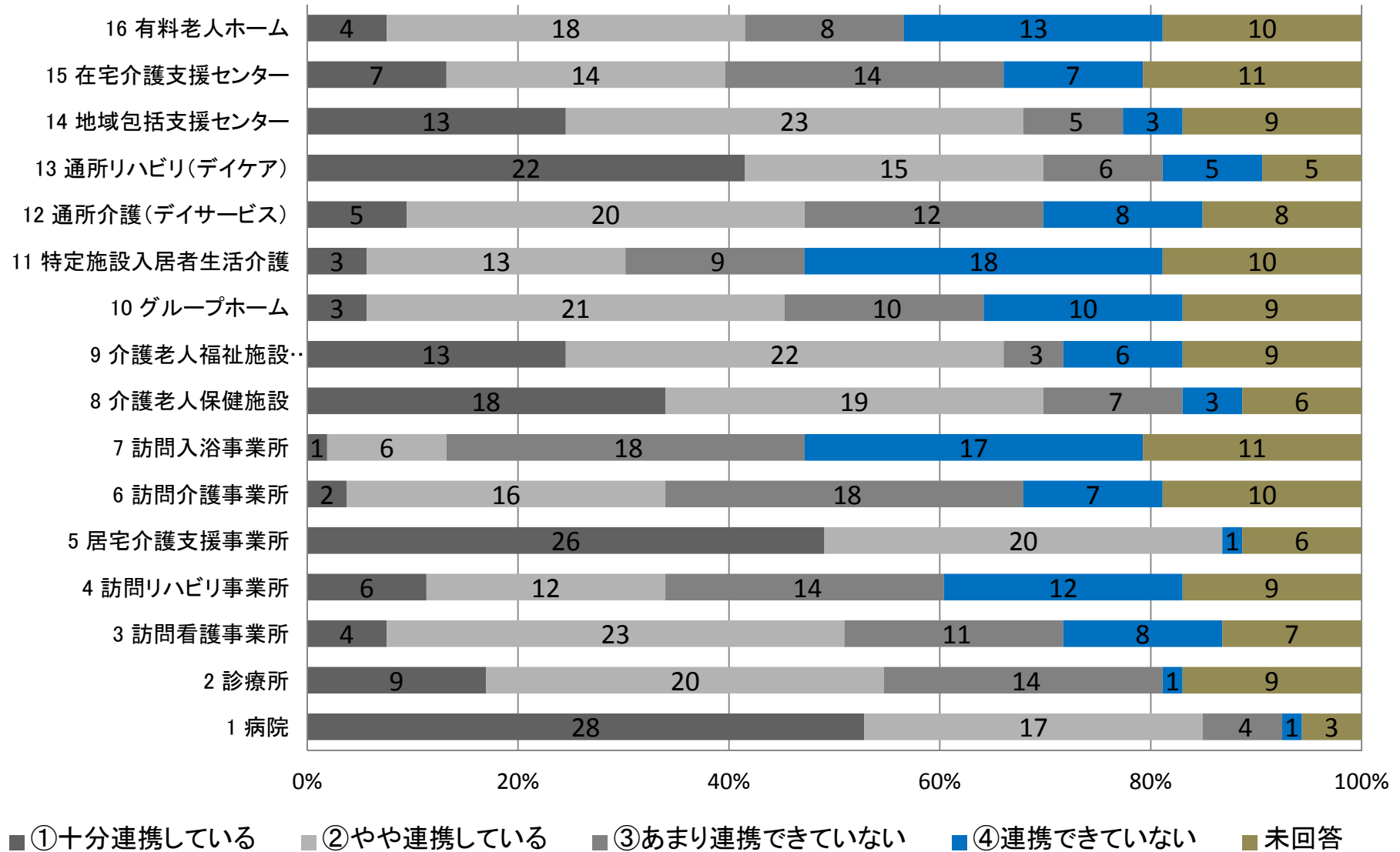
### 協力可否の条件(複数回答)



### 協力可能事業(複数回答)



## 問6 関係機関との連携状況





リハビリ関連職の所属と配置状況

※ ●: 主要な課 ▲: 関係課

※ 歯科: 歯科衛生士 看護: 看護師

Table with columns: 医療圏 NO, 市町村名, 〒, 住所, TEL, 各事業担当課, 高齢者の健康増進, 介護予防, 地域包括ケアの推進, 認知症対策の推進, 高次脳機能障害, 口腔・摂食・嚥下, PT, OT, ST, 歯科, 看護, その他, 備考. Rows list various municipalities and their respective departments and staff assignments.